ず指揮者の命に待つて進退しなければならない。然れども火勢及風位の關係上配置せられたる場所を退却する場合なきを保せず、恁かるときは傳令又は其の共同作業に從事し居る一員をして便宜司令部又は指揮者に報告する事にしなければならない。斯くして初めて火災場の秩序は維持せらるゝのである。

第八章　林野火災の消防

第一　林野火災の消防方法

消防組設置の目的を市町村の住家其の他の建造物に對する火災の警戒防禦の爲め設置せられたるものなりと誤信し、林野火災を對岸の火災視してはならない。警鐘の音と同時に熊手を腰に唐鍬擔ひて現場に駈け付けるも亦消防組員の任務である。

林野火災は其の消防方法を一歩誤らむか、火災を擴大せしめ、容易に鎮火するを得なくなる。彼の鬱蒼なる木立は變じて火の海と化し、燎火は天を焦して行く處を知らず、自然の富源は見る見る灰燼に歸し延ひては山麓若は林接の人家をも襲はるるに至るのである。

故に近時各府縣に於ては防火線の設置を奬勵し、一面愛林思想の涵養を圖り火氣取扱の注意を喚起して居るのである。されば消防組に於て林野火災に對する消防方法を研究し事ある時に備へなければならない。今玆に林野火災消防方法の二三を擧げて參考に供しやう

林野に火災發生せし時無風にして消防上活動し得べき場所なるときは、消防員は其の火先の向ふ方面に對峙し松枝又は杉枝之れなきときは適當の樹枝を以て火を叩き消すか若は鎌を以て雜草を刈り取り、急造の刈取防火線を設け若は唐鍬を以て土砂をかけ、又は鐵製熊手を以て火先の向ふ方面適當の場所に於て落葉下草を排除し、俄か造りの防火線を作るのである。併し林野の火災には多くの場合風の伴ふものであるから風位の觀測を圖り、第一線第二線と順次に大體の防火地點を定め第一線に於て防火に從事するも尙突破せられたるときは第二線に於て支持し、第二線を突破せられたるときは第三線に於て支持するが如く防禦地點を選定する事が必要である。若し燃え行く先に河川溪谷禿山等存在する場所に在りては火先を其方面に向はしめ火路を二方若は數方より縮少せしめて行き其の地點に至れば自然に鎮火せしむる方法を採用しなければならない。又作業中猛火に包圍せらるゝ事あるを以て常に道路の方向を記憶して居なければならないのである。

林野火災は火先里餘に跨り其の出場人員の如きも時に關係市町村の男女を擧げて消防に從事する場合あり、晝間の火災の如きは鎭火後歸路を失ふが如き事なきも日沒眞際より夜間に亘りての火災に在りては地利に通ずる者と雖往々歸途に迷ふことあるを以て傳令及喇叭信號の使用を忘れてはならないのである。又防火に從事する場合は多くは水の便なき處なるを以て、若干の水筒及負傷者に對する應急救護用具の携帶をも忘れてはならないのである。

林野火災は以上の如き消火上の注意を要するを以て平常に於て關係市町村に於ては山林原野の要所に里程標を建て又防火線の位置を示したる目標及湧水若は流水の位置を示したる目標を建て置くは、消防從事者に與ふる便益、蓋し尠からざるものである。

第二　林野の防火線

森林原野の防火線には堀切防火線、燒切防火線、刈開防火線及固定的防火線の區別がある是等防火線の目的は其の森林原野の全滅的延燒を豫防し或る一區劃内より發火するも其の線堺に至れば自然に鎭火せしめんとするものである。故に一の山林原野又は荒蕪地を其地域の大小地形の狀態に依りて相當數に區劃し、其の境堺に是等の防火線を設くるのである

防火線は前述の如く或る一區域内より發火するも其の境堺に至れば自然に鎭火する効力を有するものでなければならないが、此處に起る問題は防火線其のものゝ幅員である。山林原野の火災の如きは其の火舌は非常に鋭く、加ふるに風威の加はる時は火舌丈餘に及び到底幅員八尺乃至一丈の防火線にては忽ち突破せらるゝのであるから、防火線を有効に維持する方法に就ては充分なる攻究を要すべきものがあるのである。

予輩の考へとしては幅員一丈乃至一丈五尺位ひの刈開防火線を造り、其の土質に應じ成長早く比較的耐火性植物を植ゑ付け成長するに隨ひ樹枝を切り取りて樹腰を高くし、其の樹林の地上には雜木雜草を生ぜしめず、防火線的一種の防火林を施設するか若は其の土質に應じ四季に適する野菜類を植付くるは土地經濟の上より云ふも將た防火線自體の効力の上より觀るも有益なるものと思ふのである。堀内防火線、固定的防火線の如きは机上の理想論よりせば有効なるものには相異なきも、土地經濟及構造勞力の容易ならざる方面より觀て、欲して望む事が出來ないのである。併し河川に沿ひて帶形を爲し幅員狹く數里に亙り居る彼の竹林の如きものには堀内防火線又は固定的防火線は極めて有効なるものである

から、斯かる場合は之れを奬勵し、且つ堀内防火線内には榎の如き樹木を植ゑ年々其の下枝を拂ひ成長せしめて完全なる防火線とするは所謂一舉兩得の措置である。

第三　林野の火入

森林、原野、山岳又は荒蕪地に對する火入の目的は雜草を燒却するもの、或は境堺を明らかにせむとするもの、或は開墾を爲さむとするもの又は害虫の勦滅を期せむとするものなどである。而して火入を爲さむとするときは森林官吏又は警察官吏の許可を得なければならないのみならず、危險の場所に對しては相當の防火設備を施さなければならないのである。然るに往々として防火の設備不完全なりし爲め接近せる隣地に延燒せしめ又は火氣の全然消滅せざる内に其の場を立去り下山したる後再び燃え出し又は天氣模樣の豫測を誤り、火入半ばに起りし風の爲めに火先擴大し遂ひに收拾すべからざる火災を誘起したる等の事あるを以て火入を爲す場合は相當の防備と注意を怠らざる樣にし火入當日は林野火災消防に適する器具の携帶を忘れてはならない。而して火入に關しては森林官吏、又は警察官吏の指揮命令に絶對服從しなければならないのである。

第九章　雜

第一　女消防組

何れの府縣にも山又山に圍繞せられ交通不便にして邊鄙なる土地あり、男子の多くは他の地方に出稼して家には妻女が留守せる村落、及海邊若くは孤島にして男子は勿論女子に至る迄漁に海上に出でゝ家には老幼而已留守しいとけなき兒等は父母の歸りを待てるが如き漁村なども尠くはない。

如斯き漁村山村に於て一度火を失するあらむか火勢猛威を逞うするに委かせて何等爲す處を知らず、村落をして瞬く間に焦土と化せしめ再び起つ能はざるに至らしめるのである故に漁村及山村には消防組規則に依らざる自衞的私設消防組とも云ふべき女消防組なるものを設け留守せる婦女子をして消防上の智識と器具機械の取扱方法を了解せしめ、有事に備ふるは亦確かに災害防止上一半の効果はあるものとしなければならない。現に女消防組の設けあるは山形縣下酒田警察署管内の西荒瀨村及飛島と稱する日本海の一孤島の二ヶ所

である。

第二　火災保險契約の奬勵

建物及動產を使用し居るものは火災保險の契約を爲し置く事が必要である。火災保險に加入し居れば罹災の際は類燒と失火とを問はず、又其の全燒と半燒とを論ぜず、損害の塡補を受くる事が出來、安んじて高枕安臥し得らるゝのである。然るに火災保險に加入し居らざる場合一朝祝融子に呪はるることあらむか、鳥の塒を奪はれたる如く明日より路頭に彷徨はなければならない。故に建物所有者は勿論假令建物は所有し居らずとも動產卽ち家具什器機械商品等を所持し、財產保護の不安を免かれむと欲する者は須らく火災保險に加入すべきである。併し乍ら近時火災保險の發達し來りたる爲め土藏其の他の耐火性建築物漸く減少する傾向あるは止むを得ざる結果とは云へ、火災豫防上及諸般の災厄豫防上より見て憂ふべきことゝしなければならない。

北米合衆國千九百十一年の出火度數は三千以上に達して居るが怖るべきは其の火災度數中少くとも四分の一は放火に依るものにして之れが一原因は火災保險會社が格別の調査をも爲さずして實價以上に莫大なる保險金を契約するより勢ひ犯罪を誘致するに至つたもので其の證跡を發見した火災局は之が取締に關し頗る嚴重なる手段を講じて居ると云ふ事である。予は火災保險加入を奬勵する者であるが同時に又耐火性建築物の建築を奬勵したいのである。

第三　火災豫防及避難注意事項

近時各地市町村等に於て火災豫防組合を設立し、火災豫防組合契約を定め又は火災豫防事項を印刷に附し、各戸に配付するものあるは自衞上寔に有益のことであるが其の規約若くは豫防事項を一瞥するに、冬季を除き比較的火災の多き養蠶期節中に於ける注意及電氣瓦斯の需用家に對する注意及火災の原因となるべき危險物取扱上の心得並有事に處する避難方法等を缺き居るもの多きは遺憾の至りである。今左に是等に關する要項を擧げ以て參考に資したいと思ふ。

火災豫防及避難注意並危險物取扱事項

一、炬燵には必ず金網又は是に類する物を用ゆる事

二、炬燵の出火には布團を直ちに剝ぎ取らず其の上を蓆又は布團の類を以て掩ひ火焔の上昇を防ぎ置き迅速注水の方法を執る事

三、洋燈には金屬製油壺若は墜落しても油壺の破壞せざる物を使用する事

四、洋燈の墜落及顚倒に依り出火したるときは二に示す消防方法を講ずるを可とするのみならず、蓆又は布團に代ふるに土砂を撒布するも良法なる事

五、石油は引火仕易き個所日光の差込む個所及階段の下に置かざる事

六、揮發油は火氣を取扱ふ附近には決して置かざる事

七、竈は壁腰板又は屋根裏等に火氣の傳はらざる裝置を爲し、又是等と適當の間隔を保持する事

八、灰置場の構造は地害、土壁、陶器、其の他の不燃質物を以てする事

九、煙突は時々掃除を行ふ事

十、焚火を爲すときは其の場所を離れざる事

十一、風呂場の火の後始末を怠らざる事

十二、取灰は壁又は物置等の傍らに置かず庭若は畑中に置場を設け完全なる覆蓋を爲す事

十三、洋燈は就床後は可成點火せず且蚊遣は決して爲さゞる事

十四、兒童には決して火氣を取扱はしめざる事

十五、燐寸を初め其の他發火し易き物は兒童の手の屆かざる處に置く事

十六、外出するときは火鉢炬燵煖爐等の火の始末を必ず爲す事

十七、民家に於ても可成消火器を備ふる事。但し消火器には使用方法を何人にも讀み得らるゝ文字を以て容器に掲出し置くを可とす

十八、火消壺は地上に置き板の間等に置かざるは勿論割れ目の入りたるもの又は蓋の一部分破壞したるが如きものは決して使用せざる事

十九、煙突にして烈風等の夜熾んに火の子を吹き出すを見るときは其の最下部を塞ぐ事

二十、煙草の吸殼は必ず火鉢に投じ庭先塞所等に捨てざる事

二十一、薪炭其の他燃質物の置場は火氣取扱の場所より相當の距離を保有する事

二十二、標燈には可成電氣若は瓦斯を使用する事

二十三、家屋及納屋物置等の軒下に藁麥殼干草等の類を積み置かざる事

二十四、神佛に奉る燈明及蠟燭を點じたる儘就寢せざる事

二十五、提灯を點けて土藏、物置、味噌藏、文庫藏等に入り其の歸りに之を置き忘るゝことなき樣注意する事

二十六、餅搗、味噌焚の際は火に對する監守者を必ず置く事

二十七、田舍に於ては竈の上部天井に干草糯藁等を保存する惡き習慣あるも之は廢止する事

二十八、祭典盆等に於て提灯を軒下に吊すときは軒下と相當の間を置き蠟燭の芯より提灯に燃移りても軒に移火せざるやうする事

二十九、生石灰は濕氣のある所雨雪のかゝる處に置かざる事

三十、水利の不便なる處に在りては貯水池を設くる事

三十一、汽車沿線に在る家屋に在りては屋上を不燃物を以て覆葺する事

三十二、火の子を豫防する爲めに二階若は屋上に水桶を設備する事

三十三、家屋を建築するときは肝心なる處の壁は可成防火壁的に構造する事

三十四、屋上に昇り得べき長さの梯子を備へ置く事

三十五、銀行、會社、學校、病院、工場、劇場、寄席、活動寫眞館、勸工場、大商店及官公署に於ては可成自衛消防用として腕用喞筒又は私設消火栓を設備する事

三十六、避雷針は必ず一年に一回檢査を行ふ事

三十七、活動寫眞を民家に於て行ふは危險なるを以て可成之を行はざる事

三十八、隣家に火災發生したるときは窓を閉鎖する事

三十九、箕又は古筵等に土砂を入れ洋燈の墜落顚倒等に備ふる事

四十、家屋を建築する場合は火災豫防上の施設に注意を及ぼす事

四十一、家屋を建築するには可成水利の便ある處を選定する事

四十二、借家する場合は水利及火災地震等の場合に容易に家財を搬出し避難し得る處を選ぶ事

四十三、火災の際は家財道具は其の風上に搬出する事

四十四、煙火は縱令玩弄花火と雖家の附近にて揚げしめざる事

四十五、火藥の裝藥し有る彈丸其の他の火工品は專門家の鑑定を受けずして濫りに分解せざる事

四十六、製絲場紡績工場其の他諸工場に於て使用する機械には常時注油に怠らざる事

四十七、圖書館の如きは學術技藝の參考となるべき書籍の收藏所なるを以て適當の消防設備を爲す事

四十八、牛乳搾取所牧場に在りても防火設備を怠らざる事

四十九、煉瓦造の建物の壁外に金屬製の鈎に類するものを出しあるものあるが隣家の火災の場合熱の傳導して發火することあるを以て突出せしめざる事

五十、二階以上の建物に在りては避難梯子又は之に代ふる設備を爲す事

五十一、小兒は可成炬燵に寢かさゞる事

五十二、劇場、寄席、活動寫眞館、勸工場、紡績工場、製絲工場、其の他の工場に在りては非常口は何時たりとも容易に開き得る樣に爲し置き障害物を置かざる事

五十三、火藥類は決して兒童に取り扱はしめざる事

五十四、二階を以て生活の本據地とし居る者は致方なきも左なき者は可成二階には寢ざる事

五十五、家屋の周圍には可成樹木を植栽する事

五十六、烈風の日は特に警戒し空桶等には水を汲み置く事

五十七、火を失したるときは姑息の防火に出でず大聲を發して附近の者の來援を乞ふ事

五十八、生繭の乾燥場の防火設備には深甚なる注意を拂ひ其の道の者に檢査を受けたる後にあらざれば使用せざる位に留意する事

五十九、發蠶時の採暖に付ては一層の注意を拂ひ充分なる容器及防火設備を爲す事

六十、紙帳の傍ら及「モズ」等の傍らには斷じて洋燈を釣さゞる事

六十一、繭の乾燥を爲すときは必ず監守人を附すること。若し家人少くして之を附すること能はざるときは日當を拂ふ他人を雇入れても是に充つる位に注意を要する事

（大正七年六月より同年九月末日に至る四ヶ月間に山梨縣下に於て乾燥室より發火したる火災庚數七回其の損害見積金額壹萬七百四拾九圓である。注意しなければならないことである。）

六十二、瓦斯線と電燈線を接觸せざる樣注意する事

六十三、屋内より發火せし場合は引込口に在る遮斷器を使用して送電を謬つ事

六十四、電燈の開閉には必ず所謂笠を持ちて開閉器を使用する事

六十五、コードの表皮の剝離したる兩線接觸するときは火を發することあるを以て之を接觸せざることに注意する事

六十六、電柱等の變壓器より火花を發する場合は會社又は散宿所若は警察官廳に通知する事

六十七、コードに濡手拭、ハンカチーフ等の類を懸けざる事

六十八、電燈の玉をハンカチーフ又は手拭若は紙等を以て包み其の下に於て讀書する者あるも是は危險なるを以て爲ざる事

六十九、コードを懸けるには必ず木の玉に附しある鈎を用ひコードを直接釘等に懸けざる事

七十、火災の際燒き切れたる電線にして送電を斷たざるものは最も危險なるを以て決して之に觸れざる事

七十一、電線路の附近に於て小兒をして凧を揚げしめざる事

七十二、高壓線等に他物を立て掛け又は無邪氣に手を觸るゝが如きあらむか感電して即死するを以て如此ことは決して爲ざる事

七十三、瓦斯の漏洩し居る虞ある室内に入らむとするときは戸又は窓を開き姑く立ちてから侵入する事

七十四、侵入の際は決して火氣を携帶せざる事

七十五、アセチリン瓦斯の發生器の附近に於て火器を取扱ふときは移火して爆發するを以て注意する事

七十六、アンモニヤの瓦斯管は時に破裂することあるを以て之を壓搾する製造所に於て完全なる管を用ふるは勿論運搬の際は擊突動搖を與へざる樣注意する事

七十七、火災水災は勿論其の他の災厄には多くは人命上の危險を伴ふから災後の憂ひなき樣可成火災保險生命保險又は傷害保險に加入する事

七十八、公衆電話の有る家に在りては其の所轄警察官署、消防署、消防出張所、警部補派出所、巡査派出所、巡査駐在所、消防組頭、消防部長宅等の公衆電話番號を電話口の見易き所に揭記し、火災其の他苟も警察官署又は消防組の電話に爲るべきことの發生したるとき容易に通話し得る樣に爲し置く事

消防提要 終

附錄

一　腕用喞筒操法

第一章　總則

第一條　本操典ハ腕用喞筒ニ於ケル機械ノ使用及動作ニ熟達セシムルヲ目的トス

第二條　腕用喞筒ノ運用ハ三名ノ消防員及六名若クハ八名ノ搖桿手ヲ以テ一隊ヲ編成シ之ヲ行フヲ例トス

第三條　本操典ニ於テ甲號喞筒ト稱スルハ佛蘭西式喞筒ヲ謂ヒ乙號喞筒ト稱スルハ獨逸式喞筒ヲ謂フ

第四條　本操典ニ於テ前後ト稱スルハ喞筒及其ノ車輪ノ前後ノ位置ヲ謂ヒ左右ト稱スルハ喞筒及其ノ車輪ノ後方ニ在リテ之ニ對スル左右ノ方後ヲ謂フ

第五條　本操典ニ於テ消防員ノ喞筒車ニ對スル定位ト稱スルハ左ノ位置ヲ謂フ

一、第一消防員ノ定位ハ左方車輪ノ延線上ニ於テ後方輪帶ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テタル位置トス

二、第二消防員ノ定位ハ轅木ノ右方ニ於テ轅臂ニ正面シ轅木及轅臂トノ間各約二寸ノ距離ヲ距テタル位置トス

三、第三消防員ノ定位ハ轅木ノ左方ニ於テ轅臂ニ正面シ轅木及轅臂トノ間各二寸距離ヲ距テタル位置トス

第六條　本操典ニ於テ消防員ノ喞筒ニ對スル定位ト稱スルハ左ノ位置ヲ謂フ

一、第一消防員ノ定位ハ前方搖桿ノ延線上ニ於テ前方喞筒臺盤ニ正面シ約五寸ノ距離ヲ距テタル位置トス

二、第二消防員ノ定位ハ喞筒ノ右側ニ於テ吸口ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テタル位置トス

三、第三消防員ノ定位ハ喞筒左側ニ於テ放口ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テタル位置トス

第七條　本操典ニ於ケル動作ハ巡査點檢規則ノ規定ニ準シ之ヲ行フ但シ各本條ニ於テ特別ノ規定アル場合ノ外ハ其

ノ行進ノ步度ハ速步トス

本操典ニ於ケル號令ニシテ予令及動令ノ區分アルモノニ付テハ予令ハ聲音高ク明瞭ニ動令ハ最モ快活ニ發唱シ其ノ間適當ナル時間ヲ存スルモノトス

第八條　甲號及乙號ニ非ラサル他ノ腕用喞筒ノ操法ハ第二章及第三章ノ規定ヲ準用ス

第九條　本操典ニ依リ消防員ニ對シ喞筒ノ操練ヲ爲スニハ各消防員ノ順位ヲ順次交換シ三回ヲ以テ各動作ノ練習ヲ一周スルモノトス

第十條　前條ノ規定ニ依リ消防員ノ順位ヲ交換スルニハ『位置ヲ換ヘ——』ノ號令ヲ用ユ

第二章　甲號喞筒操法

第一節　喞筒車操法

第一　喞筒車運搬準備

第十一條　喞筒車運搬ノ準備ヲ爲スニハ先ツ消防員及搖桿手ヲシテ車後ニ整列セシムルモノトス

車後整列ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

『集マレ——』

此ノ集合命令ニハ三名ノ消防員ハ駈步ニテ速ニ車輛ノ後方約六尺ノ距離ヲ距テタル一線上ニ集マリ第一消防員ハ右方車輪ノ延線上ニ第二消防員ハ搖桿ノ延線上ニ第三消防員ハ左方車輪ノ延線上ニ在リテ車尾ニ正面シテ位置ス搖桿手ハ二列横隊ニ編成シ其前列ハ消防員ノ整頓線後方約三尺後列ハ前列ノ後方約二尺四寸ノ距離ヲ距テタル一線上ニ於テ前列右翼首位者ハ消防員ノ右翼首位者ニ後列ノ右翼首位者ニ正シク重リ他ハ各其左側ニ列シ消防員ト同一方向ニ位置ス

集合終レハ消防員及搖桿手ハ『氣ヲ付ケ』ノ號令ニ依リ速ニ正面ニアリテ右ヨリ左ニ番號ヲ付ケ番號ヲ付シ終レハ消防員及搖桿手『右ヘ——準ヘ』及『直レ』ノ號令ニ依リ各其ノ一線上ニ整頓スルモノトス搖桿手整頓終レハ『休メ——』ノ姿勢ヲ取リ

『進メ』ノ號令ヲ待ツ

『進メ』ノ號令アリタルトキハ前列員ハ前方搖桿ニ後列員ハ後方搖桿ニ於ケル木梃ニ就クモノトス

喞筒ノ位置變換其他ノ場合ニ於テ必要アルトキハ搖桿手ヲ適宜ノ地ニ移スモノトス

第十二條　前條ノ規定ニ依リ車後整列ヲナシタル消防員ヲシテ喞筒車ニ對スル定位ニ就カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

定位ヘ——進メ

『進メ』ノ號令ニテ第一消防員ハ半左向ヲナシテ行進シ左方車輪ノ延線上ニ至リ半右向ヲナシテ定位ニ第二消防員ハ右向ヲナシテ行進シ右方車輪ノ延線ヲ通過シ左向ヲナシテ前進シ前方喞筒臺盤ノ延線上ニ至リ半左向ヲ爲シ更ニ前進シテ定位ニ第三消防員ハ左足ヲ一步左方前面ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケツヽ正面ニ進行シ前方喞筒臺盤ノ延線上ニ至リ半右向ヲ爲シ更ニ前進シテ定位ニ就ク

第十三條　消防員喞筒車ニ對スル定位ニ在ルトキ之ヲ車後ニ整列セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

『進メ』ノ令ニテ第一消防員ハ右向ヲ爲シ更ニ半右向ヲ爲シツヽ行進シ右方車輪ノ延線上ニ至リ左ニ回轉シツヽ正面向ヲ爲シ車後整列位置ニ就ク第二消防員ハ右向ヲ爲シ更ニ半右向ヲ爲シツヽ進行シ前ノ喞筒臺盤ノ延線上ニ至リ半右向ヲ爲シテ前進シ整頓線上ニ於ケル第一消防員ノ左方ヲ通過シ直ニ右向ヲ爲シツヽ前進シ第一消防員ノ背後ヲ通過シ右向ヲ爲シテ正面向ヲ爲シ右ニ準フテ車後整列ノ位置ニ就ク

第三消防員ハ左向ヲ爲シ更ニ半北向ヲ爲シツヽ行進シ前方喞筒臺盤ノ延線上ニ至リ半左向ヲ爲シテ前進シ後方喞

筒舉盤ノ延縡上ニ至リ半左向ヲ爲シ更ニ前進シテ第二消防員ノ左方ニ至リ左ニ回轉シツヽ正面向ヲ爲シ右ニ準フテ車後整列ノ位置ニ就ク

第十四條　消防員喞筒車ニ對スル定位ニ在ルトキ車頭ヲ髖骨ノ高サニ扛ケシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

轅木――扛ケ

『扛ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ其ノ儘停立ス第二及第三消防員ハ共ニ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ兩掌ヲ下ニシ其ノ間約三寸ノ間隔ヲ取リテ轅臂ヲ握リ同時ニ上體ヲ起シテ之ヲ髖骨ノ高サニ扛ク

第十五條　車頭ヲ髖骨ノ高サヨリ地上ニ置カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

轅木――置ケ

『置ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ其ノ儘停立ス第二及第三消防員ハ共ニ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シツヽ靜カニ車頭ヲ地上ニ置キ直チニ上體ヲ起シテ停立ス

第二　喞筒車方向變換及行進

第十六條　喞筒車ノ方向變換及行進ノ動作ハ消防員ナシテ第十四條ノ姿勢ヲ取ラシメタル後之ヲ開始スルモノトス

第十七條　喞筒車ヲ右ニ向カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒右へ――進メヽ、止マレ

『右へ』ノ令ニテ第一消防員ハ右手ヲ擧ケ其ノ掌ヲ前方ニ向ケ水槽ノ左方後弧部ヲ握ル

『進メ』ノ令ニテ第二及第三消防員右足ヨリ半右方ニ進ミツヽ右方ニ旋廻ス第一消防員モ亦之ニ準フ

『止レ』ノ令ニテ右消防員停立シ第十四條ノ姿勢ニ復ス

『止レ』ノ令ハ車輛ノ將ニ右向ヲ爲サムトスルトキ之ヲ下スモノトス

第十八條　喞筒車ヲ左ニ向カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒左へ――進メヽ、止レ

『左へ』ノ令ニテ第一消防員ハ右手ヲ擧ケ其掌ヲ前方ニ向ケ水槽ノ左方後弧部ヲ握ル

『進メ』ノ令ニテ第二及第三消防員ハ左足ヨリ半左方ニ進ミツヽ左方ニ旋廻ス第一消防員モ亦之ニ準フ

『止レ』ノ令ニテ各消防員停立シ第十四條ノ姿勢ニ復ス

『止レ』ノ令ハ車輛ノ將ニ左向ヲ爲サムトスルトキ之ヲ下スモノトス

第十九條　喞筒車ヲ半右(左)ニ向カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒半右(左)へ――進メヽ、止レ

前項ノ動作及『止レ』令ハ前二條ニ示セル方法ニ準シ之ヲ行フモノトス

第二十條　喞筒車ヲ背面ニ向カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒半輪ニ右へ――進メヽ、止レ

前項ノ動作ハ第十七條ニ示セル方法ニ準シ之ヲ行フモノトス

『止レ』ノ令ハ喞筒ノ將ニ背面向ヲ爲サムトスルトキ之ヲ下スモノトス左轉スルニ非ラサレハ喞筒車ヲ背面ニ向カシムルヿ能ハサル場合ハ『喞筒半輪ニ左へ――進メヽ、止レ』ノ號令ヲ以テシ第十八條ニ示セル方法ニ準ヒ之ヲ行フモノトス『止レ』ノ號令ヲ下スハ前項右轉背面向ノ場合ニ同シ

第二十一條　喞筒車ヲ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒前へ――進メ

『前へ――』ノ令ニテ第一消防員ハ右手ヲ擧ケ其ノ掌ヲ前方ニ向ケ水槽ノ左方後弧部ヲ握リ『進メ』ノ令ニテ各消防員同時ニ左足ヨリ行進ヲ始ム

第二十二條　喞筒車行進間其ノ方向ヲ右(左)向ニ變換スルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒右(左)ヘ——進メ、前ヘ

『進メ』ノ令ニテ五歩弧狀ヲ畫キテ右(左)向ヲ爲シ『前ヘ』ノ令ニテ新方向ニ前進ス

第二十三條　喞筒車行進間其ノ方向ヲ半右(左)向ニ變換スルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒半右(左)ヘ——進メ、前ヘ

前項ノ動作ハ前條ニ示セル方法ニ準シ之ヲ行フモノトス

第二十四條　喞筒車行進間其ノ方向ヲ背面向ニ變換スルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒半輪ニ右ヘ——進メ、前ヘ

『進メ』ノ令ニテ第二十條ニ示セル方法ニ準ヒ背面向ヲ爲シテ前進ス

『前ヘ』ノ令ハ喞筒ノ將ニ背面ニ向ハムトスル時之ヲ下スモノトス

第二十五條　喞筒車ノ行進ヲ停止スルニハ左ノ號令ヲ下ス

『止レ——』

此ノ號令ニテ各消防員停止シ第十四條ノ姿勢ヲ取ル

第二十六條　喞筒車ヲ後退セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒後ヘ——進メ

『後ヘ——』ノ令ニテ第一消防員ハ左足ヲ一歩右方前面ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケツヽ正面ニ行進シ前方喞筒臺盤ノ延線ト左方車輪ノ延線トノ交叉點ニ至リ右回轉ヲ爲シテ停立シ左手ヲ擧ケ其ノ掌ヲ後方ニ向ケ水槽ノ左方前弧部ヲ握ル

第二消防員ハ左手ヲ放チ再ヒ轅臂ヲ逆ニ握リ右手ヲ放チ右足ヲ一歩廣ク右方前面ニ開キ右足小大ニテ左回轉ヲ爲シツヽ左掌中ニ轅臂ヲ滑走セシメ左足ヲ右足ニ引着ケ更ニ右足ヲ一歩右方ニ開キ左足ヲ之ニ引着ケテ停立シ兩掌

ヲ下ニシテ其間約三寸ノ間隔ヲ取リテ右轅臂ヲ握ル

第三消防員ハ第二消防員ノ動作ニ準シ右左反對ノ動作ヲ爲シ終テ兩手ニ左轅臂ヲ握ル

『進メ』ノ令ニテ各消防員同時ニ左足ヨリ行進シ喞筒ヲ直線ニ後退セシム

第二十七條　前條後退ノ姿勢ニ在ル時正面行進ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

定位ヘ——進メ

『進メ』ノ令ニテ各消防員前條ニ示セル方法ニ準シ左右反對ノ動作ヲ爲シ喞筒車ニ對スル定位ニ就キ第十四條ノ姿勢ヲ取ルモノトス

第二節　喞筒操法

第一　喞筒下車法

第二十八條　喞筒ヲ下車セシムルニハ先ツ各消防員ヲ喞筒車ニ對スル定位ニ就カシメタル後順次左ノ號令ヲ下ス

一、喞筒卸方——始メ

『始メ』ノ令ニテ第一消防員ハ左足ヲ一歩廣ク左方前面ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケツヽ正面ニ行進シ車輛ノ左方ニ於テ第三消防員ノ通路ノ外側ヲ經テ轅臂ノ延線ヲ通過シ右向ヲ爲シ轅木ノ延線上ニ至リテ停立シ右向ヲ爲シテ喞筒ニ正面シ轅臂ト約五寸ノ距離ヲ距テヽ位置ス

第二消防員ハ右向ヲ爲シ更ニ半右向ヲ爲シツヽ行進シ前方喞筒臺盤ノ延線上ニ至リ更ニ半右向ヲ爲シテ前進シ車輛ノ右側ニ沿フテ錠前ニ至リテ停立シ右向ナナシテ之ニ正面シ約五寸ノ距離ヲ距テヽ第三消防員ト相對立ス

第三消防員ハ左向ナナシ更ニ半左向ナナシツヽ行進シ前方喞筒臺盤ノ延線上ニ至リ更ニ半左向ナナシテ前進シ車輛ノ左方ニ於テ第一消防員ノ通路ノ內側ヲ經テ鎖匙前ニ至リテ停立シ左向ナナシテ之ニ正面シ約五寸ノ距離ヲ距テヽ第二消防員ト對立ス

二、鎖ヲ――解ケ

『解ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ左足ヲ一歩轅臂内ニ開キ其脚ヲ屈シ右脚ヲ伸ハシ上體ヲ俯シ右手ニテ鎖ヲ第一轅鉤ヨリ外シ兩手ニテ之ヲ轅木及梯子ヨリ解キ上體ヲ起シツヽ其中央部ヲ搖桿臺盤ノ鉤ニ掛ケ終テ左足ヲ右足ニ引着ケツヽ體ヲ起シ元ノ姿勢ニ復シテ停立ス

第二消防員ハ第三消防員ヨリ左手ニテ錠ノ中央部ヲ受ケ直ニ之ヲ起シ右手ニテ鎖匙ヲ錠ノ上面ニ直シ左手ノ錠ヲ右手ニ持換ヘ之ヲ倒シテ右方車臺ノ鉤ニ掛ケ一歩右方ニ移リ車轂ニ正面シ約五寸ノ距離ヲ距テヽ停立ス

第三消防員ハ先ツ左手ニテ鎖匙ヲ把リ右足ヲ一歩廣ク右方前面ニ開キ同時ニ錠ヲ起シテ之ヲ第二消防員ニ渡シ次ニ上體ヲ俯シ右脚ヲ屈シ左脚ヲ伸ハシ右掌ヲ上ニシ梯子ノ第一棧ノ中央ヲ握リテ少シク引出シ更ニ左手ヲ伸ハシ其掌ヲ上ニシ側木ニ加ヘ左足ヲ右足ニ引着ケ梯子ヲ車臺ノ下ヨリ引出シツヽ右足ヨリ横歩後退シ梯子ノ全ク車臺下ヲ出テタルトキ左向ヲナシ其儘梯子ヲ水平ニ把持シ半左向ヲナシテ前進シ後方喞筒臺盤ノ延線ヨリ一歩前方ニ於テ車臺ノ左側ヨリ約七尺ノ距離ヲ距テタル地ニ至リ右向ヲナシ更ニ半右向ヲナシツヽ左足ヲ一歩左方ニ開キ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ梯子ヲ車臺ト平行セシメテ鈎頭ヲ後方喞筒臺盤ノ延線上ニ置キ上體ヲ起シ左足ヲ右足ニ引着ケツヽ半右向ヲナシ直ニ鈎頭ヲ經テ左向ヲナシテ前進シ車轂前ニ至リ半右向ヲナシ之ニ正面シ約五寸ノ距離ヲ距テヽ第二消防員ト相對シテ停立ス

三、轅木――扛ケ

『扛ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ兩掌ヲ下ニシ其間約六寸ノ間隔ヲ取リテ轅臂ノ左右ヲ握リ上體ヲ起シテ之ヲ體骨ノ高サニ扛ク

第二及第三消防員ハ兩掌ヲ下ニシ其間約二尺ノ間隔ヲ取リテ水槽緣ヲ握リテ之ヲ壓ス

四、車頭――扛ケ

『扛ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ兩手ヲ伸ハシツヽ徐々ニ車頭ヲ扛ケ靜カニ車尾ヲ地上ニ達セシメ直ニ左足ヲ一歩前方ニ開ク共ニ左掌ヲ下ニシ喞筒臺盤止ノ斜面前ニ加ヘ更ニ右足ヲ一歩左足ノ右方前面ニ開ク共ニ轅木ヲ右肩ニ擔ヒツヽ右掌ヲ下ニシ喞筒臺盤止ニ加ヘ上體ヲ稍前方ニ傾ケテ之ヲ支持ス第二第三消防員ハ第一消防員ノ車頭ヲ扛クレハ直ニ車尾ノ方向ニ位セル足ヲ一歩左(右)方ニ開キ喞筒ノ顛覆ヲ防ク爲メ兩手ヲ以テ喞筒ヲ壓ス

五、車ヲ除レ――

此ノ號令ニテ第一消防員ハ轅木ヲ擔ヒタル儘右足ヨリ順次ニ後退シツヽ喞筒ヲ地上ニ卸シ更ニ其儘後退シテ車輛ヲ喞筒ノ前方約七尺ノ位置ニ引出シテ停立シ右足ヲ一歩左足後方ニ開キ半右向ヲナシツヽ轅木ヲ右肩ヨリ下シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ靜カニ車頭ヲ地上ニ置キテ上體ヲ起シ右足ヲ左足ニ引着ケツヽ左向ヲナシテ行進シ前方車臺ノ延線上ニ至リ半右向ヲナシ車輛ノ右側ニ沿フテ前進シ後方車臺ノ延線ヲ通過シ右向ヲナシ車尾ノ中央ニ至リ右向ヲナシ約五寸ノ距離ヲ距テヽ之ニ正面シテ停立シ左手ニテ匣蓋ヲ開キ右手ニテ三箇ノ給合環螺旋回ヲ把持シ左手ニテ匣蓋ヲ閉チ右回轉ヲナシ更ニ前進シ喞筒ニ對スル定位ニ就キ其一個ヲ左手ニ移シ右手ヲ前方ニ伸ハシ第二及第三消防員ヲシテ各其一個ヲ取ラシメ次ニ左手ニ移シタル他ノ一個ヲ右手ヲ復シ他ノ消防員ト同時ニ兩手ニテ之ヲ左腰ニ佩フ第二第三消防員ハ喞筒ノ降ルニ從ヒ上體ヲ俯シテ之ヲ押ヘ喞筒全ク地上ニ下レハ直ニ體ヲ起シテ左(右)足ヲ引着ケ兩手ヲ放チ各自喞筒ニ對スル定位ニ就キ第一消防員ノ前方喞筒臺盤前ニ來ルヲ待チ各右手ヲ前方ニ伸ハシ結合環螺旋回ノ一個ヲ第一消防員ヨリ受ケ第一消防員ト同時ニ兩手ニテ之ヲ左腰ニ佩フ

第二　喞筒位置變換

第二十九條　喞筒位置變換ノ動作ハ先ツ消防員ヲ喞筒ニ對スル定位ニ就カシメタル後之ヲ開始スルモノトス

第三十條　喞筒ノ方向ヲ右ニ向ハシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒右ヘ——進メ、止レ

『右ヘ』ノ令ニテ第一消防員ハ半左向ヲ爲シ更ニ左足ヲ一歩廣ク前方ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケ右ニ回轉シツヽ右方前鐵把ニ對シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右手ニテ前鐵ヲ搖桿臺盤ノ鉤ヨリ外シ上體ヲ起シ右掌ヲ上ニシ其中央ニ左掌ヲ下ニシテ其端末ヲ握リ右手ヲ伸ハシ左肘ヲ脇ニ着ケ左足ヲ一歩右足ノ後方ニ開キツヽ左回轉ヲナシ左脚ヲ屈シ右脚ヲ伸ハシ鐵ヲ喞筒ト直角ナラシム

第二消防員ハ其位置ニ在テ兩掌ヲ下ニシ其間約一尺五寸ノ間隔ヲ取リテ搖桿上ニ之ヲ置ク

第三消防員ハ一歩右方ニ移リテ左方後鐵把ニ對シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立シ第一消防員ノ動作ニ準シ左方後鐵ヲ兩手ニ握リ喞筒ト直角ナラシムル爲第一消防員ニ對シ反對ノ方向ニ面シ同一ノ姿勢ヲ取リ進メノ令ニテ第一及第三消防員ハ同時ニ行進ヲ始メ其行進間ハ鐵ト喞筒トノ直角ヲ保持セシメツヽ右方ニ弧狀ヲ畫キテ前進シ喞筒ヲ右方ニ向ハシム

第二消防員ハ兩手ヲ以テ喞筒ヲ壓シ其顚倒ヲ防キ喞筒ノ方向ヲ變ユルニ從ヒ右向ヲ爲ス

『止レ』ノ令ニテ各消防員一齊ニ停立シ第一及第三消防員ハ鐵ヲ鉤ニ掛ケ第二消防員ハ兩手ヲ放チ終テ各消防員喞筒ニ對スル定位ニ復ス

『止レ』ノ令ハ喞筒ノ將ニ右向ヲ爲サムトスルトキ之ヲ下スモノトス

第三十一條　喞筒ノ方向ヲ左ニ向ハシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒左ヘ——進メ、止レ

『左ヘ——』ノ令ニテ第一消防員ハ半右向ヲナシ更ニ右足ヲ一歩廣ク前方ニ開キ左足ヲ之ニ引着ケ左ニ回轉シツヽ左方前鐵把ニ對シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立シ前條ニ示セル動作ト左右反對ノ動作ヲナシ前鐵ヲ喞筒ト直角ナラシ

第二消防員ハ前條ニ於ケル第三消防員ノ動作ニ準シ左右反對ノ動作ヲナシ右方後鐵ヲ喞筒ト直角ナラシム

第三消防員ハ前條ニ於ケル第二消防員ノ動作ニ準スル動作ヲ爲シ喞筒ノ顚倒ヲ防ク『進メ』ノ令ニテ各消防員前條ニ示セル動作ニ準スル動作ヲナシ喞筒ヲ左方ニ向ハシム

『止レ』ノ令ニテ各消防員一齊ニ停立シ第一及第二消防員ハ鐵ヲ鉤ニ掛ケ第三消防員ハ兩手ヲ放チ終テ各消防員喞筒ニ對スル定位ニ復ス

『止レ』ノ令ハ喞筒ノ將ニ左向ヲ爲サムトスルトキ之ヲ下スモノトス

第三十二條　喞筒ヲ半右(左)ヘ——進メ止レ

喞筒半右(左)ヘ——進メ止レ

此ノ號令ニ依リ各消防員前二條ニ示セル動作ニ準シ喞筒ヲ半右(左)ニ向ハシム

第三十三條　喞筒ヲ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒前ヘ——進メ、止レ

『前ヘ——』ノ令ニテ第一消防員ハ其位置ニ在リテ第三十條ニ示セル動作ニ準ヒ右手ニテ前鐵ヲ搖桿臺盤ハ鉤ヨリ外シ兩手ニ之ヲ握リ前進ノ姿勢ヲ取ル

第二消防員ハ左足ヲ一歩左方ニ開キ左ノ手ニテ右方後鐵ヲ搖桿臺盤ノ鉤ヨリ外シ左掌ヲ上ニシテ其中央ヲ右掌ヲ下ニシテ其端末ヲ握リ左手ヲ伸ハシ右肘ヲ脇ニ着ケ右足ヲ一歩後方ニ開キツヽ右向ヲナシ右脚ヲ屈シ左脚ヲ伸ハシ前進ノ姿勢ヲ取ル

第三消防員ハ第二消防員ト左右反對ノ動作ヲナシ前進ノ姿勢ヲ取ル

『進メ』ノ令ニテ各消防員同時ニ行進シ喞筒ヲ直線ニ前進セシム

『止レ』ノ令ニテ各消防員一齊ニ停立シ各消防員鎖ヲ鉤ニ掛ケ終テ喞筒ニ對スル定位ニ復ス

『止レ』ノ令ハ喞筒ノ將ニ目的地點ニ達セムトスルトキ之ヲ下スモノトス

第三十四條　喞筒ヲ後退セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

喞筒後ヘ――進メ、止レ

『後ヘ――』ノ令ニテ第一消防員ハ兩掌ヲ下ニシ挺鑷ヲ握リ右足ヲ一歩後方ニ開キ左脚ヲ屈シ右脚ヲ伸ハシ體ヲ稍前方ニ傾ク

第二消防員ハ一歩左方ニ移リ右方後鐵把ニ對シ約一尺ノ距離ヲ距テ、停立シ右方後鎖ヲ左手ニテ搖桿臺盤ノ鉤ヨリ外シ左掌ヲ下ニシテ鎖ノ中央ヲ握リ左肘ヲ脇ニ着ケ右手ヲ伸ハシ半左向ヲナシツヽ左足ヲ一歩左方ニ開キ更ニ半左向ヲナシ左脚ヲ屈シ右脚ヲ伸ハシ行進ノ姿勢ヲ爲ス

第三消防員ハ第二消防員ト左右反對ノ動作ヲ爲ス

『進メ』ノ令ニテ各消防員同時ニ行進シ喞筒ヲ直線ニ後退セシム

『止レ』ノ令ニテ第一消防員ハ直ニ第二及第三消防員ハ鎖ヲ其鉤ニ掛ケ終テ各消防員喞筒ニ對スル定位ニ復ス

『止レ』ノ令ハ喞筒ノ將ニ目的地點ニ達セムトスルトキ之ヲ下スモノトス

第三　喞筒上車法

第三十五條　喞筒ヲ上車セシムルニハ先ツ各消防員ヲ喞筒ニ對スル定位ニ就カシメタル後順次左ノ號令ヲ下ス

一、喞筒積方――始メ

『始メ』ノ令ニテ第一消防員ハ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右手ニテ前鎖ヲ搖桿臺盤ノ鉤ヨリ外シ左手ヲ添ヘテ之ヲ把持シ其先端ヲ喞筒臺盤上ニ置キ操足ヲナシツヽ兩足尖ヲ喞筒臺盤ニ近カシメ更ニ右手ヲ移シテ鎖ヲ其大鑷ニ接シテ握リ左手ハ之ヲ移シテ鎖ヲ右手トノ間約一寸ノ間隔ヲ取リテ之ヲ握ル

第二消防員ハ右向ヲナシツヽ一歩前進シ右方前鐵把約三寸後方ニ於テ喞筒臺盤ト左足トノ間約五寸ノ間隔ヲ取リテ停立シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左掌ヲ下ニシ右方前鐵把ヲ握リ右手ハ之ヲ垂下ス

第三消防員ハ第二消防員ト左右反對ノ動作ヲナシ左方前鐵把ヲ握ル

二、喞筒扛ケ

此ノ號令ニテ第一消防員ハ他ノ消防員ト協力シ喞筒ヲ體骨ノ高ニ扛ケ左手ヲ放チ其掌ヲ上ニシ喞筒臺盤端ニ加ヘ第二及第三消防員ヲシテ其手ヲ交換セシメ右手ハ之ヲ放チテ鎖ヲ喞筒臺盤上ニ投シ更ニ左手ヲ放チ兩掌ヲ喞筒ニ面セシメ臺盤ノ左右兩角近クヲ握リ協力シテ喞筒ヲ六十五度强ニ起立セシメ第二及第三消防員ニ之ヲ託シ膝ヲスルヿナク上體ヲ俯シ右手ニ螺旋廻ヲ取リ上體ヲ起シテ停立ス

第二消防員ハ他ノ消防員ト共ニ喞筒ヲ體骨ノ高サニ扛ケ左手ヲ右手ニ交換セシメ同時ニ左足ヲ一歩左方ニ開キ左掌ヲ下ニシ水槽ノ右方前弧部近クニ於テ水槽緣ヲ握リ喞筒ヲ六十五度强ニ起立セシム次ニ左足尖ヲ後方喞筒臺盤ノ延線上ニ於テ其臺盤ノ右角ト約三寸ノ距離ヲ距テタル地點ニ置キ右足ハ一歩左方後面ニ開キ半右向ノ姿勢ヲ取リ頭ハ車輛ノ位置ノ方向ニ面シ左肘ヲ屈シ右肘ヲ伸ハシテ喞筒ヲ支持ス

第三消防員ハ第二消防員ト左右反對ノ動作ヲナシ喞筒ヲ支持ス

三、車ヲ着ケ――

此ノ號令ニテ第一消防員ハ右回轉ヲナシテ行進シ車尾ニ正面シ後方車臺ノ中央部ヨリ約五寸ノ距離ヲ距テ、停立シ直ニ左手ニテ匣蓋ヲ開キ右手ニテ螺旋廻ヲ匣内ニ收メ左手ニテ匣蓋ヲ閉チ右向ヲナシテ前進シ右側車臺ノ延線ヲ通過シ左向ヲナシ車輛ノ右方ヲ經テ轅臂ノ延線ヲ通過シ左向ヲナシ車頭ニ正面シテ停立シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ兩掌ヲ下ニシ約六寸ノ間隔ヲ取リテ左右轅臂ヲ握リ上體ヲ起シテ之ヲ體骨ノ高サニ扛ケ直ニ車輛ノ後退ヲ初メ其挿板間ニ喞筒臺盤ヲ嵌入ス可キ度ヲ計リテ車輛ノ後端ヲ喞筒臺盤ニ達セシメテ停立シ直ニ左

足ヲ一歩廣ク前方ニ開クト同時ニ左手ヲ放チ其掌ヲ上ニシ充分之ヲ伸シテ轅木ノ下面ニ右手ヲ放チ其掌ヲ上ニシ轅臂ヨリ約六寸ヲ距テタル轅木ノ下面ニ加ヘ車頭ヲ扛ケツヽ車輛ノ後端ヲ地上ニ逢セシメテ喞筒臺盤ヲ車輛ノ挿板間ニ嵌入シ直ニ右手ヲ放チ右足ヲ左足ヨリ一歩前方ニ開キツヽ之ヲ擧ケテ車軸ノ中央部ヲ踏ミ其脚ヲ屈シテ膝頭ヲ轅木ノ下面ニ接セシメ左脚ハ之ヲ伸ハスト同時ニ右掌ヲ下ニシ之ヲ喞筒臺盤止上ニ左手ヲ放チテ之ヲ喞筒臺盤止ノ右側斜面ニ加ヘ上體ヲ稍前方ニ傾ケ轅木ヲ右肩ニ擔ヒ車輛ノ輾轉ヲ防ク

第二及第三消防員ハ其儘喞筒ヲ支持ス

四、喞筒置ケ——

此ノ號令ニテ第一消防員ハ其儘車輛ヲ支持シ第二及第三消防員ニ喞筒臺盤ヲ挿板間ニ全ク嵌入ス次ニ第三消防員ハ右足ヲ左足ニ引着ケ右手ヲ以テ前鎖ヲ把リ之ヲ第一消防員ニ渡シ再ヒ元ノ姿勢ニ復ス

第一消防員ハ第三消防員ヨリ前鎖ヲ右手ニテ受ケ之ヲ第一轅鉤ニ掛ケ其餘端ヲ兩手ニテ轅木ノ左方下面ヨリ卷キ始メテ第二轅鉤トノ間ニ於テ鎖上ヨリ轅木ニ二回纏卷シ右足尖ヲ車軸ヨリ車臺ノ左方横機ニ踏ミ替ヘ右手ニテ左轅臂ヲ把握シ左手ヲ垂下ス

第二消防員ハ第一消防員ノ鎖ヲ第一轅鉤ニ掛クルヲ俟テ兩手ヲ放チ右足ヲ左足ニ引着ケ半右向ヲナシ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シツヽ頭ヲ右方ニ傾テ輪外ニ出シ左掌ヲ下ニシテ右方後鐵把ヲ握リ右手ハ其肘ヲ屈シテ車輪ノ一輻ヲ握ル

第三消防員ハ第一消防員ノ鎖ヲ第一轅鉤ニ掛クルヲ俟テ兩手ヲ放チ第二消防員ト同時ニ左右反對ノ動作ヲナシ左方後鐵把及車輪ノ一輻ヲ握ル

五、車頭——卸セ

『卸セ』ノ令ニテ第一消防員ハ左手ヲ擧ケテ右轅臂ヲ握リ右足ヲ車臺ノ左方前端ニ踏ミ替ヘ左足ヲ地上ヨリ離シ體ノ重ミニテ轅臂ニ託シ第二及第三消防員ノ喞筒ノ後部ヲ扛クルト同時ニ轅臂ヲ下方ニ引キ車頭ヲ髏骨ノ高サマテ之ヲ降シ第二十八條第三號々令ニ於ケルト同一ノ姿勢ヲ取ル

第二及第三消防員ハ協力シテ第一消防員カ左手ニ轅臂ヲ握リ下方ニ引クト同時ニ喞筒ノ後部ヲ扛ケ喞筒ヲ水平ナラシム

次ニ第二消防員ハ兩手ヲ放チテ上體ヲ起シ左向ヲナシ更ニ半左向ヲナシツヽ左足ヲ一足廣ク左方面ニ於テ後方搖桿ノ延線上ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケツヽ右ニ回轉シ車尾ノ中央部ニ正面シテ之ト約一尺距離ヲ距テヽ停立シ上體ヲ稍前方ニ傾ケ兩掌ヲ下ニシ其間約五寸ノ間隔ヲ取リ之ヲ喞筒臺盤ノ後端ニ置ク第三消防員ハ兩手ヲ放チテ上體ヲ起シ左足ヲ一歩左方前面ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケツヽ正面ニ行進シ車輛ノ左方ヲ通過シテ轅臂ノ延線近クニ至リ右向ヲナシテ前進シ轅木ト約一尺ノ距離ヲ距テタル位置ニ於テ左腕ノ外方ヲ左轅臂ニ近カラシメテ停立シ右掌ヲ上ニシ大環ト第二轅鉤トノ中間ニ於テ前ノ鎖ヲ握リ左手ヲ垂下ス

六、轅木——置ケ

『置ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シツヽ車頭ヲ急ニ地上ニ卸シ直ニ上體ヲ起シツヽ右足尖ヲ車頭ノ中央部ニ加ヘテ車輛ノ輾轉ヲ防ク第二消防員ハ第一消防員ト同時ニ右足ヲ一歩後方ニ開キ其脚ヲ伸ハシ左脚ヲ屈シ兩手ヲ以テ喞筒臺盤ヲ前方ニ壓ス

第三消防員ハ第一消防員ト同時ニ左掌ヲ下ニシ右拳ト第二轅鉤トノ間ニ於テ鎖ヲ握リ左足ヲ一歩左方後面ニ開キ其脚ヲ伸ハシ右脚ヲ屈スルト同時ニ鎖ヲ強ク前方ニ牽ク

終テ各消防員其位置ニ在テ停立ス

七、鎖ヲ——結ヘ

『結ヘ』ノ令ニテ第二消防員ハ半右向ヲナシ更ニ右足ヲ一歩前方ニ開キ左足ヲ之ニ引着ケ車輛ノ右方ニ移リ左ニ

回轉シツヽ錠留ニ正面シ約五寸ノ距離ヲ距テヽ停立シ右手ニテ錠ヲ起シ左手ニテ鎖匙ヲ直シ錠ノ裏面ト直角ナラシメ錠ヲ其中央部ニ於テ左手ニ持替ヘ其手ヲ伸ハシテ之ヲ第三消防員ニ渡ス

第三消防員ハ右向ヲナシ更ニ半右向ヲナシツヽ行進シ釦頭ニ至リ之ニ沿フテ弧狀ヲ畫キテ前進シ釦ノ左側ニ至リ之ニ正面シ第二十八條第二號々令ニ於テ梯子ヲ持來リタルト同一ノ姿勢ヲ以テ之ヲ把持シ次ニ同號令ニ於ケル動作ト反對ノ動作ヲナシテ車臺ノ下ニ之ヲ挿入シ其釦ヲ車臺端ニ掛ケ更ニ第二消防員ヨリ右手ニ鎖匙ヲ受ケ同時ニ右足ヲ左足ニ引着ケ第二十八條第二號々令ニ於ケルト反對ノ動作ニ依リ鎖匙ヲ定着ス

第一消防員ハ第二十八條第二號々令ニ於テ鎖ヲ解キタルト同一ノ姿勢ニ於テ反對ノ動作ヲ爲シ前鎖ヲ以テ梯子ヲ元ノ如ク結フ終テ各消防員其位置ニ停立ス

第三十六條　前條ノ動作ヲ終リタルトキハ消防員ヲ喞筒車ニ對スル定位ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

定位ヘ――進メ

『進メ』ノ令ニテ各消防員第二十八條第一號々令ニ示セル動作ト反對ノ動作ヲナシ前經路ヲ經テ各定位ニ復ス

第四　放水準備

第三十七條　喞筒ノ放水準備ヲナサシムルニハ先ツ喞筒ヲ地上ニ定置シ各消防員ヲ喞筒ニ對スル定位ニ就カシメタル後順次左ノ號令ヲ下ス

一、放水備方――始メ

『始メ』ノ令ニテ第一消防員ハ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ兩手ヲ搖桿ノ下方ニ伸ハシ兩掌ヲ相對セシメテ吸管ノ兩端ヲ押ヘ第二及第三消防員カ其兩端ヲ把ルヲ俟チ兩手ヲ放チ更ニ兩掌ヲ上ニシ吸管ノ中央部ヲ握リ他ノ消防員ノ後退ヲ始ムルニ從ヒ漸次兩手ノ間隔ヲ約二尺ニ開キテ吸管ヲ握リ其伸フルニ從ヒ一歩後方ニ移リテ停立ス第二消防員ハ左足ヲ一歩左方ニ開キ兩手ニテ吸管ヲ卷キタル後方革紐ヲ解キ左足ヲ右足ニ引着ケ更ニ右足ヲ一歩右方ニ開キ後方革紐ニ於ケルト同一ノ方法ニテ前方革紐ヲ解キ上體ヲ右方ニ傾ケ左手ヲ上ニシ其掌ヲ下ニシ吸管ノ一端ヲ握リ右手ヲ下ニシ其掌ヲ上ニシ兩手ノ間隔ヲ約一尺ニ開キテ吸管ヲ握リ上體ヲ舊ニ復シ左向ヲナシツヽ之ヲ頭上前ニ持參シ左右ノ兩掌ヲ上下反對ナラシメ吸管ヲ左ニ轉回セシメ直ニ吸管ノ伸フルニ準ヒ弧狀ヲ畫キツヽ喞筒ノ後方ニ進ミ右側喞筒臺盤ノ延線上ニ於テ吸管ノ長サニ應シ適宜ノ地ニ停立シ右向ヲナシテ第三消防員ト對立シ之ト同時ニ左足ヲ一歩前方ニ開キ左手ヲ放チ其手ニ把持シタル吸管ノ一端ヲ第三消防員ニ渡シ同時ニ左掌ヲ上ニシ其手ヲ吸管ノ下ヨリ伸ハシテ他ノ一端ヲ第三消防員ヨリ受ケ次ニ右手ヲ放チ其掌ヲ上ニシ兩手ノ間隔ヲ約二尺ニ開キテ吸管ヲ握リ弧狀ヲ畫キ後退シツヽ吸管ヲ伸ハシ眞方向ノ變シテ全ク後方ニ正面シタルトキ第一消防員ト一線上ニ整列シ吸管ヲ一字形ナラシム

第三消防員ハ第二消防員ト左右反對ノ動作ヲナシ吸管ヲ一字形ナラシム次ニ各消防員協力シテ其儘左横足ヲナシテ行進シ第三消防員ノ右側喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シタルトキ各消防員同時ニ正面ノ行進ニ移リ吸口ノ延線近クニ至リテ停立シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ第三消防員ハ吸管ノ牝螺旋口ヲ吸口近クニ相對セシメテ他ノ消防員ト共ニ吸管ヲ一字形ニ地上ニ置キ更ニ各消防員上體ヲ起シ第一消防員ハ右向ヲナシテ前進シ左足ニテ吸管ニ跨リ吸口ニ半シ第二消防員ハ右向ヲナシ更ニ半右向ヲナシテ之ニ對シ第三消防員ハ右向ヲナシツヽ前進シ右方前鐵把前ニ至リ半左向ヲナシテ之ニ對シ第三消防員ハ右向ヲナシツヽ左足ニ吸管ヲ越ヘテ前進シ右方後鐵把前ニ至リ半右向ヲナシテ之ニ對シ各喞筒トノ間約一尺ノ距離ヲ距テヽ位置ス

二、吸管――着ケ

『着ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左掌ヲ下ニシ水槽緣ニ加ヘ右手ニテ水槽内ニ於ケル吸

曲管口ヨリ塵除器ヲ外シ上體ヲ起シ右手ニテ之ヲ第二消防員ニ渡シ次ニ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ兩手ニテ吸管ヲ其牝螺旋際ニ於テ把リ第三消防員カ覆冠ヲ吸口ヨリ外スヲ俟チ之ヲ吸口ニ接セシメ吸管ヲ吸口ト水平ニ兩脚ニテ挾持シ頭ヲ左方ニ傾ケ第三消防員補助スルヲ待チ右手ニテ其牝螺旋ヲ吸口ニ結合シ次ニ右手ニテ左腰ヨリ螺旋回ヲ取リテ結合環ヲ締メ上體ヲ起シテ之ヲ左腰ニ佩フ

第二消防員ハ第一項消防員ヨリ左手ニテ塵除器ヲ受ケ其把手ヲ右手ニ持換ヘ兩手ヲ垂下シ直ニ右回轉ヲナシ吸管ノ前方側面ニ沿フテ正面ニ行進シ吸管ノ管末ニ沿フテ右方ニ弧狀ヲ畫キツヽ前進シ其方向ノ變シテ前方ニ面シタルヰ吸管ノ結合部ト約五寸ノ距離ヲ距テヽ停立シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左掌ヲ上ニシ吸管ノ牝螺旋際ヲ把リ右足ヲ一歩右ノ方ニ開キ左脚ヲ屈シ右脚ヲ伸ハシ左臂ヲ擧ケテ之ヲ左脚上ニ置キ右手ニテ塵除器ヲ結合シ終リテ右手ヲ吸管ノ一部ニ移シテ之ヲ握リ體ヲ起シツヽ右足ヲ左足ニ引着ケ隨時適宜ノ位置ニ進ミ上體ヲ俯シ吸管ヲ水中ニ沈下セシメテ體ヲ起ス吸管ノ後側ニ在リテ前方ニ正面ス吸管ヲ水中ニ沈下セシムルニハ其塵除器ハ常ニ水面下五寸乃至一尺ノ深サニ在ラシムルモノトス第三消防員ハ右足ヲ一歩右方後面ニ開キ半右向ヲナシ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左掌ヲ下ニシ水槽緣ヲ握リ右手ニテ吸口ヨリ覆冠ヲ外シ右足ヲ左足ニ引キ着ケ之ヲ水槽内ノ吸管口ニ嵌メテ之ヲ締メ上體ヲ起シ直ニ右向ヲナシツヽ約二歩前進シ右足ニ吸管ヲ跨リ左ニ回轉シテ吸口ニ面シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ頭ヲ左方ニ傾ケ兩手ニテ吸管ヲ少シク扛ケ吸口ト水平ナラシメ右手ヲ前ニシテ之ヲ握リ兩脚ニ挾持シ第一消防員ノ之ヲ結合スルヲ補助ス次ニ第一消防員ハ吸口ニ對スル吸管ノ結合ヲ終レハ右足ニテ吸管ヲ越ヘツヽ左向ヲナシテ正面ニ行進シ後方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ直ニ右向ヲナシ喞筒ノ後方ニ移リ搖桿ヲ延線上ニ於テ更ニ右向ヲナシ喞筒臺盤ト約一尺ノ距離ヲ距テ停立シ上體ヲ前方ニ傾ケ左掌ヲ下ニシテ管槍ノ結合環ヲ搖臂下ニ於テ握リ約五寸之ヲ引出シテ其手ヲ結合環約五寸ノ上部ニ移シ右掌ハ下ニシ水管搖臂上ニ押込第二消防員ハ吸管ヲ水中ニ投シ終テ左向ヲナシ吸管ノ後方面ニ沿フテ正面ニ行進シ吸口ヲ距ル約一尺ノ位置ニ至リ右足ヲ一歩右方ニ開キ吸管ニ跨リ停立ス

第三消防員ハ第一消防員ノ動作ニ準シ後方喞筒臺盤ノ右角ヨリ右方約五寸ノ距離ヲ距テタル地點ニ對シテ行進シ之ヲ通過シ半右向ヲナシ喞筒ノ後方ニ移リ左方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ直ニ右向ヲナシテ前進シ更ニ右向ヲナシテ放口ニ對シ約一尺ノ距離ヲ距テ停立ス

第二及第三消防員ハ吸口及放口前ニ停立シタルヰハ直ニ各其後方革紐ノ方向ニ位スル足ヲ一歩喞筒ノ後方ニ開キ同時ニ兩手ニテ革紐ヲ解キ終テ共ニ其足ヲ舊ニ復シ次ニ各其前方革紐ノ方向ニ位スル足ヲ一歩喞筒ノ前方ニ開キ同時ニ兩手ニテ革紐ヲ解キ終リ共ニ其足ヲ舊ニ復シテ停立ス

三、管槍――取レ

『取レ』ノ令ニテ第一消防員ハ左足ヲ一歩後方ニ開キツヽ左手ニ持チタル管槍ヲ拔キ取リ左足ヲ右足ニ引着ケツヽ體ヲ起シ左掌中ニ管槍ヲ滑走セシメテ送水管ノ中央部ヲ握リ其肘ヲ脇ニ着ケ擧テ左乳前ニ持來リ右手ハ其儘水管ヲ搖臂上ニ押ヘ第二消防員ノ挺環ヲ壓スルヲ待チ之ヲ握ル

第二消防員ハ吸口前ニ在リテ直ニ右向ヲナシテ前進シ前方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過スルヿ約一尺ノ地點ニ至リ左向ヲナシテ停立シ放口前ヨリ前進シ來レル第三消防員ト對立シ上體ヲ左方ニ傾ケ右掌ヲ下ニシ右方ニ於ケル第二木挺ノ柄部ノ一端ヲ握リ上體ヲ起シツヽ右足ヲ一歩右方ニ開キテ之ヲ引出シ更ニ左掌ヲ上ニシ右掌トノ間約二尺ノ間隔ヲ取リテ木挺ヲ握リ左足ヲ一歩前方ニ開キ上體ヲ前方喞筒臺盤ノ左角ノ方向ニ傾ケ左脚ヲ屈シ右脚ヲ伸ハシ木挺ヲ喞筒臺盤ノ左側第一木挺ノ右方ニ於テ其柄部ノ先端ヲ前方喞筒臺盤ノ延線上ニ置キ第一木挺ト齊頭ニ地上ニ並置シ體ヲ起シツヽ左足ヲ右足ノ左方後面ニ開キ左向ヲナシ右足ヲ左足ニ引著ケ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右掌ヲ下ニシ右挺環ヲ急キ壓シテ搖桿ヲ其受器ニ達セシメ上體ヲ起シ前進シテ吸口前ニ至リ左足ニテ吸管ニ跨リ右向ヲナシ吸口ニ對シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立シ第三消防員ト同時ニ兩手ニテ水槽内ニ於ケル水管ノ垂下部ヲ

其槽外ニ出シ其手ヲ放ツ

第三消防員ハ第二消防員ト同時ニ左右反對ト同一動作ヲナシテ放口前ヨリ前進シ第二消防員ト一線上ニ對立シ尙左右反對ノ動作ヲ繼續シテ左方ニ於ケル第一木挺ヲ引出シ之ヲ兩手ニ把持シ上體ヲ右方ニ傾ケ右脚ヲ屈シ左脚ヲ伸ハシ木挺ヲ喞筒臺盤ノ左側第二木挺ノ左方ニ臺頭ニ之ヲ竝置シ終テ上體ヲ起シ右向ヲナシツヽ左足ヲ右足ニ引着ケ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左掌ヲ下ニシ搖臂ノ下ニ於テ水管ヲ握リ第二消防員ノ挺環ヲ壓スルヲ待チ之ヲ搖臂ヨリ外シ上體ヲ起シ前進シテ放口前ニ至リ左向ヲナシ放口ニ對シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立シ第二消防員ト同時ニ兩手ニテ水槽內ニ於ケル水管ノ垂下部ヲ其槽外ニ出シ其手ヲ放ツ消火點ト水源地ト相距ルコト遠キカ爲三個以上ノ水管ヲ結合スルノ要アルトキハ本號々令ヲ下シタル後ヲ直ニ『水管幾個用意』ノ號令ヲ下シ之カ結合ヲナサシメ第一及第三消防員カ舊位ニ復シタル後本條第四號々令ヲ下スモノトス

『水管幾個用意』ノ命アリタルトキハ第一及第三消防員ハ用意スヘキ水管數ノ多寡ニ拘ラス常ニ左ノ動作ヲ爲ス

第一消防員ハ右手ニ握リタル水管ヲ左方搖臂ヨリ外シテ其手ヲ放チ半左向ヲナシ右手ヲ一歩後方ニ開キ左手ニ把持セル管槍ノ放水管部ヲ右肩前ニ於テ約四十五度ニ倒シ右掌ヲ下ニシ其送水管部ヲ放水管部トノ結合部下ニ於テ左掌ヲ上ニシ其送水管部ト水管トノ結合部際ニ於テ握リ第三消防員ト協力シテ管槍ヲ水管ヨリ離脫シ其結合鑛部ヲ喞筒臺盤上ニ置キ放水管部ヲ上ニ右手ニテ之ヲ左方搖桿臺盤ノ後面ニ於ケル鈎ニ倚セ掛ケ次ニ搖桿手ヨリ水管ノ牝螺旋部ヲ受ケ之ヲ第三消防員ノ把持セル第二水管ニ結合シテ之ヲ第三消防員ニ渡シ更ニ右手ニ管槍ヲ取リ前ニ離脫シタルト同一ノ動作ニ準シ管槍ヲ右方ニ旋回シテ之ヲ第三消防員ノ把持セル水管牡螺旋部ニ結合シ右足ヲ左足ニ引着ケ本條第三號々令ニ於ケルト同一ノ方法ニテ左手ニ管槍ヲ左乳前ニ持チ來リ半右向ヲナシ搖桿ニ正面シ右掌ヲ下ニシ管槍ノ結合部ト約一尺ヲ距テヽ水管ヲ握リ其手ハ自然ニ之ヲ垂下ス

第三消防員ハ半右向ヲナシ左足ヲ一歩前方ニ開キ右手ヲ先キニシ兩掌ヲ相對セシメテ第一消防員ノ把持セル管槍ノ結合部際ニ於テ第二水管ノ牡螺旋ノ覆布部ヲ握リ第一消防員ヲシテ管槍ヲ離脫セシメ其姿勢ニ於テ第一消防員ト協力シテ搖桿手ノ持來リシ水管ト第二水管トヲ結合シ之ヲ地上ニ置キ更ニ搖桿手ヨリ水管ノ牡螺旋部ヲ受ケ第一消防員ヲシテ管槍ヲ之ニ結合セシメ終テ兩手ヲ放チ左足ヲ右足ニ引着ケツヽ半左向ヲナシ放口ニ對シテ停立ス

『水管幾個用意』ノ令アリタルトキハ搖桿手ハ左ノ區別ニ依リ水管ノ用意ヲ爲ス

『水管一個用意』ノ號令アリタルトキハ前列第一搖桿手ハ駈歩ニテ第三水管ヲ第一消防員ノ左足前ニ持來リ右手ニテ直ニ其牝螺旋部ヲ第一消防員ニ渡シ次ニ其牡螺旋部ヲ第三消防員ニ渡シ駈歩ニテ舊位ニ復ス

『水管二個用意』ノ號令アリタルトキハ前列第一搖桿手ノ左方一歩後面ニ持來リ左掌ヲ上ニシ其牝螺旋ノ覆布部ヲ握リ半右向ヲナシ左足ヲ一歩前方ニ開キ右手ニテ前列第一搖桿手ノ把持セル第三水管トノ牡螺旋部ニ結合シ之ヲ地上ニ置キ第四水管ノ牡螺旋部ヲ右手ニテ第一搖桿手ニ渡シ駈歩舊位ニ復ス

前列第一搖桿手ハ先ツ持來リタル第三水管ノ牝螺旋部ヲ第一消防員ニ渡シ次ニ其牡螺旋部ヲ取リ左ニ回轉シツヽ前列第二搖桿手ニ相對立スルト同時ニ左足ヲ一歩前方ニ開キ第二搖桿手ヲシテ第四水管ヲ第三水管ニ結合セシメ之ヲ前列第二搖桿手ニ渡シ更ニ前列第二搖桿手ヨリ第四水管ノ牡螺旋部ヲ受ケ左足ヲ右足ニ引着ケ右ニ回轉シツヽ第三消防員ニ相對シテ之ヲ渡シ駈歩舊位ニ復ス

『水管三個用意』ノ號令アリタルトキハ前列第三搖桿手ニ於テ『水管四個用意』ノ號令アリタルトキハ前列第四搖桿手ニ於テ前列第二搖桿手ト同一ノ動作ニ準シ各水管一個ヲ持來リ之ヲ結合シテ駈足舊位ニ復ス

用意ス可キ水管五個以上ノ場合ニ於テハ後列搖桿手ハ前列員ノ動作ニ準シテ水管ヲ持來リテ之ヲ結合シテ駈足舊位ニ復スルモノトス

四、水管――擴メ

『擴メ』ノ令ニテ第一消防員ハ搖臂上ニ於テ右手ニ握リタル水管ヲ其手ニテ外シ髖骨ノ高サニ之ヲ把持シ管槍ヲ左

手ニ持チタル姿勢ハ變スルコトナク速カニ指示セラレタル方向ニ向テ駈歩前進シ適宜ノ位置ヲ撰定シテ停立シ第三消防員ノ補助ニ依リ後顧シテ水管ノ撚レタルヲ直シ管槍ノ結合部ヲ右足ノ外側ニ置キ管槍口ヲ直上ニ向ケ左手ニ其口端ヲ保持シ右手ハ自然ニ垂レ頭ハ指示セラレタル方向ニ向フ

第二消防員ハ第三消防員ヲ補助シ兩手ニテ水管ヲ第三消防員ノ右肩ノ方向ニ投シ直ニ右足ニテ吸管ヲ越ヘツヽ左向ヲナシテ駈歩前進シ後方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ右向ヲナシ後方搖桿ノ延線上ニ至リ右向ヲナシツヽ搖臂ニ面シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立シ兩掌ヲ下ニシ兩挺鑁ヲ握リ之ヲ急ニ壓シテ搖桿ヲ其受器ニ達セシメ右手ヲ放チ左足ヲ一歩左方前面ニ開キ體ノ重ヲ左手ニ托シツヽ右回轉ヲナシテ喞筒ノ左方ニ移リ左手ヲ放チ後鐵把ノ左側面ニ在リテ其間約一尺ノ間隔ヲ取リ喞筒ノ後方ニ面シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右掌ヲ下ニシ地上ニ於ケル第一水梃ノ先端ヲ把リ之ヲ正面ノ方向ニ繰出シテ其柄部ヲ握リ右足ヲ一歩右方ニ開キツヽ左手ヲ木梃ニ加ヘ之ヲ後方梃鑁ニ挿入シ右足ヲ左足ニ引着ケツヽ體ヲ起シ直ニ後退シテ前方喞筒臺盤ノ延線上ニ兩足尖ヲ置キ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右掌ヲ下ニシ地上ニ於ケル第二木梃ノ柄部ヲ握リ上體ヲ起シツヽ第一木梃ニ於ケルト同一ノ方法ニテ之ヲ前方梃鑁ニ挿入シ右足ヲ左足ニ引着ケ左足ヲ一歩左方後面ニ開キツヽ左向ヲ爲シテ右足ヨリ駈歩行進シ前方搖桿ノ延線上ニ於テ半右向ヲ爲シ右方木梃ノ下ニ潜行シ半右向ヲ爲シテ吸口前ニ至リ左足ニテ吸管ヲ跨リツヽ左向ヲナシ喞筒ニ面シ約五寸ノ距離ヲ距テ停立シ左掌ヲ下ニシ左方ニ於ケル第一籃ヲ右掌ヲ下ニシ右方ニ於ケル第二籃ヲ同時ニ之ヲ左右ニ開キテ水槽ヲ覆ヒ兩手ヲ放チ約五寸擬足後退シテ其位置ニ停立ス

第三消防員ハ第二消防員ノ協力ニ依リ兩手ニテ水管ヲ其右肩ノ方向ヘ投シ直ニ之ヲ越ヘ右ニ回轉シツヽ水管ニ正面シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右掌ヲ下ニシ水管ノ結合部（水管二個ノ場合ハ第一及第二水管ノ結合部ヲ其三個及四個ノ場合ハ第二及第三水管ノ結合部ヲ其五個ノ場合ハ第三及第四水管ノ結合部ヲ其六個ノ場合ハ第四及第五水管ノ結合部ヲ其七個ノ場合ハ第五及第六水管ノ結合部ヲ握ル者トス）ヲ握リ上體ヲ起シ第一消防員ト共ニ同方向ニ向ヒ駈歩ニテ水管ヲ擴メ第一消防員ノ動作ヲ補助シテ第一水管ヨリ順次水管ノ撚レタルヲ直シ水管ヲ擴ムルヿ其握リタル水管ノ結合部ヨリ約一歩第一消防員ニ近キ位置ニ於テ右回轉ヲナシ左足ト水管トノ間約五寸ノ間隔ヲ取リテ喞筒ニ向テ停立シ水管ノ故障ノ有無ニ注意ス右動作終レハ第二消防員ハ『進メ』ノ號令ヲ下シ搖桿手ヲ喞筒ノ前後ニ配置シ木梃ヲ取ラシメ喞筒ノ運用準備ヲ爲サシムルモノトス

『進メ』ノ號令アリタルヿ搖桿手車後整列ノ位置ニ在ルヿハ其前列首位者ハ直ニ半右向ヲナシテ行進シ後方木梃ノ右方延線ヲ通過シ半左向ヲナシツヽ前進シ木梃ノ右方延線ヲ通過シテ左向ヲナシ木梃ノ左端約六寸前ニ至リ木梃ト約一尺ノ間隔ヲ取リテ左向ヲナシテ喞筒ニ面シテ停立シ右掌ヲ下ニシ木梃ノ左端約一寸ヲ距テ左掌ヲ下ニシ右掌トノ間約七寸ノ間隔ヲ取リテ木梃ヲ握ル他ノ前列員ハ首位者ノ行進ヲ始ムルト同時ニ行進ヲ始メ同一ノ動作ニ依リ喞筒ノ前方ニ移リ左向ヲナシ順次首位者ニ準ヒ喞筒ニ正面シテ停立シ其末位者ハ首位者ノ木梃ノ左端ニ於ケルト同一ニ木梃右端ニ於テ他ハ其間ニ介在シテ同一間隔ヲ取リテ木梃ヲ握リ後列員ハ前列員ノ其前面ヲ通過スルヲ待テ直ニ行進シ其首位者ハ後方木梃ノ右端ニ位置シ他ハ其左側ニ列シ前列員ト相對シテ停立シ前列員ト同一ノ方法ニ依リ木梃ヲ握ルモノトス

第三十八條　放水ノ用意ヲ爲サシムルニハ先ツ第一消防員ニ消火點ヲ指示シタル後左ノ號令ヲ下ス

位置ヲ定メ——

此ノ號令ニテ第一消防員ハ左手ニ管槍ヲ握リタル儘之ヲ伸ハシテ左肩ト水平ニ體ノ中央前ニ持チ來ルト同時ニ右掌ヲ下ニシ管槍ヲ其結合環際ニ於テ握リ輕ク之ヲ體骨ニ接シ直チニ右足一歩後方ニ開キ左手ノ拇指ヲ管槍口ニ當テ眼ヲ消火點ニ注ク

第二及第三消防員ハ其儘停立ス

第三十九條　放水ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

『始メ――』

此ノ號令ニテ第一消防員ハ後顧シテ始メト復唱シ第三消防員ニ號令ヲ傳送ス

第一消防員ハ先ツ管槍口ノ拇指ヲ開キ管中ノ空氣ヲ逸出セシメ次ニ管槍口ニ水ノ來ルヲ待チテ堅ク其口ヲ密閉シ水壓力ヲ支ユル能ハサルニ至リテ初メテ拇指ヲ放チ同時ニ左手ヲ管槍口ヨリ約三寸ノ下ニ移シテ握ル

第三消防員ハ第一消防員ノ復唱ヲ受ケ號令ヲ第二消防員ニ傳送スル爲メ『始メ』ト復唱ス

第二消防員ハ第三消防員ノ復唱ヲ受ケテ搖桿手ニ『始メ』ト合ス此令ニ依リ搖桿手ハ其前列員ヨリ動作ヲ始メ搖桿ヲ上下セシム

喞筒運用中ハ第一消防員ハ火勢水力及消火ノ方法ニ第二消防員ハ吸管及其結合水利並機械ノ障碍ニ注意シ第三消防員ハ水管ヲ保護シ消火點ト喞筒トノ連絡ヲ掌ルモノトス

第四十條　放水ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

止メ――

此ノ號令ニテ第一消防員ハ後顧シテ『止メ』ト復唱シテ第三消防員ニ號令ヲ傳送シ水ノ迸出止ムト同時ニ右足ヲ左足ニ引着ケ第三十七條第四號々令ニ示セルト同一ノ姿勢ヲ取ル

第三消防員ハ『止メ』ト復唱シ號令ヲ第二消防員ニ傳送ス

第二消防員ハ第三消防員ノ復唱ヲ受ケ搖桿手ニ『止メ』ト號令ス此ノ號令ニ依リ搖桿手ハ喞筒ノ運用ヲ停止シ搖桿水平ナラシメテ兩手ヲ放チ其前列員ハ左向ヲ爲シ第三十七條『進メ』ノ號令ニ於ケルト反對ノ動作ヲ爲シ後列員ハ右回轉ヲナシ各列員車後整列ノ位置ニ復シテ停立ス

第四十一條　水管ヲ擴メアルトキ喞筒ノ位置ヲ變換スル爲消防員ヲ喞筒ニ對スル定位ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

定位ヘ――戻レ

此ノ號令ハ第三十八條ニ示セル放水用意前若クハ放水停止後下スモノトス

此ノ號令ニテ第一消防員ハ右足ヲ一歩後方ニ開キツヽ右向ヲナシ左手ニ握リタル管槍ノ放水管部ヲ右手ニ持替ヘ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ管槍ヲ倒シテ之ヲ水管ノ上ニ横ヘ上體ヲ起シ半右向ヲナシ左足ニ水管ヲ越ヘ前方喞筒臺盤ノ左角ヨリ前方約五寸ノ距離ヲ距テタル地點ニ對シテ駈歩行進シ同地點ニ至リ半右向ヲナシ前方搖桿ノ延線上ニ於テ右向ヲナシ喞筒ニ正面シ喞筒ニ對スル定位ニ就ク

第二消防員ハ其儘停止ス

第三消防員ハ水管ニ沿フテ正面ニ駈歩行進シ放口前ニ至リ左足ニテ水管ニ跨リ定位ニ就ク

喞筒位置變換ノ號令ハ左ノ動作ニ依リ各消防員定位ニ就キタル後之ヲ下スモノトス吸管及水管ヲ解放スルニ非ラサレハ喞筒ノ位置ヲ變換スルヿ能ハサル片ハ各消防員定位ニ就キタルトキ直ニ第四十三條第一號及第三號々令ニ示セル方法ニ準ヒ第二消防員ハ吸管ヲ吸口ヨリ第三消防員ハ水管ヲ放口ヨリ解放シ各之ヲ適宜運動ニ妨ケナキ位置ニ置キ舊位ニ復シ喞筒位置變換ノ號令ヲ待チテ其位置ヲ變換シ直ニ解放シタル片ト反對ノ動作ニ依リ吸管及水管ヲ結合スルモノトス

第四十二條　各消防員喞筒ノ位置變換ヲ終リタル後其動作ノ放水用意前ニ在リテハ第三十七條第四號々令ノ位置ニ其動作ノ放水停止後ニアリテハ第四十條『止メ』ノ號令ノ位置ニ復セシムルニ左ノ號令ヲナス

放水位置ヘ――戻レ

『戻レ』ノ號令ニテ各消防員駈歩各本條ニ示セル舊位ニ復シ第一消防員ハ第四十一條ノ號令ニ於ケルト反對ノ動作ヲナシ管槍ヲ水管上ヨリ取リ元ノ姿勢ニ復ス

第五　放水準備解崩

第四十三條　第三十七條ノ號令ニ依リ放水準備ヲ爲シタル喞筒ヲ解崩セシムルニハ順次左ノ號令ヲ下ス

一、放水備方崩セ――始メ

『始メ』ノ令ニテ第一消防員ハ右足ヲ右方ニ開キ管槍ト結合セル水管牡螺旋際ニ於テ水管ヲ踏ミ管槍ノ放水管部ノ下ヲ左手ニ保持シタル儘膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シツヽ管槍ヲ半左方ニ傾ケ右掌ヲ上ニシ管槍ノ結合鐶際ヲ左手ヲ移シテ其掌ヲ下ニシ管槍ノ送水管ヲ其放水管トノ結合部ヨリ約一寸下ニ於テ握リ左ニ旋回シテ之ヲ離脫シ右足ヲ左足ニ引着ケツヽ體ヲ起シ右掌ヲ上ニシ管槍ヲ其結合環ヨリ約八寸ノ處ニ於テ握リ結合鐶ヲ下ニシ之ヲ約四十五度ニ傾ケ右腋間ニ挾持シ其肘ヲ屈シテ之ヲ脇ニ附ケ其放水管ヲ背面ニ出シ右向ヲナシ更ニ半右向ヲナシツヽ直ニ水管上ヲ越ヘ後方車臺ノ左側延線上ニ於テ車尾ト約一尺五寸ヲ距リシ地點ニ對シテ前進シ同地點ニ至リテ停立シ直ニ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ管槍ノ放水管部ヲ後方ニ向ケ右手ニテ之ヲ左方車輪ヲ距ツル約一尺ノ車臺下ノ地上ニ置キ上體ヲ起シ右回轉ヲナシ前進シ前方喞筒臺盤ノ左方延線ヲ通過シ半左向ヲナシ前進シ第一水管ノ牝螺旋端ヲ通過シ直ニ右向ヲナシ第一水管ノ後方側面ニ沿フテ約六尺前進シ右向ヲナシ第三消防員ニ準ヒ水管ニ對シテ停立ス

第二消防員ハ搖桿手ノ退却スルト同時ニ右向ヲナシ前方木挺右端ヲ通過シ更ニ左向ヲナシ木挺ニ沿ヒ行進シ左端ニ至リ左向ヲナシ更ニ前進シテ放口前ニ至リ右足ニテ水管ニ跨リツヽ左向ヲナシ喞筒ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立シ右手ニテ第一籃ヲ起シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右手ニ螺旋回ヲ左手ニ水管ヲ持チ兩手ニテ水管ノ結合鐶ヲ放口ヨリ離脫シ之ヲ地上ニ置キ螺旋回ヲ左腋ニ帶ヒ右掌ヲ上ニシ其結合鐶ヲ持チ左足ヲ右足ノ後方ニ開キツヽ水管ヲ越ヘ左向ヲ爲シ左掌ヲ上ニシテ水管ニ加ヘ之ヲ放口ヨリ約三尺ノ距離ヲ距テタル地點ニ置キ上體ヲ起シ右足ヲ左足ニ引着ケ直ニ前進シテ前方木挺ノ延線上ヲ一歩通過シテ右回轉ヲナシ右手ニテ第二木挺ノ柄部ヲ握リ右足ヲ一歩廣ク右方ニ開キツヽ左手ヲ加ヘテ之ヲ拔キ取リ左足ヲ一歩後方ニ開キ右足ヲ左足ニ引着ケツヽ左向ヲナシ更ニ半左向ヲナシ車尾ノ中央部ニ對シテ前進シ其間約一尺五寸ノ距離ヲ距テヽ左足ヲ開キタル儘停立シ直ニ上體ヲ俯シ之ヲ車臺下片尖ノ地ニ正シク挿入シ其柄部ノ先端ヲ車尾ヨリ約五寸出シテ地上ニ置キ體ヲ起シテ右回轉ヲナシテ前進シ前方喞筒臺盤ノ左方延線上ニ至リ半左向ヲナシ喞筒ノ左側ヲ經テ後方搖臂ノ延線約一尺前方及第一木挺ノ柄部左端左方約五寸ノ地ニ至リテ停立シ第二木挺ニ於ケルト同一ノ方法ニテ第一木挺ヲ拔キ取リ左足ヲ一歩右足後方ニ開キツヽ左回轉ヲナシテ右足ヨリ行進シ前方喞筒臺盤ノ延線上ニ至リ半右向ヲナシテ車尾ノ中央部ニ對シテ前進シ其ノ間約一尺五寸ノ距離ヲ距テ左足ヲ開キタル儘停立シ第二木挺ニ於ケルト同一ノ方法ニテ車臺ノ臺下左方第二木挺ノ左側ニ之レト齊頭ニ並置シ右ニ回轉シツヽ前方搖桿ノ延線ニ正面シテ前進シ其間約五寸ノ距離ヲ取リテ停立シ膝ヲ屈スルコトナク直ニ上體ヲ俯シ搖臂ノ下ヨリ左手ヲ第二籃ノ軸ニ右手ヲ第一籃ノ軸ニ加ヘ共ニ之ヲ起シ兩掌ヲ相接セシメテ之ヲ把持シ上體ヲ起シツヽ一歩後退シ第一及第二ノ籃軸ヲ髖骨ノ高サニ於テ水平ニ保タシメツヽ右回轉ヲナシ車尾ヲ距ル約一尺五寸ノ地ニ至リテ停立シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ第一籃ヲ上ニ第二籃ヲ下ニ共ニ籃軸ヲ右方ニ向ケ木挺ノ右側ニ於テ其軸端ヲ木挺端ト齊頭ニ地上ニ置キ上體ヲ起シ右向ヲナシ右側喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ水源地ニ向テ前進シ之ニ達シタル時停立シ直ニ上體ヲ俯シ兩手ニ吸管ヲ握リ塵除器ヲ水中ヨリ引揚ケ(吸管ノ垂下セル部分長キトキハ搖桿ヲ補助セシメ)水際ヨリ三尺ノ距離ヲ距テタル地上ニ置キ塵除器端ニ沿フテ弧狀ヲ畫キツヽ前進シ其方向ノ變シテ前方ニ面シタル時塵除器ノ結合約五寸ノ距離ヲ距テ停立ス

第三消防員ハ左足ヲ一歩左方前面ニ開キ第二水管ニ跨リ右足ヲ一歩前方ニ移シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左掌ヲ上ニシテ第一水管ノ覆布部ヲ握リ右手ニテ其結合ヲ解キ第一及第二水管ノ結合鐶ヲ地上ニ置キ右掌ヲ上ニシ第二水管ノ結合鐶ヲ持チ左足ヲ右足ノ後方ニ開キツヽ水管ヲ越ヘテ左向ヲナシ左掌ヲ上ニシ水管ニ加ヘ第一水管ノ結合鐶ヲ約三尺ノ距離ヲ距テタル地點ニ之ヲ置キ上體ヲ起シ左向ヲナシ更ニ其地點ヨリ第二水管ノ後方

側面ニ沿フテ約六尺前進シテ右向チナシ水管ト約五寸ノ距離ヲ距テ之ニ對シテ停立ス

第三十七條ノ規定ニ依リ『水管幾個用意』ノ號令アリタルカ爲水管一個ヲ用意シタルトキハ前列第一搖桿手ハ木號々令ニ依リ駈歩前進シテ第二及第三水管トノ結合部ノ際ニ至リ左足ニテ第三水管ニ跨リ第三消防員ノ第一及第二水管トノ結合部ヲ解放シタル動作ニ準ヒ第三水管ヲ第二水管ヨリ解放シ第三消防員カ第二水管ニ於ケルト同一ノ動作ニ依リ第三水管ト約五寸ノ距離ヲ距テ、之ニ對シテ停立ス

水管二個以上用意シタルトキハ前列第二搖桿手及其他ノ搖桿手ハ後列員ニ至ルマテ各前列第一搖桿手ニ準スル動作ヲナス

二、水管ノ水ヲ――出セ

『出セ』ノ令ニテ第二消防員ハ其儘停止ス

第一消防員ハ其位置ニ於テ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ兩手ヲ肩幅ノ廣サニ伸ハシ其掌ヲ上ニシ水管ヲ握リ上體ヲ起シ左足ヲ一歩左方ニ開クト共ニ右手ハ肩ヨリ約六十度高ク左手ハ其掌中ニ水管ヲ滑走セシメツ、肩ヨリ約四十度低ク伸ハシ右足ヲ左足ニ引キ着クルト同時ニ右手ハ之ヲ放チ其掌ヲ上ニシ左手ニ接シテ水管ヲ握リ水管ヲ左掌中ニ滑走セシメツ、左手ニテ之ヲ右方ニ送リ管中ノ水ヲ流下セシムルノ動作ヲ連續シツ、横歩水管ノ端末ニ至リテ停立シ更ニ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左手ニテ水管ノ牡螺旋部ヲ握リテ上體ヲ起シ右向チナシ水管ノ撚リヲ正シツ、水管ニ沿フテ其後方ヲ通過シ牝螺旋部際ニ至リ左向ヲ爲シテ停立シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ兩手ニテ水管ノ兩螺旋部ヲ揃ヘテ把持シ上體ヲ起シ左向ヲ爲シテ前經路ヲ進ミ其水管ノ折目ニ至リテ右向チナシテ停立シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ兩手ニテ螺旋部ト折目トヲ揃ヘテ之ヲ把持シ上體ヲ起シ更ニ右向チナシテ前經路ヲ進ミテ四ツ折目ニ至リ左向チナシ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ水管ノ撚ヲ正シテ螺旋部ト折目トヲ揃ヘテ八ツ折トナシ兩手ヲ肩幅ノ廣サニ出シ兩掌ヲ上ニシ右掌ハ螺旋部際ヲ握リ左掌ハ折目部ノ方向ニ於テ水管ヲ其掌上ニ載セ兩掌間ニ於テ水平ナラシメ上體ヲ起シ兩肘ヲ脇ニ着ケ之ヲ把持シツ、右向ヲ爲シテ前進シ梯子ノ後方延線ヲ通過シ各半左向ヲ爲シテ前進シ放口ノ左方約三尺ヲ距テタル地點ヨリ約五寸後方ニ於テ半左向ヲ爲シテ停立シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ第一水管ノ結合鐶ヲ右足ノ前ニ於テ放口ニ對セシメ之ヲ地上ニ置キ上體ヲ起ス第三消防員ハ其位置ニアリテ第一消防員ト同時ニ同一ノ動作ヲ始メ常ニ第一消防員ト其擧動ヲ同シクシ同一ノ動作ヲ爲シテ第二水管ヲ第一消防員ノ持チ來リタル第一水管ノ後方ニ持來リ其間約五寸ノ距離ヲ取リテ齊頭ニ之ヲ地上ニ竝置シ上體ヲ起ス

第一消防員ハ第一水管ヲ地上ニ置キ上體ヲ起スト同時ニ右回轉ヲ爲シテ行進シ後方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ左向ヲ爲シテ前進シ右側喞筒臺盤ノ延線ヲ經テ左向ヲ爲シ喞筒ノ右側ニ移リテ前進シ右足ニテ吸管ニ跨リツ、左向ヲ爲シ吸口ト約一尺ノ距離ヲ距テ、停立ス

第三消防員ハ第二水管ヲ地上ニ置キ上體ヲ起スト同時ニ右回轉ヲ爲シ第一消防員ノ動作ニ準シテ右側喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ直ニ左向チナシテ右方後鐵把前ニ至リ左向チナシ其間約一尺ノ距離ヲ距テ、停立シ第一消防員ニ整頓ス

第三十七條ノ號令ニ依リ水管幾個用意ノ號令アリタルカ爲水管一個ヲ用意シタルトキハ前列第一搖桿手ハ木號々令ニ依リ第一消防員ニ準ヒ同一ノ動作ヲ同時ニ行ヒ第三水管ヲ八ツ折トナシ第一消防員ト同一方法ニテ之ヲ把持シ舊位ニ持來リテ之ヲ收メ終テ率後整列位置ニ就ク

水管二個以上ヲ用意シタルトキハ前列第二搖桿手及其他ノ搖桿手ハ後列員ニ至ルマテ前列第一搖桿手ニ準スル動作ヲナス

三、吸管――除レ

『除レ』ノ令ニテ第一消防員ハ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ頭ヲ左方ニ傾ケ吸管ヲ吸口ト水平ニ兩脚ニテ挾持

シ右手ニ螺旋回ヲ用ヒ左手ヲ加ヘ結合鎖ヲ緩メ螺旋回ヲ左腰ニ佩ヒ兩手ニテ吸管ヲ離脱シテ之ヲ把持シ兩手ヲ伸ハシツヽ上體ヲ起シ第二消防員ノ補助ニ依リ約三尺左足ヨリ後退シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シテ之ヲ地上ニ置キ上體ヲ起シ左足ニ吸管ヲ越シツヽ半右向ヲナシテ行進シ前方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ半左向ヲナシ搖桿ノ延線上ニ於テ左向ヲナシ喞筒ニ面シ喞筒ニ對スル定位ニ就ク

第二消防員ハ水源地ニ於テ塵除器ニ面シ停止シタル位置ニ在リテ第三十七條第二號令ニ於テ塵除器ヲ吸管ニ結合スル爲吸管ヲ保持シタルト同一ノ姿勢ヲ取リ兩手ニテ吸管ヲ保持シ第一消防員ノ吸口ヨリ吸管ヲ離脱シ上體ヲ起スト同時ニ吸管ヲ牽キツヽ左足ヲ右足ニ引着ケ更ニ右足ヲ一歩右方ニ開クノ方法ニ依リ約三尺右方ノ地ニ移リ其姿勢ヲ保チテ塵除器ヲ離脱シ右手ニ其把手ヲ握リ右足ヲ左足ニ引着ケ體ヲ起シツヽ左向ヲ爲シ（吸管引上地ノ狀況ニ依リ適宜ノ方法ニ依ル）吸管ノ後方ニ沿フテ前進シ吸口ニ面シ喞筒ニ對スル定位ニ就キ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左掌ヲ下ニシ水槽緣ヲ握リ右手ニテ塵除器ヲ吸曲管口ニ着ケ上體ヲ起シテ停立ス

第三消防員ハ右足ヲ約半歩右方ニ開キ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左掌ヲ下ニシテ水槽緣ヲ握リ右手ニテ覆冠ヲ吸曲管口ヨリ離脱シテ其把手握リ右足ヲ引着ケツヽ體ヲ起シ第一消防員カ吸管ヲ吸口ヨリ離脱シ後退スルヲ待チ直ニ右足ヲ一歩右方後面ニ開キ半右向ヲナシ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左掌ヲ下ニシ水槽緣ヲ握リ右手ニテ覆冠ヲ吸口ニ結合シ體ヲ起シ右足ヲ左足ニ引着ケツヽ更ニ左向ヲナシ後方面喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ半右向ヲナシ左側喞筒臺盤ノ延線ヲ經テ右向ヲナシ前進シ放口前ニ至リ右向ヲナシ喞筒ニ對スル定位ニ就ク

四、喞筒後ヘ――起セ

『起セ』ノ令ニテ各消防員第三十五第一號及第二號令ニ示セル動作ニ準シ喞筒ヲ扛ケ約六十五度ニ起立セシム但シ前鎖ハ之ヲ喞筒臺盤ノ裏面ニ垂下スルモノトス喞筒約六十五度強ニ起立セハ各消防員左ニ揭クル動作ヲナシ之ヲ直立セシム第一消防員ハ喞筒約六十五度ニ起立セハ更ニ右拳ヲ先ニ左拳ヲ之ニ接セシメ兩掌ヲ上ニシテ前鎖ヲ握リ體ヲ後方ニ反ラシ掌中ニ前鎖ヲ滑走セシメツヽ靜カニ喞筒ヲ起サシメ全ク直立セハ鎖ヲ放チテ其ノ位置ニ停立ス

第二消防員ハ喞筒ノ起立スルニ從ヒ左向ヲナシツヽ右足ヲ左足ニ引着ケ之ヲ直立セシメ更ニ左足ヲ一歩左方前面ニ開キテ之ヲ支持ス

第三消防員ハ第二消防員ト左右反對ノ動作ヲナシ喞筒ヲ支持ス

五、喞筒洗ヘ――

此ノ號令ニテ第一消防員ハ半右向ヲナシテ行進シ喞筒ニ沿フテ弧狀ヲ畫キツヽ前進シ搖桿ニ面シ其中心ヨリ約一尺五寸ノ距離ヲ距テヽ停立シ直ニ左足ヲ一歩左方後面ニ開キ適宜ノ方法ニ依リ準備シタル清水ヲ以テ喞筒ノ左内面ヲ洗ヒ更ニ左足ニ引着ケ右足ヲ一歩右方後面ニ開キテ其右内面ヲ洗ヒ終リテ右足ヲ左足ニ引着ケテ停立シ兩掌ヲ下ニシ其手ヲ上方ノ梃鎖ニ加ヘテ搖桿ヲ垂直ナラシメ兩手ヲ放チ其位置ニ停立ス

第二及第三消防員ハ喞筒ヲ支持シタル儘停立ス

六、喞筒――置ケ

『置ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ半左向ヲナシテ行進シ喞筒ニ沿フテ弧狀ヲ畫キツヽ前進シ喞筒臺盤裏面ニ垂レタル鎖ニ面シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立シ喞筒ヲ後ヘ起シタルトキト同一ノ把持法ニ依リ兩手ニ鎖ヲ握リ之ヲ牽キツヽ喞筒ノ傾クニ從ヒ兩手ヲ大環近クニ遞送シ他ノ消防員ト協力シ擦足後退シツヽ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ喞筒ヲ地上ニ達セシメ直ニ右手ニテ鎖ノ中央部ヲ搖桿臺盤ノ鈎ニ掛ケテ上體ヲ起シ半右向ヲナシテ行進シ前方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ半左向ヲナシテ放口前ニ至リ左向ヲ爲シテ放口ニ面シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立ス第二消防員ハ左手ヲ右手ト變換シ右手ハ左手ノ上ヨリ水槽ノ右方前弧部所ニ於テ革紐ヲ取リツヽ水槽緣ヲ握リ左手ハ右手ノ下ヨリ右方前鎖把ヲ握リ喞筒ノ下ルニ從ヒ漸次右回轉ヲナシテ背面シ右手ヲ放チ革紐ヲ喞筒臺

盤ノ下ニ壓セシメサルヿニ注意シツヽ縮歩ニテ前進シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ靜カニ喞筒ヲ地上ニ置キ兩手ヲ放チテ上體ヲ起シ前進シ前方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ左向ヲ爲シ搖桿ノ延線上ニ至リ左向ヲナシ喞筒ニ面シ搖臂ト約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立ス

第三消防員ハ第二消防員ト左右反對ノ動作ヲナシ喞筒ヲ地上ニ置キ兩手ヲ放チ上體ヲ起シ右回轉ヲナシ喞筒ノ左側ニ沿フテ行進シ後方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ左向ヲナシ搖桿ノ延線上ニ至リ左向ヲナシ喞筒ニ面シ搖臂ト約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立ス

七、喞筒ノ水ヲ――出セ

『出セ』ノ令ニテ第一消防員ハ左足ヲ半歩左方ニ開クト同時ニ右向ヲナシツヽ右足ヲ一歩廣ク右方ニ開キ其脚ヲ伸ハシ左脚ヲ屈シ上體ヲ俯シ左掌ヲ下ニシ放口上ニ位セル水槽緣ノ稍前方ニ加ヘ右掌ヲ以テ放口ヲ閉塞シ第二及第三消防員ノ搖桿ヲ上下スルニ隨ヒ閉塞シタル掌ヲ以テ空氣ノ壓迫ニ抵抗シ耐ヘサルニ至レハ急ニ之ヲ放チ同一ノ動作ヲ約二回繼行シ喞筒內ノ水ヲ遊出セシメ終ラハ『止メ』ト令シ其姿勢ヲ保チテ上體ヲ起シツヽ左向ヲ爲シ右足ハ之ヲ開キタル儘上體ヲ稍前方ニ傾ケ兩掌ヲ下ニシ搖桿ノ中心ヨリ約五寸ヲ距テ其前後ヲ握ル

第二及第三消防員ハ兩掌ヲ下ニシ兩手ニテ梃鐶ヲ握リ第二消防員ヨリ始メテ第三消防員ト交互搖桿ヲ上下シ第一消防員ノ『止メ』ノ令アルヿハ搖桿ヲ水平ニシテ其運動ヲ止メ兩手ハ其儘梃鐶上ニ置ク

第一消防員ハ搖桿ヲ握ルト同時ニ上體ヲ起シツヽ他ノ消防員ト共ニ喞筒ヲ左方ニ傾ケ左膝頭ト兩手トヲ以テ喞筒ヲ支ヘ殘瀝ヲ全ク流出セシメ左足ヲ半歩右方ニ移シ之ニ右足ヲ引着ケ兩手ヲ放チ其位置ニ停立ス

第二及第三消防員ハ第一消防員ノ搖桿ヲ握ルト同時ニ喞筒ノ左方ニ位セル足ヲ一歩喞筒ノ左方ニ開キ同時ニ喞筒ヲ第一消防員ノ方向ニ傾ケ內部ノ殘瀝ヲ全ク流出セシメ終テ喞筒ノ右方ニ位セル手ニテ右ノ革紐ヲ把リ梃鐶ト共ニ之ヲ握リ喞筒ヲ舊位ニ復シ各其開キタル足ヲ他ノ足ニ引着ケ兩手ヲ放チ其位置ニ停立ス

第六　喞筒上車準備

第四十四條　前條ノ方法ニ依リ解キ崩シタル器具ヲ喞筒ニ積マシムルニハ順次左ノ號令ヲ下ス

一、放水備方收メ――始メ

『始メ』ノ令ニテ第一消防員ハ放口前ニ於テ左足ヲ一歩右足ノ後方ニ開キ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左手ニテ第一水管ノ牝螺旋部ヲ握リ更ニ左足ヲ舊位ニ復シツヽ水管ニ跨リ右手ニテ牝螺旋部ヲ放口ニ結合シ上體ヲ起シ水管ヲ越ヘツヽ左足ヲ一歩右足ノ後方ニ開キ直チニ左向ヲナシツヽ右足ヲ左足ニ引着ケ更ニ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右掌ヲ上ニシ放口ヨリ約五尺ヲ隔テタル水管部ヲ握リテ上體ヲ起シ其位置ニ停立ス

第二消防員ハ前方搖桿前ニ於テ右回轉ヲナシテ行進シ車尾ヲ距ル約一尺五寸ノ地ニ至リテ停立シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ兩手ニテ車臺ノ臺下ヨリ第一及第二ノ籃軸ヲ把リテ之ヲ右足ノ外方ニ引出シ右ニ回轉シツヽ二籃ノ緣ヲ膚接シタル儘兩軸ヲ下ニシテ之ヲ左腋間ニ持來リ左掌ヲ上ニシ兩軸ノ中央ヲ抱特シ右手ヲ放チ上體ヲ起シ前方喞筒臺盤ノ右方約五寸距テタル延線上ニ向テ行進シ之ヲ通過シ半右向ヲナシテ喞筒ノ右方ニ移リ吸口前ニ進ミ右向ヲナシ約五寸ヲ距テヽ之ニ面シテ停立シ右掌ヲ下ニシ左腋間ニ於ケル二籃ノ上緣ヲ共ニ握リ軸ヲ下ニシタル儘之ヲ右方搖桿臺盤側ニ於テ水槽上ニ並置シ更ニ左掌ヲ下ニシ第一籃ノ上緣ヲ持チ其手ヲ伸ハシテ之ヲ左方搖桿臺盤側ノ水槽上ニ移シ終テ兩掌ヲ下ニシテ二籃ヲ保持ス

第三消防員ハ後方搖桿前ニ於テ半右向ヲナシテ前進シ後方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ半左向ヲ爲シ喞筒ノ右側ニ移リ搖臂ノ延線ヲ經テ左向ヲナシテ前進シ搖桿ノ延線上ニ至リ更ニ左向ヲナシ搖臂ト約一尺ノ距離ヲ距テ之ニ正面シテ停立シ兩掌ヲ下ニシテ梃鐶ニ加ヘ搖桿ヲ檢シ其水平ヲ保持セシメ兩手ヲ保チテ半右向ヲナシテ前進シ前方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ直チニ半左向ヲナシ左方前鐵把前約一尺ノ距離ヲ距テタル地點ニ至リ第一消防員ト水管ヲ距テ停立ス

二、水管――懸ケ

『懸ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ右手ニ第一水管ヲ握リタル儘之ヲ伸ハシ第三消防員ヲシテ先ツ之ヲ受ケシメ兩手ニテ水管ヲ繰出シ第二及第三消防員ヲシテ之ヲ受ケシム

第三消防員ハ第一消防員ヨリ右掌ヲ上ニシテ水管ヲ受ケ左手ヲ加ヘ左足ヲ一歩後方ニ開キツヽ左向ヲナシ左手ヲ前方搖臂ノ下ニ伸ハシ水管ヲ其掌中ニ滑走セシメツヽ之ヲ其搖臂ニ懸ケ左手ニ水管ヲ持チタル儘左足ヲ右足ニ引着ケ更ニ半歩右方ニ移リ第一消防員ノ水管ヲ繰出スニ從ヒ其手ヲ伸ハシ之ヲ第二消防員ニ渡シ兩手ニテ籃ヲ保持シ更ニ第二消防員ヨリ右手ニテ水管ヲ受ケ之ヲ搖桿上ヨリ懸垂シテ水槽内左側前方ノ底部ニ近カラシメ更ニ右手ニ水管ヲ搖桿上ヨリ第二消防員ニ渡シ次ニ第二消防員ヨリ右手ニテ水管ヲ搖桿上ニ受ケ水管ヲ水槽内ニ懸垂スルノ動作ヲ連續シツヽ順次後方ニ移リ第一水管ノ端末ニ至リテ放口前ニ進ム第二消防員ハ水管ヲ第三消防員ニ渡シ兩手ニテ籃ヲ保持シ更ニ第三消防員ヨリ右手ニテ水管ヲ受ケ之ヲ水槽内ニ懸垂スル動作ヲ連續シツヽ順次水管ヲ後方ニ移シ第一水管ノ端末ニ在リテ放口前ニ進ム

第二及第三消防員交互水管ヲ搖桿ニ懸垂スルノ動作中ハ各自交互ニ籃ヲ支持シテ水管ノ懸垂ニ傾ナラシム

第一消防員ハ第一水管ヲ順次ニ繰出シ其端末ニ至レハ其牡螺旋部ヲ第三消防員ニ渡シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左手ニテ第二水管ノ牡螺旋際ヲ把リ上體ヲ起シ第三消防員カ第一水管ノ牡螺旋部ヲ把リテ兩肘ヲ脇ニ着クルト同時ニ右足ヲ一歩右方前面ニ開キ半右方前面ニ第三消防員ヲ望ミテ對立シ直ニ其牝螺旋ヲ第一水管ノ牡螺旋ニ結合ス

第三消防員ハ第一水管ヲ懸垂シ其端末ニ至レハ第一消防員ヨリ其牡螺旋部ヲ受ケ右向ヲナシ其牡螺旋際ヲ右手ニ把リ左手ヲ添ヘテ兩肘ヲ脇ニ着ケ第一消防員ノ第二水管ヲ把リ右足ヲ開クト同時ニ右足ヲ一歩右方前面ニ開キ半右方前面ニ第一及第三消防員ヲ望ミテ對立シ第一消防員ヲシテ第二水管ヲ結合セシム第一及第二水管ノ結合終レハ第一及第三消防員ハ開キタル足ヲ同時ニ他ノ足ニ引着ケ再ヒ元ノ姿勢ニ復シ各消防員協力シテ第一水管ヲ懸ケタル同一ノ動作ニ依リ第二水管ヲ搖桿上ニ懸垂ス次ニ第二消防員ハ第三消防員ノ第二水管ノ牡螺旋ヲ把ルニ至レハ兩手ニテ搖桿上ニ於ケル水管ヲ整理ス

第二水管ノ懸垂終レハ第三消防員ハ第一消防員ヨリ受ケタル第二水管ノ牡螺旋際ヲ右手ヲ先ニシ兩手ニ之ヲ握リ半右向ヲナシ右足ヲ一歩前方ニ開キ兩手ヲ搖臂ノ左角上ニ置キ第一消防員ノ方向ニ螺旋口ヲ約四十五度ノ高サニ向ケ第一消防員ヲシテ管槍ヲ着ケシム次ニ第二消防員ハ第一消防員ノ管槍ヲ附着スル間第一水管ニ於ケルト同シク搖桿上ニ於ケル水管ヲ整理ス

第一消防員ハ第二水管ノ懸垂終レハ其牡螺旋部ヲ第三消防員ニ渡シ直ニ前方唧筒臺盤ノ延線ヲ通過シテ唧筒ノ前方ニ進ミ車尾ニ對シ其左角ト約一尺五寸ヲ距テタル地點ニ至リテ停立シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右手ニハ管槍ヲ取リ第四十三條第一號々令ニ示セルト同一ノ方法ニテ之ヲ右腋間ニ挾持シ左回轉ヲナシテ行進シ唧筒ノ左側ヲ經テ後方唧筒臺盤ノ延線ヲ通過シ直ニ左向ヲナシテ前進シ搖桿ノ延線上ニ於テ左向ヲナシ搖臂ト約一尺ヲ距テ、唧筒ニ面シテ停立シ管槍ヲ右腋間ヨリ出シ左掌ヲ上ニシ管槍ノ送水管部ヲ水管トノ結合部際ニ於テ右掌ヲ下ニシ之ヲ放水管部トノ結合部下ニ於テ握リ左拳ハ之ヲ搖臂ノ左角上ニ右拳ハ左拳ヨリ約四十五度高クシテ放水管部ヲ右肘外ニ出シ同時ニ半左向ヲナシツヽ右足ヲ一歩後方ニ開キ管槍ノ結合部ヲ第三消防員ノ保持セル水管ヲ牡螺旋ニ結合シ終レハ第三十七條第三號々令ニ於ケルト同一ニ左手ニ管槍ヲ握リ直ニ其肘ヲ腋ニ着ケ半右向ヲナシツヽ右足ヲ左足ニ引着ケ右掌ヲ下ニシ左方搖臂ニ懸カレル水管ヲ右方搖臂上ニ移シ右手ハ其儘同水管上ニ加ヘ第三十七條第三號々令ニ示セル姿勢ニ準シテ停立ス

第三消防員ハ管槍ノ結合終レハ左ニ回轉シテ前方ニ行進シ車尾ニ對シ其左角ト約一尺五寸ノ距離ヲ距テタル地

點ニ進ミテ停立シ直ニ右向チナシ第二消防員ト相對シ同時ニ膝チ屈スルナク上體チ左方前面ニ傾ケ車臺ノ臺下ニ於ケル第一木梃ノ柄部チ右掌チ下ニシテ之チ握リ右足チ一歩右方ニ開クト同時ニ木梃チ引出シ上體チ起シ左手チ其中央部ニ加ヘ之チ起シテ右方ニ旋回セシメツヽ兩手チ交換シ梃頭チ喞筒ノ方向ニ轉セシメ直ニ左足チ引着ケ更ニ右足チ一歩右方ニ開キテ停立シ左側水槽緣ノ延線上ニ於テ上體チ右方ニ傾ケ木梃チ左方搖桿臺盤側ニ於ケル第一籃ト水管トノ間ニ挿入シ第二消防員ト同時ニ左足チ右足ニ引着ケツヽ右向ヲナシ其ノ先端チ約一尺五寸水槽外ニ出シテ之チ水槽上ニ置キ上體チ起ス

第二消防員ハ第三消防員ト同時ニ右向チナシテ行進シ第三消防員ト同時ニ左右反對ノ動作ニ依リ第二木梃チ車臺ノ臺下ヨリ引出シ之チ右方搖桿臺盤側ニ於ケル第二籃ト水管トノ間ニ挿入シ第三消防員ト同時ニ右足チ左足ニ引着ケツヽ左向チナシ其先端チ約一尺五寸水槽外ニ出シテ之チ置ク第二消防員ハ半左向チナシテ前進シ吸口前ニ第三消防員ハ半右向チナシテ前進シ放口前ニ至リ共ニ約一尺ノ距離チ距テヽ喞筒ニ面シテ停立シ水槽上ニ裝置シタル器具ノ位置チ正シテ其手チ放チ共ニ其位置ニ停立ス

第一消防員ハ第二及第三消防員ノ木梃チ挿入セントスルトキ左足チ一歩後方ニ開キ管槍チ正シク左方搖桿臺盤ノ左側第一木梃ノ上ニ挿入シツヽ左足チ右足ニ引着ケ左掌チ上ニシ搖臂ノ下ニ右掌チ下ニシテ水管チ搖臂ノ内際ニ於テ上下ヨリ之チ握ル

三、革紐――結ヘ

『結ヘ』ノ令ニテ第一消防員ハ其儘停立シ第二及第三消防員チシテ後方革紐チ一回纏卷セシム

第二消防員ハ左足チ一歩左方ニ開キ兩手ニテ後方革紐チ以テ籃軸木梃及水管チ一回纏卷シ左足チ右足ニ引着ケ更ニ右足チ一歩右方ニ開キ前方革紐チ以テ後方革紐ニ於ケルト同一ノ方法ニ依リ之チ纏卷シ兩手ニ革紐チ把リタル儘左足チ右足ニ引着ケツヽ左向チナシ左掌中ニ革紐チ滑走セシメツヽ左拳チ左方ニ伸シテ之チ放チ足擦リ後退シテ第一消防員ト同時ニ左右反對ノ動作ニ依リ先ツ後方革紐チ結ヒ更ニ前方革紐チシテ管槍ノ放水管部チモ纏卷シ右足チ左足ニ引着ケツヽ右向チナシ右掌中ニ革紐チ滑走セシメツヽ右拳チ右方ニ伸シテ之チ放チ足擦リ後退シテ第一消防員ト一線上ニ整頓ス

第一消防員ハ第二及第三消防員ノ後方革紐チ一回纏卷シ終ルト同時ニ兩手チ放チ半左向チナシテ駈歩行進シ後方喞筒臺盤ノ延線チ通過シ半右向チナシテ前進シ前方喞筒臺盤ノ延線チ經テ右向チナシ搖桿ノ延線上ニ進ミ右向チナシ喞筒ニ面シ搖臂ト約一尺ノ距離チ距テヽ停立シ後方革紐チ結ハシメタルト同一ノ姿勢ニ準ヒ兩手チ上下反對ナラシメテ水管チ上下ヨリ握リ第二及第三消防員チシテ前方革紐チ一回纏卷セシメ兩手チ放チテ停立ス

各消防員一線上ニ整頓シタルトキハ各同時ニ左向チナシテ行進シ第二消防員ハ吸管ノ牡螺旋部ヨリ約二尺ノ距離チ距テ第一消防員其中央部ニ第三消防員ハ其牡螺旋部ヨリ約二尺ノ距離チ距テタル吸管ノ前方ノ地點ニ於テ各同時ニ右向チナシテ前進シ吸管ニ對シ約五寸ノ距離チ距テヽ停立ス

四、吸管――曲ケ

『曲ケ』ノ令ニテ各消防員同時ニ膝チ屈スルナク上體チ俯シ兩掌チ上ニシ其間約二尺ノ間隔チ取リテ吸管チ握リ上體チ起シテ第三十七條第一號々令ニ於テ吸管チ卸シタルニ反對ノ動作チ以テ之チ水槽上ニ曲ケ次ニ第一消防員ハ上體チ俯シ兩掌チ相對セシメテ吸管ノ兩端チ支ヘ第二消防員ハ吸管チ曲ケタル姿勢ニテ前方革紐チ以テ二重ノ吸管チ共ニ一同纏卷シ其尾錠チ搖桿上ヨリ第三消防員ニ渡シ右足チ左足ニ引着ケ更ニ左足チ一歩左方ニ開キ後方革紐チ以テ二重ノ吸管ト共ニ一回纏卷シ第三消防員ヨリ搖桿上ニテ右手ニ尾錠チ受ケ之ニ革紐チ通シテ強ク牽キツヽ尾錠チ嵌ム

第三消防員ハ第二消防員ト同時ニ左右反對ノ動作チ爲シ前方尾錠チ第二消防員ヨリ受テ之ニ革紐チ通シ次ニ後

方革紐ヲ第二消防員ニ渡シ第二消防員ノ後方革紐ニ於ケル尾錠ヲ嵌ムルト同時ニ前方革紐ニ於ケル尾錠ヲ嵌ム

第一消防員ハ第二及第三消防員カ尾錠ヲ嵌メントスル𪜈上體ヲ起シ兩手ヲ左右挺縗上ニ移シテ搖桿ヲ水平ニ保持シ尾錠ヲ歇メ終リタル𪜈各消防員同時ニ手ヲ放チ第一消防員ハ其位置ニ停立シ左腰ノ螺旋回ヲ右手ニ取リ之ヲ左手ニ移シ更ニ右手ヲ伸ハシ第二及第三消防員ヨリ螺旋回ヲ右手ニ受ケ左手ノ螺旋回ヲ右手ニ移シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ之ヲ右足ノ外側前ニ置キ上體ヲ起ス

第二及第三消防員ニ尾錠ヲ嵌メタル革紐ノ方向ニ開キタル足ヲ他ノ足ニ引着ケ右手ニテ螺旋回ヲ左腰ヨリ取リ第三消防員ハ左手第二消防員ハ右手ニテ之ヲ第一消防員ニ渡シ其位置ニ停立ス

第三節　喞筒應急操法

第四十五條　各消防員喞筒車ニ對スル定位ニ在ル𪜈應急ノ取扱方ヲ爲サシムルニハ順次左ノ號令ヲ下ス但シ水管三個以上ヲ要スル𪜈ハ本條第二號々令ヲ下シ次ニ『水管幾個用意』ノ號令ヲ下スモノトス

一、急キ掛レ——

各消防員及搖桿手本條ノ動作ヲナスニハ其行進ノ步度ハ駈步トス

此ノ號令ニテ各消防員第二十八條ニ示セル各號ノ動作ヲ順次迅速ニ行ヒ喞筒ヲ下車セシム

二、備ヘ——

此號令ニテ各消防員及搖桿手第三十七條及第三十八條ニ示セル各號ノ動作ヲ順次迅速ニ行ヒ放水準備及放水用意ヲナサシム

三、始メ——

此ノ號令ニテ各消防員及搖桿手第三十九條ニ示セル動作ヲ行ヒ放水ヲナサシム

四、止メ——

此ノ號令ニテ各消防員及搖桿手第四十條ニ示セル動作ヲ行ヒ放水ヲ止メ喞筒ノ運用ヲ停止セシム

五、崩セ——

此ノ號令ニテ各消防員及搖桿手第四十三條ニ示セル各號ノ動作ヲ順次迅速ニ行ヒ放水準備ヲ解放スヘシ但第四號乃至第七號々令ニ依ル動作ヲ省略スルモノトス本號ノ號令ニ依ル動作ヲ終リタル𪜈ハ第一消防員ハ直ニ半右向ヲナシ第二消防員ハ右向ヲナシ第三消防員ハ左向ヲナシ各消防員直ニ第四十三條第七號々令ニ依ル位置ニ移リテ停立ス

六、收メ——

此ノ號令ニテ各消防員第四十四條ニ示セル各號ノ動作ヲ順次迅速ニ行ヒ喞筒ノ上車準備ヲナサシム

七、積メ——

此號令ニテ各消防員第三十五條ニ示セル各號ノ動作ヲ順次迅速ニ行ヒ喞筒ヲ上車セシム

第三章　乙號喞筒操法

總則

第四十六條　乙號喞筒操法ハ本章ノ規定ニ依ルノ外尙第二章ノ規定ヲ準用ス

第一節　喞筒操法

第一　喞筒下車法

第四十七條　乙號喞筒ヲ下車セシムルニハ先ツ各消防員ヲ喞筒車ニ對スル定位ニ就カシメタル後順次左ノ號令ヲ下ス

一、喞筒卸方——始メ

『始メ』ノ令ニテ第一消防員ハ右向ヲ爲シテ行進シ右方車輪ノ延線ヲ通過シ左向ヲ爲シテ前進シ第二消防員ノ通路ノ內側ヲ經テ右方前鐵把前ニ至リ左向ヲ爲シテ之ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テ、停立ス

第二消防員右向ヲ爲シ更ニ半右向ヲ爲シツ、行進シ前方喞筒臺盤ノ延線上ニ至リ更ニ半右向ヲ爲シテ前進シ第一消防員ノ通路ノ外側ヲ經テ右方後鐵把前ニ至リ右向ヲ爲シテ之ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テ停立ス

第三消防員ハ左向ヲ爲シ更ニ半左向ヲ爲シツ、行進シ前方喞筒臺盤ノ延綿上ニ至リ更ニ半左向ヲ爲シテ前進シ左方後鐵把前ニ至リ左向ヲ爲シテ之ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テ、停立ス

二、吸管――卸セ

『卸セ』ノ令ニテ第一消防員ハ左足ヲ一歩左方ニ開キ兩手ニテ三箇ノ吸管ヲ結ヘル第二革紐ヲ解キ同一姿勢ニテ第一革紐ヲ解キ更ニ左手ヲ下ニシ其ノ掌ヲ上ニシ左手ヲ上ニシ其掌ヲ下ニシ第一吸管ノ牝螺旋際ヲ上下ヨリ兩手ニ握リ第二消防員ト協力シテ第一吸管ヲ吸管懸ヨリ外シ半左向ヲ爲シツ、左足ヲ一歩左方ニ開キ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ其牝螺旋口ヲ喞筒ニ對セシメ車輪ト約一寸ノ距離ヲ距テタル吸口直下ノ車軸延線上ニ於ケル地點ニ之ヲ置キ上體ヲ起シ左足ヲ開キタル儘半右向ヲ爲シツ、第一吸管ニ於ケルト同一ノ動作ニ依リ第二吸管ヲ吸管懸ヨリ外シ其ノ牝螺旋際ヲ兩手ニ把持シ右足ヲ左足ニ引着ケツ、左向ヲ爲シ左横足ニテ第一吸管ノ牡螺旋部近クニ至リテ停立シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ第一吸管ノ後方側面ニ於テ兩螺旋ヲ約六寸喰違ハセ地上ニ置キ上體ヲ起シ右向ヲ爲シ更ニ半右向ヲ爲シツ、前進シ右方前鐵把前ニ至リ半左向ヲ爲シ之ニ正面シテ停立シ左手ヲ上ニシ其掌ヲ下ニシ第三吸管ノ塵除器際ヲ右手ヲ下ニシ其掌ヲ上ニシ兩手ノ間約六寸ノ間隔ヲ取リテ第三吸管ヲ握リ第二消防員ト協力シテ之ヲ吸管懸ヨリ外シ直ニ頭上前ニ持來リ左右ノ兩掌ヲ上下反對ナラシメテ之ヲ左ニ回轉セシメツ、左足ヲ一歩右足ノ後方ニ開キ左回轉ヲ爲シ右足ヨリ駈歩前進シ第一及第二吸管ノ前方ヲ通過シ第二消防員ノ停立スルヲ待チ右向ヲ爲シテ停立シ第二消防員ノ牝螺旋部ヲ置クト同時ニ膝ヲスルコトナク上體ヲ俯シツ、塵除器部ヲ同一線上ニ於ケル地上ニ置キ上體ヲ起シ右向ヲ爲シ更ニ半右向ヲ爲シツ、前進シ吸管ノ前方ヲ通過シ右轅臂ヨリ約一寸轅木ヨリ約五寸ノ距離ヲ距テタル地點ニ至リ左ニ回轉シツ、喞筒ニ正面シテ停立ス第二消防員ハ第一消防員ト同時ニ右足ヲ一歩右方ニ開キ兩手ニテ第三革紐ヲ解キ同一姿勢ニテ第四革紐ヲ解キ更ニ右手ヲ上ニシテ其掌ヲ下ニシ吸管ノ螺旋部際ヲ左手ヲ下ニシテ其掌ヲ上ニシ兩手ノ間約六寸ノ間隔ヲ取リテ第一吸管ヲ握リ第一消防員ト協力シテ之ヲ吸管懸ヨリ外シ第一消防員カ第三吸管ニ對シ左ニ回轉セシメツ、左回轉ヲ爲シ右足ヨリ前進シタルト左右反對ノ動作ヲ爲シ第一消防員カ牝螺旋口ヲ車軸ノ延線上ニ向ツテ持チ來ルニ伴ヒ左足ヨリ駈歩行進シ適宜弧狀ヲ畫キツ、前進シ其方向ノ全ク左向ヲ爲スニ至リテ停立シ第一消防員ノ牝螺旋口ヲ地上ニ置クト同時ニ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ正シク之ヲ車軸ノ延線上ニ於ケル地上ニ置キ上體ヲ起シ左向ヲ爲シ更ニ半左向ヲ爲シツ、前進シ右方後鐵把前ニ至リ半右向ヲ爲シテ舊位ニ復シ第二吸管ヲ第一吸管ニ於ケルト同一ノ動作ニ準ヒテ之ヲ地上ニ置キテ舊位ニ復シ左手ヲ下ニシ其掌ヲ上ニシ右手ヲ上ニシ其掌ヲ下ニシ第三吸管ノ牝螺旋際ヲ上下ヨリ兩手ニ握リ之ヲ吸管懸ヨリ外シ直ニ右足ヲ一歩後方ニ開キツ、右向ヲ爲シ横歩ニテ右方ニ進ミ第一消防員カ第二吸管ニ於ケルト同一ノ方法ニ依リ其牝螺旋部ト第二吸管ノ牝螺旋部トヲ喰違ハセテ之ヲ地上ニ置キ上體ヲ起シ第一消防員ノ塵除器部地上ニ置キ右向ヲ爲スト同時ニ左向ヲ爲シ吸管ノ後側ヲ通過シ右方車轅前ニ於テ右足ニテ吸管ニ跨リツ、之ニ正面シ約五寸ノ距離ヲ距テ、停立ス

第三消防員ハ半右向ヲ爲シツ、右足ヲ一歩廣ク前面ニ開キ左足ヲ之ニ引キ着ケツ、左ニ回轉シテ後方搖桿ノ延線上ニ於テ車尾ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テ、停立シ右手ニテ畫ノ鋼鎖匙ヲ回ハシ左手ニ鎖匙ヲ外シ右手ニテ匣蓋ヲ開キテ參個ノ螺旋回ヲ同時ニ取出シ之ヲ喞筒臺盤ノ中央部ニ置キ其手ニテ蓋ヲ爲シ左手ニテ鎖匙ヲ挾メ右手ニテ鋼鎖匙ヲ掛ケ左手二三個ノ螺旋回ヲ取リ左向ヲ爲シ左方車輪ノ延線ヲ通過シテ右向ヲ爲シ前進シ車轅

ト左方後鐵把トノ中間ニ於テ車輪ト約五寸ノ間隔ヲ隔テタル位置ニ至リ右向ヲ爲シテ停立シ右掌ヲ下ニシ管槍ヲ取出シ其手ヲ管槍ノ結合鎹部約六寸上部ニ移シテ之ヲ握リ結合鎹管ヲ下ニシ放水管部ヲ約四十五度ノ高サニシ右掌ヲ上ニシ右腋間ニ挾持シ其肘ヲ屈シ輕ク之ヲ脇ニ着ケ左足ヲ一歩廣ク後方ニ開キ左向ヲ爲シツヽ右足ヨリ前進シ左方前鐵把前ヲ通過シ直ニ左回轉ヲ爲シテ停立シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ管槍ノ結合鎹ヲ左方ニ向ケテ管槍ヲ地上ニ置キ螺施回ヲ其後方ニ結合鎹ト齊頭ニ並置シ上體ヲ起シ一歩左方ニ於ケル車輪ノ延線上ニ移リ前方輪帶ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ左掌ヲ下ニシテ第一木梃ノ柄部ノ一端ヲ右掌ヲ下ニシ其ノ間約一尺ノ間隔ヲ取リテ木梃ヲ握リ之ヲ木梃懸ヨリ外シ同時ニ右足ヲ一歩右方ニ開キテ管槍ノ前方側面ニ於テ其ノ金具ヲ前方ニ其ノ柄部ヲ管槍ノ結合鎹ト齊頭ニ並置シ其ノ位置ニ在リテ第二木梃ヲ取リ第一木梃ニ於ケルト同一ノ方法ニテ之レヲ其ノ前方ニ並置シ上體ヲ起シ左足ヲ一歩廣ク前面ニ開キ右足ヲ左足ニ引着ケツヽ左向ヲ爲シ車轂ニ正面シ約五寸ノ距離ヲ距テ停立ス

三、車頭――扛ケ

『扛ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ左足ヲ一歩前方ニ開キ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ兩手ヲ以テ鼻栓ヲ拔キ直ニ右向ヲ爲シツヽ左掌ヲ下ニシ喞筒ノ臺盤止際ニ於テ轅木ノ上面ノ右掌ヲ上ニシ轅臂ニ近ク轅木ノ下面ヲ握リ上體ヲ起シツヽ靜カニ車頭ヲ扛ケ車尾ヲ地上ニ達セシメ左向ヲ爲シ右足ヲ一歩廣ク前方ニ開クト同時ニ右手ヲ放チ其掌ヲ下ニシ喞筒臺止ノ上面ヲ握リ轅木ヲ右肩ニ擔ヒ上體ヲ稍前方ニ傾ケ之ヲ支持ス

第二第三消防員ハ第二十八條第三號及第四號號令ニ示セル動作ニ準シ兩手ヲ水槽緣ニ加ヘテ喞筒ヲ壓シ其顚覆ヲ防ク

四、車ヲ除レ――

此號令ニテ各消防員ハ螺施回ヲ取ル動作ヲ除キ第二十八條第五號々令ニ示セル動作ニ準シ喞筒ヲ地上ニ卸シ第一消防員ハ車輪ヲ後退セシメテ車頭ヲ地上ニ置キ左足ヲ右足後方ニ開キツヽ左向ヲ爲シテ行進シ喞筒ニ對スル定位ニ就ク次ニ第一消防員ハ直ニ兩掌ヲ下ニシ其ノ間約五寸ノ間隔ヲ取リテ左右轅臂ヲ握リ前方搖桿ヲ水平ニリ約五寸壓シ下ケ第二及第三消防員カ前鎹ヲ挺鎹ヨリ外スヲ待チ兩掌ヲ上ニシテ搖臂ヲ持替ヘ更ニ前方搖桿ヲ約一尺高ク扛ケ第二及第三消防員カ後鎹ヲ外スヲ待チ之ヲ水平ニ直シ第二消防員カ分水嘴子ヲ以テ吸口ヲ開キ兩手ヲ放ツト同時ニ兩手ヲ放チ其位置停立ス

第二消防員ハ第一消防員カ定位ニ就クト同時ニ右足ヲ一歩右方ニ開キ右手ニテ右方前鎹ヲ挺鎹ヨリ外シ之ヲ右前方弧部近クニ於テ水槽內ニ懸垂シ右足ヲ左足ニ引着ケ更ニ左足ヲ一歩左方ニ開キ左手ニテ右方後鎹ヲ挺鎹ヨリ外シテ之ヲ右方後弧部近クニ於テ水槽內ニ懸垂シ左足ヲ引着ケ直ニ上體ヲ俯シ右肘ヲ屈シ其ノ掌ヲ後方ニ向ケテ分ノ直立セル把手ヲ左肘ヲ伸ハシ其掌ヲ上ニシ他ノ把手ヲ握リ右足ヲ一歩後方ニ開キ兩脚ヲ屈シ右肘ヲ伸ハシ左手ヲ屈シツヽ嘴子ヲ回轉シテ其ノ把手ヲ喞筒ノ前後ニ向ケ換ヘ吸口ヲ開キ右足ヲ舊位置ニ復シ兩手ヲ放チ體ヲ起シ其位置ニ停立ス但シ吸管ノ使用ヲ爲サヽルトキハ嘴子ヲ回轉セサルモノトス

第三消防員ハ第二消防員ト同時ニ左右反對ノ動作ヲ爲シテ前後ノ兩鎹ヲ外シ之ヲ水槽內ニ懸垂シ嘴子ヲ回轉シテ放口ヲ開キ其ノ位置ニ停立ス

第二　喞筒上車法

第四十八條　喞筒ヲ上車セシムルニハ先ツ各消防員ヲ喞筒ニ對スル定位ニ就カシメタル後順次左ノ號令ヲ下ス

一、喞筒積方――始メ

『始メ』ノ令ニテ第一消防員ハ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ兩掌ヲ上ニシ前方喞筒臺盤上ノ鐵鎹ヲ隔テヽ其ノ臺盤緣ヲ握ル

第二及第三消防員第三十五條第一號號令ニ示セルト同一ノ動作ニ依リ左右ノ前鐵把ヲ握ル

二、喞筒扛ケ——

此ノ號令ニテ第一消防員ハ前鎖ヲ喞筒臺盤上ニ投スルノ動作ヲ除クノ外他ノ消防員ト共ニ第三十五條第二號令ニ示セルト同一ノ動作ヲ爲シ第一消防員ハ第二及第三消防員ノ兩手ヲ交換シテ左(右)向ヲ爲スト同時ニ兩掌ヲ下ニシ喞筒臺盤ノ左右兩角近クヲ握リ協力シテ喞筒ヲ六十五度强ニ起立セシメ第二及第三消防員ニ之ヲ託シテ停立ス

第二及第三消防員ハ第三十五條第二號號令ニ示セルト同一ノ動作ヲ爲シ喞筒ヲ六十五度强ニ起立セシメテ之ヲ支持ス

三、車ヲ着ケ——

此ノ號令ニテ第一消防員ハ左向ヲ爲シ史ニ半左向ヲ爲シツヽ行進シ後方車臺ノ延線ヲ通過シ半左向ヲ爲シ車輪ノ右方ヲ經テ轅臂ノ延線ヲ通過シ左向ヲ爲シテ轅木ノ延線上ニ至リ更ニ左向ヲ爲シ車頭ニ正面シテ停立シ第三十五條第三號號令ニ示セルト同一ノ動作ヲ爲シ右足ヲ左足ヨリ一歩前方ニ開キタル儘上體ヲ稍前方ニ傾ケ轅木ヲ右肩ニ擔ヒ車輛ノ輾轉ヲ防ク

第二及第三消防員ハ其儘喞筒ヲ支持ス

四、喞筒置ケ——

此ノ號令ニテ第一消防員ハ其儘車輛ヲ支持シ車輛輾ヲ開ク第二消防員ハ第三消防員ト協力シテ喞筒臺盤ヲ揷板間ニ嵌入セシメ兩手ヲ放チ右足ヲ左足ニ引着ケツヽ半右向ヲナシ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ頭ヲ右方ニ傾ケ左掌ヲ下ニシ右方後鐵把ヲ握リ他ノ手ハ其肘ヲ屈シテ車輪ノ一輻ヲ握ル

第三消防員ハ第二消防員ト左右反對ノ動作ヲナシ左方鐵把及車輪ノ一輻ヲ握ル

五、轅木——置ケ

『置ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ右手ヲ放チ右足ヲ一歩廣ク左足ノ後方ニ開キツヽ右向ヲナスト同時ニ右掌ヲ下ニシ轅臂近クニ於テ轅木ノ上ニ加ヘ左手ハ其ノ儘轅木ヲ握リ他ノ消防員ト同時ニ轅木ヲ體骨ノ高サニ下ケテ之ヲ支持シ他ノ消防員カ共ニ兩掌ヲ下ニシ後方臺盤緣ニ掛ケ足ヲ後方ニ開クヲ待チ同時ニ協力シテ膝ヲ屈スルヿナシ上體ヲ俯シツヽ轅木支柱ヲ地上ニ達セシメ再ヒ兩足尖ニテ左向ヲナシ體ヲ前方ニ傾ケ兩手ニテ鼻栓ヲ揷入シ其先端ヲ下方ニ曲ケテ栓止ヲナシ左足ヲ右足ニ引着ケツヽ體ヲ起シ其位置ニ停立ス

第二消防員ハ第三消防員ト協力シテ同時ニ喞筒ノ後部ヲ扛ケ上體ヲ起シ直チニ半左向ヲナシ左足ヲ一歩左方ニ開キ右足ヲ左足ニ引着ケ半右向ヲナシツヽ後方搖桿ノ延線ト後方喞筒ノ臺盤右角トノ中央ニ移リ約一尺ノ距離ヲ距テヽ車尾ニ正面シ兩掌ヲ下ニシ其間五寸ノ間隔ヲ取リテ後方臺盤緣ニ掛ケ上體ヲ傾ケツヽ左方ヲ一歩右方ニ開クト同時ニ之ヲ伸ハシ右脚ヲ屈シ第三消防員ト共ニ喞筒臺盤ヲ前方ニ壓シ體ヲ起シツヽ左足ヲ右足ニ引着ケ半右向ヲナシ右足ヲ一歩前方ニ開キ左方ヲ右足ニ引着ケ左ニ回轉シツヽ第四十七條第一號號令ニ示セル位置ニ於テ鐵把ニ正面シテ停立ス

第三消防員ハ第二消防員ト左右反對ノ動作ヲナシ第四十七條第一號號令ニ示セル位置ニ於テ鐵把ニ正面シテ停立ス

六、吸管——積メ

『積メ』ノ令ニテ第一消防員ハ半左向ヲナシテ駈歩行進シ第三吸管ノ塵除器前ニ至リ半右向ヲナシ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右手ヲ上ニシ其掌ヲ上ニシ其間約六寸ノ間隔ヲ取リテ管吸ヲ握リ上體ヲ起シ頭上前ニ於テ左右兩掌ヲ上下反對ナラシメ之ヲ右ニ回轉セシメ右向ヲナシ更ニ半右向ヲナシテ駈歩前進シ前鐵把前ニ之ヲ持來リ半左向ヲナシ第二消防員ト協力シテ之ヲ吸管懸ニ掛ケ次ニ其位置ニ於テ半左向ヲナシ右足ヲ一歩左方ニ開キ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右手ヲ下ニシ其掌ヲ下ニシテ第二吸管ヲ其牝螺旋際ニ於テ上下ヨリ兩手ニ之ヲ握リ上體ヲ起シ第二消防員ト協力シテ之ヲ掛ケ更ニ第一吸管ヲ第二吸管ニ於ケルト同一

ノ方法ニテ之ヲ齊頭ニ掛ケ終ルト同時ニ半右向ヲナシツヽ左足ヲ右足ニ引着ケ第一革紐ヲ結ヒ左足ヲ一歩左方ニ開キ第二革紐ヲ結ヒ螺旋回ヲ右手ニテ左腰ヲ取リ之ヲ左手ニ移シ第二消防員ニ渡シ第二消防員カ右足ヲ左足ニ引着ケルト同時ニ左足ヲ右足ニ引着ケ第四十七條第一號々令ニ於ケルト同一ノ位置ニ停立ス

第二消防員ハ半右向ヲナシ右足ヲ一歩右方ニ開キ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右手ヲ上ニシテ其掌ヲ下ニシ左手ヲ下ニシテ其掌ヲ上ニシ第三吸管ヲ其牝螺旋際ニ於テ上下ヨリ兩手ニ之ヲ握リ上體ヲ起シ第一消防員ト協力シ右足ニ引着ケツヽ半左向ヲナシテ之ヲ吸管懸ニ掛ケ右ニ回轉シツヽ駈歩吸管ノ後方ヲ通過シ第二吸管ノ牡螺旋際ニ進ミ半左向ヲナシテ之ニ正面シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ左手ヲ上ニシテ其掌ヲ下ニシ牡螺旋際ヲ右手ヲ下ニシテ其掌ヲ上ニシ其間約六寸ノ間隔ヲ取リテ吸管ヲ握リ上體ヲ起シ頭上ヲ前ニ於テ左右ノ兩掌ヲ上下反對ナラシメ之ヲ左ニ回轉セシメツヽ左向ヲナシ更ニ半左向ヲナシテ駈歩前進シ後鐵把前ニ持來リテ半右向ヲナシ第一消防員ト共ニ之ヲ掛ケ第一吸管ヲ第二吸管ニ於ケルト同一方法ニテ之ヲ掛ケ第四革紐ヲ結ヒ第一消防員カ左足ヲ一歩左方ニ開クト同時ニ右足ヲ一歩右方ニ開キ第三革紐ヲ結ヒ右手ニテ螺旋回ヲ左腰ヨリ取リテ左手ニ移シ次ニ右手ニテ第一消防員ヨリ螺旋回ヲ受ルト同時ニ右足ヲ左足ニ引着ケ之ヲ左手ニ移シ其手ヲ伸ハシテ二個ノ螺旋回ヲ第三消防員ニ渡シ第四十七條第一號々令ニ於ケルト同一ノ位置ニ停立ス

第三消防員ハ左足一歩廣ク後方ニ開キ左向ヲナシツヽ右足ヨリ前進シ喞筒ノ左方ヲ經テ木梃ノ先端ヲ通過シ直ニ左回轉ヲナシ第四十七條第二號號令ニ依リ木梃ヲ卸シタルトキ右足ヲ開キ位置ニ於テ停立シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ木梃ヲ卸シタルトキト同一ノ方法ニテ兩手ニ第二木梃ヲ把持シ左足ヲ一歩左方ニ開キツヽ上體ヲ前方ニ傾ケ之ヲ木梃懸ニ掛ケ同一姿勢ニテ第一木梃ヲ同一方法ニ依リ之ヲ掛ケ終テ上體ヲ起シツヽ左足ヲ右足ニ引着ケ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ第四十七條第二號々令ニ於ケルト同一ノ方法ニテ管槍ヲ右腋間ニ挾持シ上體ヲ起シ半左方ニ前進シテ第四十七條第二號々令ニ依リ管槍ヲ取リ出ス爲メ停立シタルト同一ノ位置ニ至リ停立シ半左向ヲナシテ之ニ正面シ管槍ノ結合鐶ヲ水槽内ニ於ケル排水管ノ後方ニ於テ塵除器ト水槽ノ内側トノ中央部前ニ置キ其放水部ハ後方ニ向ケ左側後弧部上ニ出シテ水管ノ左方水槽緣ニ倚セ置キ直ニ右向ヲナシテ前進シ後方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ左向ヲナシ喞筒ノ後方ニ移リ搖桿ノ延線上ニ進ミ左向ヲナシ車尾ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テ停立シ直ニ右手ニテ左腰ノ螺旋回ヲ取リ喞筒臺盤上ノ中央ニ置キ第四十七條第二號々令ニ於ケルト同一ノ方法ニテ匣蓋ヲ開キ右手ニテ第二消防員ヨリ二個ノ螺旋回ヲ受ケ左手ヲ加ヘテ喞筒臺盤上ニ於ケル螺旋回ト共ニ之ヲ把持シ第四十七條第二號號令ノ動作ニ準シ反對ノ順序ニ依リ螺旋回ヲ匣内ニ納メテ蓋ヲナシ鋼鎖點ヲ掛ケ半左向ヲナシ一歩廣ク前方ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケツヽ右ニ回轉シテ鐵把ニ正面シ第四十七條第一號々令ニ於ケルト同一ノ位置ニ停立ス

第四十七條第二號々令ニ依リ卸シタル吸管ヲ本條順序ニ依ラスシテ積ムトキハ本號々令ノ動作ニ準ンテ之ヲ積ムモノトス

第三　放水準備

第四十九條　放水準備ヲ爲サシムルニハ先ツ各消防員ヲシテ第四十七條第四號々令ニ依ル動作ヲ爲サシメタル後順次左ノ號令ヲ下ス

一、放水備方――始メ

『始メ』ノ令ニテ第一消防員ハ半左向ヲ爲シテ行進シ前方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ半右向ヲ爲シテ前進シ喞筒ノ右方ニ移リ吸口前ニ至リ直ニ右向ヲ爲シテ之ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停止シ右手ヲ伸ハシ第三消防員ヨリ一箇ノ螺旋回ヲ受ケ兩手ニテ之ヲ左腰ニ帶ヒ其ノ位置ニ停止ス

第二消防員ハ一歩左方ニ移リ右方後鐵把ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停止ス

回ヲ受ケ之ヲ左腰ニ帶ヒ其位置ニ停止ス

第三消防員ハ左足ヲ一歩左方後面ニ開キツヽ左向ヲ爲シ上體ヲ俯シ左手ニテ三個ノ螺旋回ヲ取リ體ヲ起シ左足ヲ右足ニ引着ケツヽ右向ヲ爲シ二箇ノ螺旋回ヲ右手ニ移シ其手ヲ第一消防員ノ左肩前ニ伸ハシ第一及第二消防員ヲシテ各其ノ一箇ヲ取ラシメ他ノ一箇ヲ兩手ニテ他ノ消防員ト同時ニ左腰ニ帶ヒ其ノ位置ニ停立ス

二、吸水管――着ケ

『着ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シツヽ左足ヲ一歩右足ノ後方ニ開キ兩手ニテ第一吸管ヲ其ノ牝螺旋際ニ於テ握リ之ヲ吸口前ニ引寄セ左足ヲ舊位ニ復シツヽ吸管ニ跨リ之ヲ吸口ト水平ニ兩脚ニテ挾持シ頭ヲ左方ニ傾ケ第二消防員ノ補助ヲ待テ右手ニテ其牝螺旋ヲ吸口ニ結合シ次ニ右手ニテ左腰ヨリ螺旋回ヲ取リテ結合鎹ヲ締メ上體ヲ起シテ之ヲ左腰ニ帶ヒ左足ニ吸管ヲ越ヘツヽ右回轉ヲ爲シ吸管ノ前方ヲ經テ第二吸管ノ牝螺旋端ヲ約一歩通過シ右回轉ヲ爲シツヽ左足ニテ第二吸管ニ跨リ其ノ足尖ト其ノ牝螺旋端トノ間約一尺ノ距離ヲ保タシメ第二消防員ニ相對シ第一吸管ヲ吸口ニ結合シタルト同一方法ニ準ヒ第二吸管ヲ第一吸管ニ及第三吸管ヲ第二吸管ニ結合シ上體ヲ起シ半右向ヲ爲シツヽ左足ニ吸管ヲ越ヘテ前進シ前方唧筒奏盤ノ延線ヲ通過半左向ヲ爲シ唧筒ノ前方ニ進ミ木槌前ニ至リ左向ヲ爲シ管槍ノ中央部ニ正面シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右手ニハ管槍ノ送水管部ノ中央ヲ握リ上體ヲ起シ第四十七條第二號號令ニ於テ第三消防員カ管槍ヲ持チタルト同一方法ニテ之ヲ右腋間ニ挾持シ上體ヲ起シ右向ヲ爲シテ前進シ木槌ノ左端ヲ通過シ左向ヲ爲シテ第三消防員カ管槍ヲ結合セシムル爲メ左向ヲ爲シタル正面ノ位置一歩前ニ進ミ左向ヲ爲シテ之ト對立シ管槍ヲ右腋間ヨリ出シ右足ヲ一歩後方ニ開キ左掌ヲ上ニシ管槍ノ結合鎹近クヲ右掌ヲ下ニシ其放水管ノ結合部ノ下ヲ握リ兩手ヲ伸ハシテ管槍ノ結合鎹ヲ水管ノ結合部ニ對セシメ放水管部ヲ結合鎹部ヨリ約四十五度高クヲ之ヲ擧ケテ右肘外ニ出シ兩手ニテ管槍ヲ水管ニ結合シ右足ヲ左足ニ引着ケツヽ左向ヲ爲シ第三十七條第三號號令ニ於ケル姿勢ニ準ヒ左手ニ管槍ヲ持チ右手ハ之ヲ放チ其ノ掌ヲ下シ槍結合部ヨリ約一尺ノ間隔ヲ取リテ水管ヲ握リテ停立ス

第二消防員ハ右向ヲ爲シ更ニ半右向ヲ爲シツヽ約二歩前進シ右足ニテ吸管ニ跨リ左ニ回轉シツヽ吸口ニ正面シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ頭ヲ左方ニ傾ケ右手ヲ先ニ兩手ノ間約六寸ノ距離ヲ取リテ第一吸管ヲ握リ之レヲ吸口ノ高サニ上ケ水平ニ之ヲ兩脚ニ挾持シ第一消防員ノ第一吸管ヲ結合スルヲ補助シ終テ上體ヲ起シ吸口管ヲ越ヘツヽ左足ヲ一歩右足ノ後方ニ開クト同時ニ左回轉ヲ爲シツヽ右足ニテ第一吸管ニ跨リ其ノ牝螺旋ト約一尺ノ距離ヲ距テタル位置ニ於テ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ右手ヲ先ニシ左手ヲ之ニ接シテ其牝螺旋際ヲ握リ第一消防員ニ相對シ頭ヲ左方ニ傾ケ第二吸管ノ牝螺旋口ト第一吸管ノ牡螺旋口トヲ對向セシメテ吸管ヲ其ノ結合部ト水平ニ兩脚ニテ挾持シ第一消防員ヲシテ之ヲ結合セシメ終ヘテ上體ヲ起シ吸管ヲ越ヘツヽ左足ヲ右足尖前ニ移シ右足ヨリ前進シ第二吸管ノ後方ヲ通過シ第一吸管ニ於ケルト同一ノ方法ニ依リ第二吸管ト第三吸管トヲ結合セシメ上體ヲ起シ吸管ヲ越ヘツヽ左足ヲ右足尖前ニ移シ右足ヨリ前進シ第三吸管ノ後方ヲ經テ塵除器際ニ進ミ左向ヲ爲シ上體ヲ俯シ兩手ニ塵除器ヲ握リ水利ノ如何ニ依リテハ臨時適宜ノ位置ニ進ミ第三十七條第二號號令ニ於ケルト同一ノ方法ニテ吸管ヲ水中ニ沈下セシメ左向ヲ爲シ吸管ノ後方ヲ通過シ吸口前ニ至リ右足ニテ吸管ニ跨リ唧筒ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立ス

第三消防員ハ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ左掌ヲ上ニシ第一水管ヲ水槽緣ノ外側際ニ於テ握リ上體ヲ起シツヽ其手ヲ擧ケ水管ヲ垂直ナラシメ右手ヲ下ニ其掌ヲ上ニシ左手トノ間約一尺五寸ノ間隔ヲ取リテ水管ノ結合鎹際ヲ握リ之ヲ水槽内ヨリ取出シテ第四十三條第二號號令ニ於ケルト同一方法ニ準シテ把持シ左足ヲ一歩右足ノ後方ニ開キツヽ左向ヲ爲シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ右手ニテ水管ノ結合鎹ヲ放口ニ對セシメ約五寸ノ距離ヲ距テタル地上ニ置キ左手ニテ水管ヲ直線ナラシメ其牡螺旋部ヲ左手ニテ左足尖ノ左方ニ移シ左足ニ水管ヲ跨リツヽ右向ヲ爲シ頭ヲ左方ニ傾ケ右手ニテ其牡螺旋部ヲ放口ニ接シ左手ニテ其裹布部ヲ握リ右手ニテ螺旋ヲ回シテ之ヲ放口ニ結合シ上體ヲ起シ更ニ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ右掌ヲ上ニシ第二水管ヲ水垂緣ノ外側

際ニ於テ握リ上體ヲ起シツヽ其手ヲ擧ケ水管ヲ垂直ナラシメ左掌ヲ上ニシ右手ト持替ヘ右掌ヲ上ニシ第一水管ニ於ケルト同一ノ方法ニ把持シ左足ヲ一歩右足ノ後方ニ開キツヽ左向ヲ爲シ右足ヲ左足ニ引着ケ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ水管ノ中央部ヲ兩足尖前約五寸ノ距離ヲ距テ地上ニ置キ左掌ヲ上ニシ第一水管ノ牡螺旋ノ覆布部ヲ右掌ヲ上ニシ第二水管ノ牡螺旋ノ覆布部ヲ握リテ上體ヲ起シ右拳ヲ胴ノ中央ニ着ケ左拳ニ於ケル牡螺旋口ヲ右拳ニ於ケル牡螺旋口ニ接セシメ左掌ニテ之ヲ胴ニ押付ケテ其墜落ヲ防キ右手ヲ放チ牡螺旋ヲ其手ニテ牡螺旋ニ結合シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ第二水管部ヲ消火點ノ方向ニ向ケ左手ニテ之ヲ左足尖ノ左方約一尺ノ地上ニ置キ右手ニテ第二水管ノ牡螺旋ノ覆布部ヲ握リ上體ヲ俯シ一歩左方ニ移ルト同時ニ左向ヲ爲シ左手ヲ右手ニ接シテ之ニ加ヘ第一消防員ノ來リテ右足ヲ一歩後方ニ開クト同時ニ左足ヲ一歩前方ニ開キ兩肘ヲ脇ニ着ケ其螺旋口ヲ約四十五度ノ上ニ向ケ第一消防員ヲシテ管槍ヲ結合セシメ終テ左足ヲ右足ニ引着ケ右向ヲ爲シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ右掌ヲ下ニシ第一水管ト第二水管トノ結合部ヲ握リ上體ヲ起シ第一消防員ノ右方ニ整頓ス

消火點ト水源地ト相距ルコト遠キカ爲メ三箇以上ノ水管ヲ結合スルノ要アルトキハ本號ノ號令ヲ下シタル後直ニ『水管幾箇用意』ノ號令ヲ下シ先ツ水管ノ結合ヲ爲サシメ終テ本號號令ニ依リ第三消防員ガ第一消防員ニ管槍ヲ結合セシメ其右方ニ整頓スルヲ待チ本條第三號號令ヲ下スモノトス

『水管幾箇用意』ノ號令アリタルトキハ第三消防員ハ左ノ動作ヲ爲ス

第三消防員ハ本條第二號號令ニ依リ第一及第二水管ヲ結合シテ之レヲ地上ニ置キ第二水管ノ牡螺旋覆布部ヲ握リ一歩左方ニ移リ所要幾多ノ水管ヲ結合シ更ニ左向ヲ爲シ管槍ノ結合ヲ爲サシムルモノトス

『水管一個用意』ノ號令アリタルトキハ前列第一搖桿手カ正面ニ來リ水管ヲ結合スル爲メ左足ヲ一歩前方ニ開クト同時ニ牡螺旋口ヲ四十五度上ニ向クルノ動作ヲ除キ第一消防員ニ對シ管槍ヲ結合セシムル爲メ取リタルト同

一ノ動作ニ依リ前列第一搖桿手ヲシテ第三水管ヲ第二水管ニ結合セシメ其ノ結合部ヲ左手ニ持チ右手ニテ前列第一搖桿手ヨリ第三水管ノ牡螺旋部ヲ受ケ左足ヲ右足ニ引着ケ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ左手ヲ持チタル第三水管ノ結合鎹部ヲ消火點ノ方向ニ向ケ之ヲ左足前ノ地上ニ置キ體ヲ起シ本條第二號號令ニ依リ左向ヲ爲シ第一消防員ヲシテ管槍ヲ結合セシム

水管二箇用意ノ號令アリタルトキハ右手ニテ前列第一搖桿手第三水管ノ牡螺旋部ヲ受ケ第一及水管ヲ結合シタル動作ニ準シ第二及第三水管トヲ結合シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ第三水管ノ結合鎹部ヲ消火點ノ方向ニ向ケ之ニ左足前ノ地上ニ置キ上體ヲ起シ右手ニテ前列第一搖桿手ヨリ第四水管ノ牡螺旋部ヲ受ケ本條第二號號令ニ依リ左向ヲ爲シ管槍ノ結合ヲ爲サシム

前項ノ動作ハ水管三箇以上ヲ用意スル場合ニ準用スルモノトス

水管幾箇用意ノ號令アリタルトキハ搖桿手ハ左ノ區別ニ依リ水管ノ用意ヲ爲ス各搖桿手ハ用意スヘキ水管ノ箇數ニ應シ第三十七條第三號號令ニ依ル順序ト動作トニ依リ水管ヲ持チ來リ左ノ動作ヲ爲シテ駈歩舊位ニ復スルモノトス

水管一箇用意ノ號令アリタルトキハ前列第一搖桿手ハ第三消防員カ第一及第二水管ヲ結合シ一歩左向ニ移ルヘキ位置一歩前方ニ第三水管ヲ持來リ其ノ位置ニ正面シテ停立シ水管ヲ右足前ノ地上ニ置キ其ノ牡螺旋部ヲ取リ第三消防員ト同時ニ左足ヲ一歩前方ニ開キ第三水管ニ結合シ右手ニテ第三水管ノ牡螺旋部ヲ取リ之ヲ第三消防員ニ渡ス

水管二箇用意ノ號令アリタルトキハ前列第三搖桿手ハ前列第一搖桿手ノ一歩右方ニ第四水管ヲ持チ來リ前列第一搖桿手ニ正面シ其ノ水管ヲ右足右方ノ地上ニ置キ其ノ牡螺旋部ヲ取リ前列第一搖桿手ニ正面シ之ト同時ニ左足ヲ一歩前方ニ開キ第四水管ヲ第三水管ニ結合シ兩手ヲ放チ右手ニテ第四水管ノ牡螺旋部ヲ取リ之ヲ第三消防

員ニ渡シ右向ヲ爲シ前列第二搖桿手ニ正面シ同時ニ左足ヲ一歩前方ニ開キ第三水管ヲ第四水管ニ結合セシメ右手ヲ放チ前列第二搖桿手ヨリ第四水管ノ牡螺旋部ヲ受ケ左足ヲ右足ニ引着ケ左向ヲ爲シ其ノ牡螺旋部ヲ第三消防員ニ渡シ左手ニ持チタル結合部ハ之ヲ右足前ノ地上ニ置ク

水管三筒以上ヲ用意スヘキ場合ハ他ノ搖桿手ハ後列員ニ至ルマテ前列第二搖桿手及第三消防員ニ準スル動作ヲ爲ス

三、水管――擴メ

『擴メ』ノ令ニテ第一及第三消防員ハ第三十七條第四號號令ニ準スル動作ヲナシテ停立ス

第二消防員ハ右足ニテ吸管ヲ越ヘツヽ左向ヲナシテ正面シ駈歩行進シ後方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ直ニ右向ヲナシ後方搖桿ノ延線上ニ移リ更ニ右向ヲナシテ搖桿ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テヽ停立シ兩掌ヲ下ニシテ挺鐶ヲ握リ急ニ搖桿ヲ壓シテ之レヲ其ノ臺盤上ニ於ケル搖桿受器ニ達セシメ半左向ヲナシテ前進シ後方喞筒臺盤ノ延線ヲ通過シ喞筒ノ左方ニ移リ更ニ放口ノ延線上ニ至リテ半右向ヲナシ木挺ノ後方ニ進ミ約一尺ノ距離ヲ距テ其中央部ニ正面シテ停立シ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ兩掌ヲ上ニシ第一木挺ヲ其左右金具ノ内側近ニ於テ經リ上體ヲ起シ右回轉ヲナシ前徑路ヲ逆行シテ後方搖桿ノ延線上ニ至リ左ニ回轉シツヽ之ニ正面シ搖臂ト約一尺ノ距離ヲ距テ停立シ金具ヲ下ニシテ第一木挺ヲ挺鐶ニ嵌メ左右ノ止螺旋ヲ締メ次ニ左向ヲナシ木挺ノ左端ヲ經テ右向ヲナシ第一木挺ニ於ケルト同一ノ方法ニテ第二木挺ヲ取リ半右向ヲナシテ正面ニ行進シ左側喞筒臺盤ノ延線上ニ至リ半右向ヲナシ前方搖桿ノ延線上ニ進ミ右向ヲナシ搖桿臂ト約一尺ノ距離ヲ距テ之ニ正面シテ停立シ第一木挺ニ於ケルト同一ノ方法ニテ之ヲ挾鐶ニ裝置シ半左向ヲナシ第二木挺ノ下ヲ潛行シ半右向ヲナシテ喞筒ノ右側ニ移リ吸口前ニ進ミ左足ニテ吸口管ニ跨リ右向ヲナシ吸口ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テ停立ス

右動作終レハ第二消防員ハ『進メ』ト令シ搖桿手ヲ喞筒ノ前後ニ配置シ木挺ヲ取ラシメ喞筒運用ノ準備ヲナサシムルモノトス

『進メ』ノ號令ニ依リ搖桿手ハ第三十七條ニ於ケルト同一ノ動作ニ依リ各列員所定ノ位置ニ就キ木挺ヲ握ル

第五十條　放水ノ用意ヲナサシムルニハ先ツ第一消防員ニ消火點ヲ指示シタル後左ノ號令ヲ下ス

位置ヲ定メ――

此ノ號令ニテ第一消防員ハ第三十八條第一號號令ニ示セルト同一ノ動作ヲ爲シ第二及第三消防員ハ其儘停立ス

第五十一條　放水ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

始メ――

此ノ號令ニテ各消防員及搖桿手ハ第三十九條ニ示セル動作ニ準ヒ且ツ同條ニ示セルト同一ノ注意ヲ爲ス

第五十二條　放水ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下ス但シ第五十四條第四號乃至第五號號令ノ動作ヲ省略スルトキハ本條號令ヲ下ス以前ニ於テ其旨ヲ各消防員ニ豫告スルモノトス

『止メ――』

前項ノ豫告ナクシテ『止メ』ノ號令アリタルトキハ第二消防員ハ第三消防員ノ復唱ヲ受ケ先ツ直ニ右ニ回轉シテ前列搖桿手ノ背後ヲ經更ニ左ニ回轉シテ前進シ前口前ニ至リ喞筒ト約一尺距離ヲ距テ之ニ正面シテ停立シ直ニ體ヲ俯シ左手ニ分水嘴子ノ直立セル把手ヲ右掌ヲ上ニシテ他方ノ把手ヲ握リ右足ヲ一歩後方ニ開キ兩脚ヲ屈シ其ノ左手ヲ伸ハシ右手ヲ引キツヽ把手ノ方向ヲ喞筒ノ左右ニ向ケ換ヘ放口ヲ閉塞シ兩手ヲ放チ體ヲ起シツヽ右足ヲ左足ニ引着ケ左ニ回轉シツヽ前徑路ヲ駈歩逆行シテ舊位ニ復シ水槽内ニ水ノ半以上ニ滿ツルヲ待チ『止メ』ト復唱スルモノトス

第一項ノ豫告アリタル後ニ『止メ――』ノ號令アリタルトキハ各消防員及搖桿手ハ第四條ニ示セル動作ヲ爲ス

第五十三條　水管ヲ擴メアルトキ喞筒ノ位置ヲ變換セシムルニハ第四十一條及第四十二條ノ動作ニ準ヒ之ヲ行フモノ

トス

第四　放水準備

第五十四條　第四十九條ノ號令ニ依リ放水準備チナシタル唧筒チ解扇セシムルニハ順次左ノ號令チ下ス

一、放水備方崩セ――始メ

『始メ』ノ令ニテ第一消防員ハ第四十三條第一號々令ニ示セル方法ニ依リ管槍チ離脱シ第四十九條第二號々令ニ於ケルト同一ノ方法ニテ之チ挾持シ右向チナシ更ニ半右向チナシツヽ水管チ越ヘテ約二歩行進シ半右向チナシ唧筒ニ面シテ前進シ水管ノ前方チ通過シ第四十七條第二號々令ニ依リ第三消防員ノ管槍チ置キタルト同一位置ノ約二尺後方ニ至リ左向ヲナシ膝チ屈スルヿナク上體チ俯シ左手チ加ヘ管槍口チ左方ニ向ケ第三消防員ノ置キタルト同一方法ニ依リ之チ地上ニ置キ上體チ起シ右回轉チナシテ前進シ第一水管ノ牝螺旋前チ過クレハ直ニ右向チナシ第一水管ノ後側ニ移リ第四十三條第一號々令ニ示セルト同一ノ動作チナシ第一水管ニ正面シテ停立ス

第三消防員ハ第四十三條第一號々令ニ示セルト同一ノ動作チナシ水管ニ正面シテ停立ス

第二消防員員ハ第一籃チ起スノ動作チ除キ第四十三條第一號々令ニ於ケルト同一ノ動作チナシ第一水管ノ結合鎖チ放口ヨリ離脱シ之チ地上ニ置キ上體チ起シ右足チ左足ニ引着ケ直ニ前進シテ前方左方木梃ノ延線チ通過シ右向チナシ搖桿ノ延線上ニ至リ右向チナシ木梃ニ正面シ約一尺ノ距離チ距テヽ停立シ木梃チ取リ右向前進シ第四十七條第二號々令ニ依リ第三消防員ノ木梃チ置キタル位置ノ中央前ニ至リ左向チナシ其ノ位置ヨリ約一尺前方ニ於テ停立シ膝チ屈スルヿナク上體チ俯シ前鐵把約三尺左方ノ地上ニ於テ管槍ノ前方約五寸ノ距離チ距テ其金具チ前方ニ向ケテ之ト並置シ直ニ上體チ起シ左向チナシテ前進シ其木梃ノ右端チ經テ右向チナシ唧筒ノ左方ニ移リ前進シ後方木梃ノ延線チ通過シ左向チナシ後方搖桿ノ延線上ニ進ミ更ニ左向チナシ木梃ニ正面シテ停立シ第二木梃ニ於ケルト同一ノ方法ニテ第一木梃チ取リ半左向チナシ第四十九條第三號々令ニ依リ搖桿チ其受器

ニ達セシメ第一木梃ノ後方ニ進ミタルト同一通路チ經テ第二木梃ノ後方約一尺ノ地點ニ至リ其中央部ニ正面シテ停立シ膝チ屈スルヿナク上體チ俯シ其金具チ前方ニ向ケ之チ第二木梃ノ後方管槍トノ中間ニ齊頭ニ並置シ上體チ起シ右向チナシ前進シ木梃ノ右端チ經テ左向チナシ左方搖臂ノ延線チ通過シ更ニ右向チナシテ前進シ第四十三條第一號々令ニ示セルト同一ノ動作チナシ其方向變シテ前方ニ面シタルキ塵除器ノ結合部ニ正面シ之ト約五寸ノ距離チ距テヽ停立ス

第四十九條ノ規定ニ依リ『水管幾箇用意』ノ號令ニ依リ水管チ用意シタル場合ハ搖桿手ハ第四十三條第一號々令ニ準スル動作チナシ水管チ解放スルモノトス

二、水管ノ水チ――出セ

『出セ』ノ令ニテ第一消防員ハ第四十三條第二號々令ニ於ケルト同一ノ方法ニ依リ水管チ八ツ折トナシ右向チナシ之チ放口前約一尺ノ地點ニ持來リ左向チナシ前方水槽ノ左方延線上ニ於テ其螺旋部チ唧筒臺盤ト約五寸ノ距離チ距テ第四十三條第二號々令ニ示セルト同一ノ方法ニ準ヒ之チ地上ニ置キ上體チ起シ右回轉チナシ第四十三條第二號々令ニ於ケルト同一ノ動作チナシ吸管チ跨リ停立ス

第三消防員ハ第四十三條第二號々令ニ於ケルト同一ノ方法ニ依リ水管チ八ツ折トナセハ兩手チ放チ右掌チ下ニシ第一消防員ノ左手チ加ヘタルト同一ノ部分チ水管上ヨリ握リ其手チ擧ケテ水管チ垂直ナラシメ之チ右方ニ傾キツヽ左掌チ上ニシテ第一消防員ノ右手チ加ヘタルト同一ノ部分チ握リ上體チ起シツヽ第一消防員ノ第一水管ニ於ケルト同一方法ニ準ヒテ把持シ右向チナシ膝チ屈スルヿナク上體チ俯シ後方水槽ノ左方延線上ニ於テ第一消防員カ第一水管ニ於ケル同一ノ方法ニ準ヒテ之チ地上ニ置キ上體チ起シ左向チナシ第四十三條第二號々令ニ示セル位置ニ停立ス

第二消防員ハ其儘停立ス

第四十九條ノ規定ニ依リ『水管幾個用意』ノ號令ニ依リ水管ヲ用意シタル場合ハ搖桿手ハ第四十三條第二號々令ニ準スル動作ヲナシ水管ヲ八ツ折トナシテ之ヲ收メ車後整列ノ位置ニ就クモノトス

三、吸管――除レ

『除レ』ノ令ニテ第一及第二消防員ハ第四十三條第三號々令ニ於ケルト同一ノ方法ニ依リ吸管ヲ吸口ヨリ離脱シ第一消防員ハ右回轉ヲナシ第四十九條第二號々令ニ準スル動作ヲナシ第二吸管ヲ第一吸管ヨリ及第三吸管ヲ第二吸管ヨリ離脱スレハ左足ニ吸管ヲ越ヘツヽ更ニ回轉ヲナシテ吸管ノ前方ヲ通過シ塵除器ノ位置ニ至リ右向ヲナシ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右手ヲ上ニシ其掌ヲ下ニシ左手ニテ其掌ヲ上ニシ塵除器際ヲ兩手ニ握リテ上體ヲ起シ右向ヲナシ第二吸管ノ前方ヲ通過シ第二消防員ト共ニ之ヲ第一吸管ノ前方約五寸ノ距離ヲ距テタル地上ニ持來リ左向ヲナシテ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ之ヲ握リ第三吸管ノ前方ヲ通過シ其牡螺旋際ニ至リ右向ヲナシテ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ之ヲ握リ第三吸管ト同一ノ方法ニテ之ヲ第一及第三吸管ノ中間ニ持來リテ齊頭ニ之ヲ並列シ上體ヲ起シ右向ヲナシ更ニ半右向ヲナシテ前進シ前方喞筒塞盤ノ延線ヲ通過シ前方搖桿ノ延線上ニ至リ左ニ回轉シツヽ喞筒ニ對スル定位ニ就ク

第五十二條第二項ノ豫告ニ依リ本條第四號乃至第五號々令ノ動作ヲ省略スルトキハ第一消防員ハ本號々令ニ依リ第二吸管ヲ第二吸管ヨリ離脱シ第二吸管ヲ第一吸管ヨリ離脱セシメ右足ヲ一歩前

第二吸管ヲ並列シ終リ喞筒ニ對スル定位ニ就キ第二消防員カ第二吸管ヲ並列シ終リ吸口前ノ定位ニ就クヲ待チ本條第五號々令ニ示スト同一動作ニ依リ兩掌ヲ上ニ搖臂ヲ握リ第二消防員カ分水嘴子ヲ以テ吸口ヲ閉塞シテ停立スルヲ待チ後方ノ搖桿ヲ次ニ前方前桿ヲ壓シ下ケ後鎖及前鎖ヲ挺鑿ニ掛ケシシメ終テ搖桿ヲ水平ニ直シ其位置ニ停立ス

第二消防員ハ第四十三條第三號々令ニ準スル動作ヲナシ約三尺後退シテ左向ヲナシ吸管ノ後方ヲ通過シ第四十七條第二號々令ニ準スル動作ヲナシ第一吸管ヨリ第二吸管ヲ第二吸管ヨリ第三吸管ヲ離脱セシメ右足ヲ一歩前方ニ開キ左足ニ吸管ヲ越ヘツヽ左向ヲナシ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シ右手ヲ上ニシテ其掌ヲ下ニシテ左手ヲ上ニシテ其掌ヲ下ニシ第三吸管ノ牡螺旋際ヲ上下ヨリ兩手ニ握リ上體ヲ起シ左向ヲナシ第二吸管ノ後方ヲ通過シ第一消防員ト協力シテ之ヲ第一吸管牝螺旋ノ前方約五寸ノ距離ヲ距テタル地上ニ持來リテ右向ヲナシ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ齊頭ニ並列シ更ニ上體ヲ起シ右向ヲナシ第一吸管ノ後方ヲ通過シ第二吸管ノ牝螺旋際ニ至リ左向ヲナシ第三吸管ト同一ノ方法ニテ第二吸管ヲ第一及第三吸管ノ中間ニ持來リテ齊頭ニ之ヲ並置シ上體ヲ起シ左向ヲナシ吸口前ニ至リ約一尺ノ距離ヲ距テヽ之ニ正面シテ停立ス

第五十二條第二項ノ豫告ニ依リ本條第四號乃至第五號々令ノ動作ヲ省略スルトキハ第二消防員ハ本號々令ニ依リ吸口ヲ閉塞シテ停立ス

第三消防員ハ其儘停立ス

第五十二條第二項ノ豫告ニ依リ本條第四號乃至第五號々令ノ動作ヲ省略スルトキハ本號々令ニ依リ第三消防員ハ直ニ本條第五號々令ニ示スト同一動作ニ依リ第一水管ヨリ順次第二水管ヲ水槽内ニ收メ終テ停立ス次ニ第二消防員ト同時ニ左右反對ノ動作ニ依リ分水嘴子ヲ持テ放口ヲ閉塞シ更ニ第二消防員ト同時ニ左右反對ノ動作ニ依リ後鎖及前鎖ヲ挺鑿ニ掛ケ其位置ニ停立ス

四、喞筒洗ヘ――

此ノ號令ニテ第一消防員ハ其儘停立ス

第二消防員ハ右足ヲ一歩右方ニ開クト同時ニ膝ヲ屈スルヿナク上體ヲ俯シツヽ兩足尖ヲ喞筒塞盤ニ接近セシメ兩手ニテ前方水槽内ヲ次ニ右足ヲ左足ニ引着ケ更ニ左足ヲ一歩左方ニ開キ後方水槽内ヲ洗ヒ第三消防員カ掃除栓ヲ取リ之ヲ掃除孔ニ嵌メ終ルヲ待チ右足ヲ約一尺後方ニ開キ左足ヲ之ニ引着ケツヽ上體ヲ起シ其位置ニ停立

シ第三消防員カ放口ヲ開放スル爲メ上體ヲ俯スト同時ニ左向ヲナシテ行進シ後方喞筒棄盤ノ延線ヲ通過シ右向ヲナシ搖桿ノ延線上ニ至リ更ニ右向ヲナシテ搖桿ニ正面シ約一尺ノ距離ヲ距テ停立ス

第三消防員ハ第二消防員ト同時ニ左右反對ノ動作ヲナシ第二消防員カ左足ヲ一歩左方ニ開クト同時ニ右足ヲ一歩右方ニ開キ左掌ヲ下ニシ放口上ヨリ約五寸後方ノ水槽緣ニ加ヘ右掌ヲ下ニシ水槽內ニ於ケル掃除栓ノ把手ヲ握リテ之ヲ拔キ取リ搖桿臺ノ後方側面ニ沿ヘタル搖桿臺盤上ニ置キ兩手ニテ後方水槽內ヲ洗ヒ第二消防員ト協力シテ水槽內ノ汚水ヲ掃除孔ヨリ全ク流出セシメ終リテ掃除栓ヲ拔キ取リタルキト反對ノ動作ニ依リ之ヲ掃除孔ニ嵌メ左足ヲ約一尺後方ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケツヽ上體ヲ起シ第二消防員ト同時ニ其位置ニ停立シ直ニ體ヲ俯シ第四十七條第四號々令ニ依リ放口ヲ開放シタルト同一動作ニ依リ分水嘴子ヲ持チ放口ヲ開放シ其位置ニ停立ス

五、喞筒ノ水ヲ——出セ

『出セ』ノ令ニテ第一及第二消防員ハ革紐ヲ取ルノ動作ヲ除キ第四十三條第七號々令ニ於ケル方法ニ準ヒ第一消防員ハ第二消防員ノ動作ヲ第二消防員ハ第三消防員ノ動作ヲ及第三消防員ハ第一消防員ノ動作ヲナシテ喞筒內ノ殘瀝ヲ全ク流出セシメ終テ喞筒ヲ舊位ニ復シツヽ第三消防員カ左足ヲ半歩右方ニ移スヲ待チ各消防員同時ニ開キタル足ヲ他ノ足ニ引着ケ其位置ニ停立シ更ニ各消防員左ノ動作ヲナス

第一消防員ハ第三消防員カ第一水管ヲ前方水槽ノ左側外ニ直垂スルヲ待チ第四十七條第四號令ニ於ケルト前後反對ノ動作ニ依リ兩掌ヲ上ニシテ搖臂ノ下ヲ握リ第三消防員カ分水嘴子ヲ持チ放口ヲ閉塞シ體ヲ起スヲ待チ後方搖桿ヲ水平ヨリ約五寸低ク押シ下ケ第二及第三消防員カ後鎖ヲ挺鎖ニ掛ケ終レハ更ニ兩掌ヲ下ニシ搖臂上ニ加ヘ前方搖桿ヲ約一尺低ク押シ下ケ第二及第三消防員カ前鎖ヲ挺鎖ニ掛ケ終レハ搖桿ヲ水平ニ直シ其位置ニ停立ス

第二消防員ハ直ニ右向ヲナシ本條第四號々令ニ依リ吸口前ヨリ來リタル經路ヲ逆行シテ吸口前ニ至リ約一尺ノ距離ヲ距テ之ニ正面シテ停立シ第三消防員ト同時ニ第四十七條第四號々令ニ於ケル動作ニ準ヒ分水嘴子ヲ開キタルキト反對ニ之ヲ回轉シテ全ク吸口ヲ閉塞シテ停立シ更ニ第四十七條第四號々令ニ於ケルト前後反對ノ動作ニ準ヒ直ニ後鎖ヨリ之ヲ挺鎖ニ掛ケ始メ順次前鎖ニ及シ終テ右足ヲ左足ニ引着ケ其位置ニ停立ス

第三消防員ハ直ニ左手ニテ左方前鎖ヲ水槽ノ左側緣ニ移シ左足ヲ一歩右足ノ後方ニ開キツヽ左向ヲナシ第四十九條第二號々令ニ於テ第一水管ヲ水槽內ヨリ取出シタルキト反對ノ動作ニ準ヒ第一水管ヲ左方水槽內ノ前方ニ收メ左手ニ持チタル水管部ヲ前方水槽ノ左側緣ニ懸垂シテ其一端ヲ水槽外ニ約一尺垂下セシメ次ニ右手ニテ左方後鎖ヲ水槽ノ左側緣ニ移シ第一水管ト左右反對ノ動作ニ依リ第二水管ヲ左方水槽內ノ後方ニ收メ右手ニ持チタル水管部ノ一端ヲ後方水槽外ニ於テ同一ニ垂下セシメ直ニ第二消防員ト左右反對ノ動作ニ依リ分水嘴子ヲ持チ放口ヲ閉塞シ終リテ停立シ更ニ第二消防員ト同時ニ右足ヲ一歩右方ニ開キ第四十七條第四號々令ニ於ケルト前後反對ノ動作ニ準ヒ第二消防員ハ同時ニ左右反對ノ方法ニ依リ後鎖ヨリ之ヲ挺鎖ニ掛ケ始メ順次前鎖ニ及ホシ左足ヲ右足ニ引着ケ其位置ニ停立ス

第五　應急操法

第五十五條　各消防員喞筒車ニ對スル定位ニ在ルキ應急ノ取扱方ヲナサシムルニハ順次左ノ號令ヲ下ス

水管三個以上ヲ要スル場合ハ本條第二號々令ヲ下シ直ニ『水管幾個用意』ノ號令ヲ下スモノトス

各消防員及搖桿手本條ノ動作ヲナスニハ其行進ノ步度ハ駈步トス

一、急キ備ヘ——

此ノ號令ニテ各消防員及搖桿手ハ第四十七條第四十九條第五十條ニ示セル各號ノ動作ヲ順次迅速ニ行ヒ喞筒ヲ下車セシメ直チニ放水準備及放水用意ヲナスモノトス

二、始メ——

此ノ號令ニテ各消防員及搖桿手第五十一條ニ示セル動作ヲ行ヒ放水ヲナサシム

四、止メ——

此ノ號令ニテ各消防員及搖桿手第五十二條ニ示セル動作ヲ行ヒ放水ヲ止メ喞筒ノ運用ヲ停止セシム

五、崩セ——

此ノ號令ニテ各消防員及搖桿手第五十四條ニ示セル各號ノ動作ヲ順次迅速ニ行ヒ放水準備ヲ解放セシム但第四號及第五號々令ニ依ル

動作ハ豫告ナクシテ之ヲ省略スルモノトス

六、積メ——

此ノ號令ニテ各消防員第四十八條各號々令ニ示セル動作ヲ順次迅速ニ行ヒ喞筒ヲ上車セシム

二　水管車操法

第一章　總則

第一條　本操典ハ消火栓ノ使用方法ト其ノ動作トニ熟達セシムルヲ以テ目的トス

第二條　消火栓ノ開放ハ迅速ニシテ閉鎖ハ徐々タルヲ要シ且多數同時ニ閉鎖スルヲ避クヘシ

第三條　水管車ノ取扱ハ三名ノ消防員ト二個ノ水管ヲ繦絡セル一輛ノ水管車(以下單ニ車ト稱ス)トヲ以テ編成スルモノトス

第四條　本操典ニ於テ前後左右ト稱スルハ車ノ後方ニ在テ之ニ對スル方向ヲ謂フ

第五條　本操典ニ於テ車ノ定位ト稱スルハ左ノ位置ヲ謂フ

車頭ヲ前方ニシ消火栓ノ蓋ヲ連結セル反對緣ヨリ車尾ノ兩輪帶カ約二尺二寸ヲ距テ轅木ノ後方延線カ其ノ緣ノ中央ニ對向スル位置トス

但シ單ニ消火栓ハ之ニ準スル位置トス

第六條　本操典ニ於テ消防員ノ前後ト稱スルハ左ノ整頓位置ヲ謂フ

一、第一消防員ノ車後位置ハ右方車輪ノ後方延線法ニ在リテ其ノ輪帶ニ正面シ之ト約六尺ノ距離ヲ距テタル位置トス

二、第二消防員ノ車後位置ハ轅木ノ後方延線上ニ在リテ車尾ニ正面シ第一消防員ノ左方ニ於ケル整頓線ノ位置トス

三、第三消防員ノ車後位置ハ左方車輛ノ後方延線上ニ在リテ輪帶ニ正面シ之ト約六尺ノ距離ヲ距テタル第二消防員ノ左方ニ於ケル整頓線ノ位置トス

第七條　本操典ニ於テ消防員ノ車ニ對スル定位ト稱スルハ左ノ位置ヲ謂ヒ消火點ト稱スルハ車ノ前方タルヲ例トス

一、第一消防員ノ定位ハ左方車輪ノ後方延線上ニ在リテ其ノ輪帶ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ距テタル位置トス

二、第二消防員ノ定位ハ轅木ノ右方ニ在リテ轅臂ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ距テタル位置トス

三、第三消防員ノ定位ハ轅木ノ左方ニ在リテ轅臂ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ距テタル位置トス

第八條　本操典ニ於ケル動作ハ巡査點檢規則ノ規定ニ準シテ之ヲ行フ但シ本條ニ於テ特別ノ規定アル場合ノ外ハ其ノ行進ノ步度ハ速度トス

本操典ニ於ケル號令ニシテ動令及動令ノ區別アルモノニ就テハ豫令ハ音聲高長且明確ニ動令ハ最モ活發ニ高唱シ

其ノ間適當ナル時間ヲ存スルモノトス

第九條　本操典ニ依リ消防員ニ對シ操典ヲ施行スルトキハ最初ニ消防栓ノ構造區別及水壓ニ關スル觀念ヲ知得セシムルモノトス

第十條　本操典ニ依リ消防員ニ對シ車ノ操練ヲ爲スニハ各消防員ノ車後位置ヲ順次交換セシメ三回ヲ以テ各動作ノ練習ヲ一周スルモノトス

第十一條　前條ノ規定ニ依リ消防員ノ位置ヲ交換スルニハ一回ノ動作ヲ終リタル毎ニ『位置ヲ換ヘ―』ノ號令ヲ用ユ

前項ノ號令アリタルトキハ第一消防員ハ一歩後退シ左向ヲ爲シ前進シ第六條ニ規定セル第三消防員ノ位置後ニ到リテ停立シ右向ヲ爲シ一歩前進シテ其ノ位置ニ就キ第二及第三消防員ハ各右向ヲ爲シテ行進シ第二消防員ハ第一消防員ノ位置ヘ第三消防員ハ第二消防員ノ位置ニ移リテ停立シ各直チニ左向ヲ爲シテ位置ニ就クモノトス

第十二條　既ニ第六條ノ車後位置及車ニ對スル定位ニ在ル消防員ニ對シテハ特ニ番號ノ號令ヲ用ヰルコトアルヘシ

第二章　水管車操法

第一　水管車運轉準備

第十三條　水管車ノ取扱ヲ爲サシムルニハ先ツ消防員ヲシテ第六條ニ規定セル車後位置ニ整列セシムルモノトス

車後整列ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

集マレ―

此ノ號令ニテ指示セラレタル三名ノ消防員ハ駈歩ニテ各車後位置ニ就キ右ニ準フテ整頓スルモノトス

第十四條　前條ノ規定ニ依リ車後整列ヲ爲シタル消防員ヲシテ車ニ對スル定位ニ就カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

定位ヘ―進メ

『進メ』ノ令ニテ第一消防員ハ直チニ半左向ヲ爲シテ前進シ第七條ニ規定セル定位ニ到リ半右向ヲ爲シ第二消防員ハ右向ヲ爲シテ前進シ右方車輪ノ後方延線ヲ通過スレハ左向ヲ爲シ車輪ノ右側ヲ經テ更ニ半左向ヲ爲シ定位ニ至リ半右向ヲ爲シ第三消防員ハ左足ヲ一歩左方前面ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケ第二消防員ト同時ニ行進シ之ト左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シ、テ各定位ニ就ク

第十五條　消防員車ニ對スル定位ニ在ルトキ車頭ヲ髏骨ノ高サニ扛ケシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

轅木―扛ケ

『扛ケノ』令ニテ第一消防員ハ其ノ儘停立ス

第二及第三消防員ハ共ニ膝ヲ屈スルコトナク同時ニ上體ヲ俯シ兩掌ヲ下ニシ轅臂ノ中央部ニ於テ其ノ間約五寸ノ間隔ヲ取リ轅臂ヲ上ヨリ握リ同時ニ上體ヲ起シテ之ヲ髏骨ノ高サニ扛ク

第十六條　前條ノ姿勢ニ在ル消防員ヲシテ其ノ車頭ヲ地上ニ置カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

轅木―置ケ

『置ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ其ノ儘停立ス第二及第三消防員ハ轅木ヲ扛ケタルトキ上下反對ノ動作ヲ爲シテ靜ニ車頭ヲ地上ニ置キ同時ニ上體ヲ起シテ停立ス

第十七條　第七條ニ規定セル車ニ對スル定位ニ在ル消防員ヲシテ車後位置ニ復歸セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

車ノ後ヘ―進メ

『進メ』ノ令ニテ第一消防員ハ右向ケヲ爲シ更ニ半右向ヲ爲シテ行進シ第二消防員ハ右向ヲ爲シ更ニ半右向ヲ爲シテ前進シ右方車輪ノ前方延線ヲ通過シ半右向ヲ爲シ同車輪ノ外側ヲ經テ第一消防員ノ右側ヲ一歩通過シ右向ヲ爲シテ行進シ其ノ背後ヲ通過シ右向ヲ爲シ第三消防員ハ第二消防員ト同時ニ左右反對ト同一ノ動作ヲ爲シ左方左輪ヲ通過スレハ半左向ヲ爲シテ前進シ第一及第三消防員ハ左ニ廻轉シ第二消防員ハ一歩前進シテ各々車後ノ位置ニ

整頓ス

第二　水管車ノ方向變換及行進

第十八條　車ノ方向變換及行進ノ動作ハ消防員ヲシテ第十五條號令ノ姿勢ヲ爲サシメタル後之ヲ開始スルモノトス

第十九條　車ノ方向ヲ右ニ向カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右ニ向ヲ換ヘ——進メ、止レ

『換ヘ——』ノ令ニテ第一消防員ハ右手ヲ擧ケ其ノ掌ヲ前方ニシ車匣ノ左端後面上部ニ着ケ四指（母指ヲ除ク）ハ前方ニ屈シテ匣上ヲ握ル

『進メ』ノ令ニテ第二消防員ハ右足ヨリ第三消防員ハ左足ヨリ半右方ニ進ミツヽ右方ニ旋回シ第一消防員ハ車匣ヲ前方ニ押シ左足ヨリ半右向ヲ爲シツヽ右方ニ旋回ス

『止レ』ノ令ニテ各消防員停立シ第十五條號令ノ姿勢ニ復ス

『止レ』ノ令ニテ車ノ方向カ將ニ右向ヲ爲サントスルトキ之ヲ下スモノトス

第二十條　車ノ方向ヲ左ニ向ハシムニハ左ノ號令ヲ下ス

左ニ向ヲ換ヘ——進メ、止レ

『換ヘ——』ノ令ニテ第一消防員ハ直ニ右向ヲ爲シ駈歩右車輪ノ後方延線上ニ移リ左向ヲ爲シ其ノ輪帶ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ距テヽ停立シ前條第三項ノ規定ト左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シテ左方ニ旋回ス

『進メ』ノ令ニテ各消防員前條ノ規定ト左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シ左指ニテ匣上ヲ握ル

『止レ』ノ令ニテ第一消防員ハ本條第三項ノ規定ト左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シテ定佐ニ復シ各消防員第十五條號令ノ姿勢ニ復ス

『止レ』ノ號令ハ前條ノ規定ニ準シテ下スモノトス

第二十一條　車ノ方向ヲ半右左ニ向ハシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

半右（左）ヘ向ヲ換ヘ——進メ、止レ

前項ノ動作及『止レ』ノ令ハ前二條各項ノ規定ヲ援用ス

但シ『止レ』ノ號令ハ車ノ方向カ將ニ半右（左）向ヲ爲サントスルトキ之ヲ下スモノトス

第二十二條　車ノ方向ヲ背面ニ向カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

半輪ニ右ヘ——進メ、止レ

前項ノ動作ハ第十九條各項ノ規定ヲ援用ス但シ『止レ』ノ號令ハ車ノ方向カ將ニ背面向ヲ爲サシムトスルトキ下スモノトス

第二十三條　車ヲ前進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前ヘ——進メ

『前ヘ——』ノ令ニテ第一消防員ハ第十九條『換ヘ——』ノ令ト同一ニ匣上ヲ握リ『進メ』ノ令ニテ各消防員同時ニ左足ヨリ行進ヲ始ム

第二十四條　行進中ニ在ル車ノ方向ヲ右（左）向ニ變換スルニハ左ノ號令ヲ下ス

右（左）ニ向ヲ換ヘ——進メ、前ヘ

前項ノ動作ハ第十九條及第二十條ノ規定ヲ準用ス但シ『前ヘ』ノ令ハ車ノ將ニ右左向ヲ爲サムトスルトキ下シ此ノ令ニ依リ各消防員新方面ニ前進ス

左ニ向ヲ換ユルトキハ『前ヘ』ノ令ニテ第一消防員ハ定位ニ復シ右手ニテ匣上ヲ握ル

第二十五條　行進中ニ在ル車ノ方向ヲ半右左ニ變換スルニハ左ノ號令ヲ下ス

半右（左）ヘ向ヲ換ヘ——進メ、前ヘ

前項ノ動作ハ第二十一條及前條ノ規定ヲ援用ス

第二十六條　行進中ニ在ル車ノ方向ヲ背面向ニ變更スルニハ左ノ號令ヲ下ス

半輪ニ右へ――進メ、前へ

『前へ』ノ動作ハ第二十二條及第二十四條ノ規定ヲ援用ス

第二十七條　車ヲ後退セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

後へ――進メ

『後へ』ノ令ニテ第一消防員ハ左足ヲ一歩左方前面ニ開キ右足ヲ之ニ着引ケツヽ駈歩前進シ左方車輪ヲ一歩通過スレハ右向ヲ爲シ一歩前進シ轅木ヨリ約五寸ノ距離ヲ距テタル位置ニ停立シ右向ヲ爲シ左臂ヲ少シク屈シ左掌ヲ下ニシ腰部ノ左側ニ於テ轅木ヲ握リ上體ヲ稍前方ニ傾ケ右掌ヲ下ニシ其ノ手ヲ前方ニ伸シ轅木ノ根端ヨリ約五寸ヲ距テタル左方ノ轅木支柱ヲ握ル

第二消防員ハ左手ヲ放チ其ノ掌ヲ上ニシ轅臂ヲ下ヨリ握リ換ヘ右手ヲ放チ右足ヲ一歩廣ク右方前面ニ開キ左掌ヲ轅臂ノ右方ヘ滑走セシメツヽ左足ヲ右足ニ引着ケ車頭前ニ移リ左掌ヲ下ニ向ケ換ヘツヽ左回轉ヲ爲シ一歩右方ニ移リ右方轅臂ノ中央ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テヽ右掌ヲ下ニシ轅臂ノ中央部ニ於テ左掌ト約五寸ノ間隔ヲ置キ上ヨリ轅臂ヲ握ル

第三消防員ハ第二消防員ト同時ニ左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シテ左轅臂ヲ握ル

第二十八條　行進中ニ在ル車ヲ停立スルニハ左ノ號令ヲ下ス

止レ――

此ノ號令ニテ各消防員停立シ第十五條號令ノ姿勢ニ復ス前條ノ場合ニ於テ特ニ『其ノ儘』ノ令ナク單ニ止レノ號令アリタルトキハ第一消防員ハ上體ヲ正シツヽ兩手ヲ放チ右向ヲ爲シ一歩前進シ左向ヲ爲シ駈歩前進シ左方車輪ヲ

一歩通過シテ左廻轉ヲ爲シ第二及第三消防員ハ同時ニ前條ノ場合ト前後左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シテ各消防員第十五條號令ノ姿勢ニ復スルモノトス

第三章　消火栓使用法

第一　放水準備

第二十九條　放水準備ヲ爲サシムルニハ先ツ各消防員ヲシテ車ニ對スル定位ニ就カシメタル後順次左ノ號令ヲ下ス

一、放水備方――始メ

『始メ』ノ令ニテ第一消防員ハ半右向ヲ爲シ右足一歩前方ニ開キ左足ヲ之ニ引着ケツヽ半左向ヲ爲シ轅木ノ後方延線上ニ於テ車尾ノ中央ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テヽ停立ス

第二消防員ハ右向ヲ爲シ一歩前進シ更ニ左向ヲ爲シ車ノ右側ヲ通過シ消火栓ノ右側中央部ニ至リ右向ヲ爲シ之ト正面シ約五寸ノ距離ヲ隔テヽ停立ス

第三消防員ハ第二消防員ト同時ニ左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シ消火栓ノ左側中央部ニ於テ第二消防員ニ準シ停立ス

『着ケ』ノ令ニテ第一消防員ハ左手ニテ車匣ノ鎖鎖匙ヲ廻シ右手ニテ鎖匙ヲ外シ匣蓋ヲ開キ兩手ニテ消火栓鍵及水管螺旋廻ヲ取出シテ左手ニ持チ左顧シテ之ヲ第三消防員ニ渡シ次ニ兩掌ヲ下ニシ左手ハ消火栓螺旋廻ノ螺旋部ヨリ約一尺ヲ右手ハ左手ヨリ約一尺五寸ヲ隔テヽ兩手ニテ之ヲ持チ匣中ヨリ取出シ右顧シテ之ヲ第二消防員ニ渡シ右手ニテ車蓋ヲ閉チ更ニ上體ヲ稍左方ニ傾ケ兩手ニテ左方ノ轡止ヲ外シ上體ヲ正シ半左向ヲ爲シ左足ヲ一歩廣ク左方ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケツヽ左車輪ノ後方延線ヲ越ヘ半右向ヲ爲シツヽ前進シ車輪ノ左側ヲ經テ半右向ヲ爲シ第三消防員ノ車ニ對スル定位ニ至リ半左向ヲ爲シテ停立シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ兩掌ヲ下

ニシ左轅臂ノ中央部ニ於テ其ノ間約五寸ノ間隔ヲ置キ轅臂ヲ上ヨリ握リ上體ヲ起シツヽ車頭ヲ體骨ノ高サニ扛ケ直ニ右手ヲ放チ其ノ掌ヲ下ニシ轅臂トノ間約一尺五寸ノ距離ヲ隔テヽ轅木ヲ握リ同時ニ右足ヲ一歩後方ニ開ク

第三消防員ハ左足ヲ一歩左方前面ニ開キ第一消防員ヨリ左手ニテ鍵及水管螺旋廻ヲ受取リ上體ヲ俯シ鍵ヲ右手ニ移シ消火栓ノ蓋ヲ開キ鍵ハ其ノ儘トシ兩脚ヲ屈シ右膝ヲ消火栓左側縁ニ着ケ水管螺旋廻ヲ右手ニ移シ消火栓左口ノ覆冠ヲ脫シ其ノ螺旋廻ヲ右脚外側ニ置キ左手ニテ第一水管結合鏍部ヲ第二消防員ヨリ受取リ右手ヲ加ヘ之ヲ消火栓ノ左口ニ結合シ右手ニテ水管螺旋廻ヲ取リ之ヲ締メ體ヲ起シ其ノ螺旋廻ヲ兩手ニテ左腰ニ佩ヒ左足ヲ半歩後方ニ移シ右足ヲ之ニ引着ケツヽ左向ヲ爲シ車尾ニ正面シ上體ヲ前方ニ傾ケ兩手ニテ水管ヲ輅ヨリ引出シ水管結合部際ヨリ約二尺ヲ消火栓内ニ溜置シ右掌ヲ下ニシ水管ヲ握リタル儘上體ヲ正シ第二消防員ノ左方ニ整頓シ左手ハ之ヲ垂下シテ停立ス第二消防員ハ右足ヲ一歩右方前面ニ開キ兩掌ヲ上ニシ右手ハ螺旋廻ノ螺旋部ヨリ約五寸左手ハ右手ヨリ約一尺五寸ヲ距テタル上部ヲ握リ第一消防員ヨリ螺旋廻ヲ受取リ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ消火栓ノ右側ニ於テ螺旋廻ノ螺旋部ヲ前方ノ消火栓縁外ニ出シ車尾ノ方向ニシテ之ヲ地上ニ置キ第一水管ノ結合鏍部際ヲ右手ニ把リ第一消防員カ車頭ヲ扛ケ右足ヲ一歩後方ニ開クヲ俟チ左手ヲ加ヘ水管ヲ輅ヨリ引出シ右手ニテ其ノ結合鏍部ヲ第三消防員ニ渡シ上體ヲ起シツヽ右足ヲ左足ニ引着ケ更ニ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ左掌ヲ上ニシ螺旋廻ノ把手ヨリ約七寸下ヲ右掌ヲ下ニシ左手ヨリ約一尺ヲ握リテ螺旋廻ニ消火栓ノ弇軸ニ嵌メ兩手ヲ放チ上體ヲ起シ直ニ半右向ヲ爲シ一歩前進シテ第一水管ノ右側ニ移リ更ニ半右向ヲ爲シ車尾ニ正面シテ停立ス

三、水管――擴メ

『握メ』ノ令ニテ第一消防員ハ車ヲ挽キ駈歩消火點ノ方向ニ前進シツヽ水管ヲ延長ス

第三消防員ハ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ前方ニ傾ケ兩手ニテ交互ニ水管ヲ引キツヽ車ニ尾行シ第一消防員ノ水管ヲ延長スルヲ補助シ輅ノ水管カ約十尺ヲ剩スニ至レハ第一消防員ニ對シ『止レ』ト注意ス

第一消防員ハ第三消防員ノ『止レ』ノ注意ニ依リ右足ヲ一歩後方ニ開キタル儘停立シ第三消防員カ第二水管ヲ輅ヨリ離脫スルヲ俟チ右方ニ旋回シツヽ車ノ方向ヲ全ク右方ニ向ケ換ヘ更ニ二歩前進シテ停立シ膝ヲ屈スル事ナク車頭ヲ地上ニ置キ上體ヲ起シ左向ヲ爲シ一歩前進シ更ニ左向ヲ爲シテ前進シ左車輪ヲ通過シテ左向ヲ爲シ更ニ半左向ヲ爲シツヽ一歩前進シ轅木ノ後方延線上ニ至リ半左向ヲ爲シテ車尾ノ中央ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テヽ停立シ左手ニテ車ノ匣蓋ヲ半開シ右手ニテ管槍ヲ取出シ左手ヲ放テ匣蓋ヲ閉シ右掌ヲ上ニシ管槍ノ結合鏍ヨリ約四寸上部ヲ握リ結合鏍部ヲ下ニシ其ノ頭部ヲ約四十五度ニ上ケ右腋間ニ挾持シ其ノ肘ヲ屈シテ之ヲ脇ニ着ケ右廻轉ヲ爲シテ前進シ第三消防員ノ正面一歩前ニ至リテ停立シ左向ヲ爲シ第三消防員ニ正面シ右掌ハ之ヲ上部ニ滑走セシメツヽ其ノ放水管部下ヲ握リ左拳ヨリ約四十五度高ク擧ケ右足ヲ一歩後方ニ開キ管槍ヲ第三消防員ノ把持セル第二水管ニ結合シ更ニ左掌ヲ上ニシ右掌ヲ下ニシテ兩手ノ位置ヲ互ニ交換シテ管槍ヲ持チ換ヘ左肘ハ自然ニ屈シ左足ヲ右足後方ニ移シテ左回轉ヲ爲シ消火點ニ向テ約十尺前進シテ停立シ右足ヲ一歩後方ニ開キ後顧シテ第三消防員ノ補助ニ依リ第二水管ノ燃レタルヲ直シテ正面シ左肘ヲ自然ニ屈シ其ノ手ヲ體ノ中央前約一尺ノ所ニ移シ右肘ヲ屈シ其ノ手ヲ脇ニ接着シテ消火點ニ注目ス

第三消防員ハ第一消防員ト同時ニ停立シ第二水管ヲ輅ヨリ右足外側ニ外出シ全ク輅ヨリ離脫シ其ノ結合鏍ヲ右手ニ持チ上體ヲ正シ右手ヲ先ニシ兩掌ヲ接着シテ第二水管ノ結合鏍覆布部ヲ握リ兩肘ヲ脇ニ着ケ消火點ノ方面ニ正面シ第一消防員カ一歩前ニ來リ右足ヲ一歩後方ニ開キ結合鏍口ヲ約四十五度上ニ向ケ換ヘ第一消防員ニ管槍ヲ結合セシメテ之ヲ渡シ其ノ儘右向ヲ爲シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ稍右方ニ俯シ第二消防員ト協力シテ第一水管ノ方向ヲ更ニ上體ヲ稍左方ニシ兩手ニテ第一消防員ノ方向ニ於ケル水管ノ燃レタルヲ直シ左足ヲ右足ニ引着ケツヽ上體ヲ起シテ右向ヲ爲シ消火栓ニ正面シテ停立ス

第二消防員ハ第三消防員ノ前進スルヲ俟チ右足ヲ一歩前方ニ開キ上體ヲ俯シ右手ヲ先ニシ左手ヲ加ヘ第一水管ヲ握リ右脚ヲ伸シ左脚ヲ屈シ消火栓内ニ溜置セル水管ノ伸ルヲ防止シ第一消防員ノ停車スルヲ俟チ兩手ヲ放チ左脚ヲ伸シ其ノ儘左廻轉ヲ爲シ兩手ニテ消火栓内ニ於ケル水管ヲ引出シツヽ之ヲ消火栓ノ左側ヨリ灣曲形ニシテ消火點ノ方向ニ伸ハシ其ノ儘自然ニ右回轉ヲ爲シ第二消防員ト協力シテ前方ニ於ケル水管ノ攜レタルヲ直シ上體ヲ起シツヽ左回轉ヲ爲シ右足ヲ左足ニ引着ケ更ニ半左向ヲ爲シ一歩前進シテ消火栓ノ右側中央ニ移リ右ニ回轉シツヽ消火栓ト約五寸ノ距離ヲ隔テヽ之ニ正面シ兩掌ヲ上ニシ消火栓螺旋廻ノ兩把手ヲ下ヨリ握リ僅ニ之ヲ旋回シテ消火栓弇ノ故障有無ヲ試ミ其ノ儘停立ス

第二　放水始及止

第三十條　放水ヲ開始シ又ハ之ヲ止メシムルニハ順次左ノ號令ヲ下ス

一、始メ――

此ノ號令ニテ第一消防員ハ後顧シテ『始メ――』ト復唱シ第三消防員ニ號令ヲ傳ヘ第三消防員カ第二消防員ニ號令ヲ傳唱スルヲ俟チテ正面ス

第三消防員ハ第一消防員ノ復唱ヲ受ケ其ノ號令ヲ第二消防員ニ傳送スル爲メ『始メ――』ト復唱シ直ニ左向ヲ爲シ更ニ半左向ヲ爲シ駈歩水管上ヲ越ヘテ前進シ左方車輪ノ後方延線ヲ經テ半右向ヲ爲シ車輪ノ左側ヲ通過シ半右向ヲ爲シ第三消防員ノ車ニ對スル定位ニ至リ第二十九條第二號々令ニ於ケル第一消防員ノ姿勢ニ準シ車頭ヲ江ケ右方ニ旋回シツヽ車ノ方向ヲ全ク右方ニ向ケ換ヘ車ヲ挽キ水管ノ右側ヲ前進シ消火栓ノ約三尺前方ニ至リ右ニ旋回シツヽ水管上ヲ越ヘ左車輪ハ水管ノ左方ニ渉ラシメテ車ヲ全ク前方ニ向ケ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ車ヲ第五條ヲ定位ニ置キ兩手ニテ水管ヲ左轅臂上ニ乘セ上體ヲ起シ水管ノ左側ヲ駈歩前進シ第一及第二水管トノ結合部ヲ一歩通過シ右廻轉ヲ爲シテ停立シ水管ト約五寸ノ間隔ヲ取リ消火栓ニ正面シテ位置ス

第二消防員ハ第三消防員ノ復唱ニ依リ直ニ右足ヲ一歩後方ニ開キ兩脚ヲ屈シ上體ヲ稍前方ニ傾ケ右手ヲ引キ左手ヲ伸シツヽ交互ニ兩手ヲ把リ換ヘ螺旋回ヲ右方ニ旋廻シテ消火栓弇ヲ全ク開放シ兩手ヲ放チ體ヲ起シツヽ右足ヲ左足ニ引着ケ其ノ位置ニ停立ス但シ單口消火栓ハ双口消火栓ト反對ニ旋回シテ開放スルモノトス

二、止メ――

此ノ號令ニテ第一及第三消防員ハ本條第三項ノ規定ニ準シ第一消防員ヨリ順次『止メ――』ト復唱シテ號令ヲ第二消防員ニ傳送ス

第二消防員ハ第三消防員ノ復唱ニ依リ兩掌ヲ上ニシテ消火栓螺旋廻ノ兩把手ヲ下ヨリ握リ左足ヲ一歩後方ニ開キ弇ヲ開放シタルトキト同一ノ姿勢ニ準シ左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シ螺旋廻ヲ徐々左方ニ旋回シテ弇ヲ全ク閉鎖シ兩手ヲ放ケ體ヲ起シツヽ左足ヲ右足ニ引着ケ其ノ位置ニ停立ス

第一消防員ハ噴水ノ止ルト同時ニ右足ヲ左足ニ引着ケ左手ニテ管槍ヲ起シ右手ヲ垂レツヽ之ヲ下方ニ滑走セシメ左手ヲ放チ管槍ノ結合部ヲ右足外側ニ卸シテ垂直ナラシメ右掌ヲ下ニシ輕ク頭部ヲ支ヘ左手ハ自然ニ垂下シテ消火點ニ正面ス

第三　放水準備解崩

第三十一條　放水準備ヲ解崩シ水管ヲ車ニ卷カシムルニハ順次左ノ號令ヲ下ス

一、放水備方――崩セ

『崩セ』ノ令ニテ第一消防員ハ右足ニテ水管ノ端末ヲ踏ミ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ管槍ヲ半左方ニ傾ケ右掌ヲ上ニシ管槍ノ結合鍛ヨリ約二寸上部ヲ左掌ヲ下ニシ約一尺ノ間隔ヲ置キテ管槍ヲ握リ之ヲ左方ニ旋回シテ水管ヨリ離脱シ上體ヲ起シ第二十九條第二號號令ニ依リ持チタルトキト同一ノ姿勢ニ準シ管槍ヲ右腋間ニ挾持シ肘ヲ脇ニ着ケ右廻轉ヲ爲シ水管ノ左側ヲ前進シ左車輪ヲ通過シ左向ヲ爲シ更ニ半左向ヲ爲シツヽ一歩前進シ

テ停立シ更ニ半左向ヲ爲シ轅木ノ後方延線上ニ於テ車尾ノ中央ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テ左手ニテ匣蓋ヲ開キテ其ノ手ヲ放チ右手ニテ管槍ノ頭部ヲ右方ニシ之ヲ匣内ニ納メ次ニ第二十九條第二號々令ニ依リ其ノ把手ヲ右方ニシ匣内ニ納メ次ニ第三消防員ヨリ鍵及水管螺旋廻ヲ受取リ納匣シ右手ニテ匣蓋ヲ閉チ左手ニテ鋼鎖匙ヲ上ニ向ケ右手ニテ鎖匙ヲ鈒メ左手ニテ鋼鎖匙ヲ締メ左足ヲ一歩左方後面ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケ車ニ對スル定位ニ就ク

第二消防員ハ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ第二十九條第二號々令ニ於テ消火栓螺旋廻ヲ其ノ拿軸ニ鈒メタルトキト同一ノ姿勢ニ準シ兩手ニテ拔キ取リ螺旋部ヲ兩足間前ニ置キ上體ヲ起シ右手ヲ放チ左手ハ其ノ儘螺旋廻ヲ垂直ニ持チ其ノ肘ヲ屈シ之ヲ自然ニ脇ニ着ケ第一消防員カ匣蓋ヲ開クヲ俟チ左手ヲ上ニ擧ケツヽ右手ヲ加ヘ第二十九條第二號々令ニ於テ螺旋廻ヲ受取リタルトキト同一ニ持チ右足ヲ一歩右方前面ニ開キ右顧シテ其ノ螺旋廻ヲ第一消防員ニ渡シ右足ヲ左足ニ引着ケ消火栓ニ正面シ第三消防員カ鍵及水管螺旋廻ヲ第一消防員ニ渡シ左足ヲ右足ニ引着ケ消火栓ニ左向ヲ爲シテ前進シ第十四條ニ規定セル進路ヲ經テ車ニ對スル定位ニ就キ第十五條號令ニ於ケルト同一動作ヲ爲シ第三消防員ト協力シテ轅臂ヲ髖骨ノ高ニ扛ケ第三消防員ハ左足ヲ一歩左方ニ開キ第二水管ニ跨リ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ兩手ニテ水管結合部ヲ解放シ上體ヲ起シツヽ左足ヲ水管ノ左方右足爽前ニ移シ第一水管ノ左側ヲ前進シ消火栓ノ左側中央部ニ至リテ停立シ左向ヲ爲シ兩手ニテ水管螺旋廻ヲ腰部ヨリ拔キ取リ右手ニ持チ第二十九條第二號々令ニ於テ水管ヲ附着シタルトキト同一ノ姿勢ニ準シ右脚ヲ屈シ水管螺旋廻ニテ結合部ヲ緩メ之ヲ左手ニ持チ換ヘ其ノ螺旋部ヲ右方ニ向ケ消火栓緣ト並列セシメテ左足尖前ノ地上ニ置キ水管結合部ヲ兩手ニテ解放シ之ヲ左足外側ノ地上ニ置キ兩手ニテ消火栓左口ノ覆冠ヲ堅ク鈒メ左手ニ水管旋廻ヲ持チ右脚ヲ伸シ上體ヲ右方前面ニ傾ケ右手ニテ消火栓鍵ノ把手ヲ握リ消火栓蓋ヲ開チ其ノ鍵ヲ拔キ取リ之ヲ左手ニ移シツヽ上體ヲ起シ左顧シテ左手ニ持タル鍵ト螺旋回トヲ第一消防員ニ渡シ左足ヲ右足ニ引着ケ消火栓ニ正面シ直ニ左向ヲ爲シテ前進シ第二消防員ト同時ニ左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シ兩手ニテ左轅臂上ノ水管ヲ左方ノ地上ニ卸シ第二消防員ノ動作ニ準シ之ト同時ニ協力シテ轅臂ヲ髖骨ノ高サニ扛ク

二、水管――卷ケ

『水管――』ノ令ニテ第一消防員ハ第十九條『換ヘ』ノ令ト同一姿勢ヲ爲シ上體ヲ稍前方ニ傾ケ次ニ『卷ケ』ノ令ニテ他ノ消防員ト同時ニ車ヲ押シツヽ水管ノ左側ヲ駈歩前進シ第二及第三消防員カ第二水管ノ端末ニ達スレハ速歩ニ移リ約三歩前進シテ他ノ消防員ト同時ニ停立シ右手ヲ放チツヽ上體ヲ正シ半右向ヲ爲シテ一歩前進シ第二水管ノ左側ニ移リ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ右手ニテ端末ノ水管結合鎹ヲ持チ半左向ヲ爲シテ車尾ニ正面シ左手ヲ加ヘ兩手ニテ之ヲ幹軸ノ革鎹ニ鈒入シ兩掌ヲ相對セシメテ水管ヲ兩手ニ限リ第二消防員ノ幹ヲ回轉スルニ準ヒ兩手ニ水管ヲ引キ兩手ヲ滑走セシメテ徐々ニ後進シツヽ水管ヲ平等ニ幹ニ卷キ第三消防員ノ注意シテ停車スルヲ俟チ兩手ヲ放チ上體ヲ起シ右回轉ヲ爲シテ第二水管ノ左側ヲ前進シ第一水管ノ結合鎹約五寸左側ニ至リ停立シテ左向ヲ爲シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ兩手ニテ其ノ結合鎹部ヲ把リ半左向ヲ爲シツヽ上體ヲ起シ右手ヲ先ニシ兩拳ヲ接着シテ結合鎹ノ覆布部ヲ握リ兩肘ヲ脇ニ着ケ第二消防員カ一歩前ニ來リ半右向ヲ爲スヲ俟チ直チニ左足ヲ一歩前方ニ開キ第一水管ヲ第二水管ニ結合セシメテ之ヲ受取リ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ結合部ヲ右足前ノ右方ニ置キ半左向ヲ爲シツヽ上體ヲ起シ右足ヨリ第二水管ノ左側ヲ前進シ車尾ニ至リテ停立シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ第二水管ト同一動作ニ依リ水管ヲ卷キ始メ第一水管ヲ幹ニ卷キ終リ兩手ヲ放チ上體ヲ左方ニ傾ケ兩手ニテ幹止ヲ施シ上體ヲ正シツヽ之ヲ起シ第三消防員カ車ヲ其ノ位置ニ移スニ準ヒ擦足シテ轅木ノ後方延線上ニ移リ車尾ノ中央ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テヽ停立ス

第二消防員ハ車ヲ挽キ第三消防員ト同時ニ水管ノ右側ヲ駈歩前進シ第二水管ノ端末ニ至レハ速歩ニ移リ約三歩

前進シテ停立シ第三消防員カ車頭前ニ於テ右廻轉ヲ爲スヲ俟チ右廻轉ヲ爲シ約一歩ヲ前進シテ右方ニ於ケル轅ノ把手ニ正面シ上約一尺ノ距離ヲ距テ、停立シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ右手ニ其ノ把手ヲ握リ第一消防員カ第二水管ノ結合鐶ヲ轅ノ革鐶ニ嵌メ終ルヲ俟チ兩手ニテ交互ニ把手ヲ引キツヽ轅ヲ廻轉シテ徐々ニ前進シ第一消防員ト協力シテ第二水管ヲ轅ニ卷キ第三消防員ノ注意シテ停車スルヲ俟チ把手ヲ放チ上體ヲ起シ半左向ヲ爲シテ一歩前進シ更ニ半右向ヲ爲シ車側ニ沿テ前進シ之ヲ通過スレハ半右向ヲ爲シ第二水管ノ結合鐶約五寸右方ニ至リ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ右手ニ之ヲ把テ半左向ヲ爲シツヽ上體ヲ起シテ前進シ第一消防員ノ一歩前ニ至リテ停立シ半右向ヲ爲シテ第一消防員ニ正面シ之ト同時ニ左足ヲ一歩前方ニ開キ左手ニテ水管結合鐶ノ覆布部ヲ握リ右手ニテ第一消防員ノ把持セル結合鐶ニ結合シテ兩手ヲ放チ右廻轉ヲ爲シテ前進シ右車輪ノ後方延線ヲ經テ半左向ヲ爲シ車側ニ沿フテ前進シ之ヲ一歩通過シテ停立シ左向ヲ爲シ一歩前進シ更ニ左向ヲ爲シ擦足シテ舊位置ニ復シ前ニ第二水管ヲ卷キタルトキ同一ノ動作ニ準シ第一水管ヲ轅ニ卷キ終リ第一消防員カ水管ヲ放チ轅止ヲ鉄メ終ルヲ俟チ同時ニ把手ヲ放チ上體ヲ起シ第三消防員カ車ヲ其ノ位置ニ移スニ準ヒ擦足シテ位置ヲ移シ右方ニ於ケル轅ノ把手ニ正面シ之ト約一尺ノ距離ヲ隔テ、停立ス

第三消防員ハ水管ノ左方ニ於テ第二消防員ト左右反對ニ同一ノ動作ヲ爲シテ停立シ直ニ第二十七條『後へ——』ノ令ト同一動作ヲ爲シ車頭前ニ於テ右同轉ヲ爲シ一歩左方轅木ノ延線上ニ移リ轅木ニ正面シ之ト約五寸ノ距離ヲ隔テ、左掌ヲ下ニシ轅木ヨリ約五寸ノ間隔ヲ置キ右轅臂ヲ上ヨリ握リ右手ヲ其ノ儘滑走セシメテ左手ニ準スル間隔ノ位置ニ移シ第二消防員カ轅ヲ回轉スルニ準ヒ徐々ニ前進シテ車ヲ後退セシメ第二水管カ車尾ヨリ約六尺ヲ剩スニ至レハ他ノ消防員ニ『繼ケ——』ト注意シテ停車シ第二消防員カ第二水管ノ結合鐶ヲ右手ニ把リ上體ヲ起シ前進スルニ準ヒ車ヲ後退セシメ第二消防員カ第一消防員ノ一歩前ニ至リ停立スルニ至レハ停車シ第二消防員カ再ヒ轅ノ把手ヲ把ルヲ俟チ徐々ニ前進シテ車ヲ後退セシメ第一水管ヲ轅ニ卷キ終レハ停車シ第一消防員カ轅止ヲ施シ上體ヲ起スヲ俟チ車ヲ其ノ位置ニ移シ膝ヲ屈スルコトナク上體ヲ俯シ車頭ヲ徐ニ地上ニ置キ上體ヲ起シ其ノ位置ニ停立ス

第三十二條　各消防員ヲ車ニ對スル定位ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

定位ヘ——進メ

『進メ』ノ令ニテ第一消防員ハ左足ヲ一歩左方後面ニ開キ右足ヲ之ニ引着ケ第二消防員ハ右回轉ヲ爲シ一歩前進シ第三消防員ハ一歩右方ニ移リ更ニ一歩前進シテ左轅臂ヲ越ヘ右回轉ヲ爲シ各消防員擦足シテ車ニ對スル定位ニ就ク

第四章　應急操法

第三十三條　各消防員ニ對スル定位ニ在ルトキ應急取扱方ヲ爲サシムルニハ順次左ノ號令ヲ下ス但シ本條ノ動作ハ迅速ニシテ駈歩トス

急キ備ヘ——

此ノ號令ニテ各消防員第二十九條各號々令ニ規定セル動作ヲ順次迅速ニ行ヒ放水準備ヲ爲ス

始メ——

此ノ號令ニテ各消防員第三十條第一號々令ニ規定セル動作ヲ迅速ニ行ヒ放水ヲ開始ス

止メ——

此ノ號令ニテ各消防員第三十條第二號々令ニ規定セル動作ヲ迅速ニ行ヒ放水ヲ停止ス但シ消火栓弁ノ閉鎖方ニ限リ徐々トス

卷ケ——

此ノ號令ニテ各消防員第三十一條各號々令ニ規定セル動作ヲ順次迅速ニ行ヒ水管ヲ卷クモノトス

三　消防組規則（明治二十七年二月　勅令第十五號）

第一條　府縣知事ハ職權又ハ市町村ノ申請ニ依リ火災ノ警戒防禦ノ爲メ消防組ヲ設置スルコトヲ得

第二條　消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但シ上地ノ狀況ニ依リ市町村内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得

第三條　消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

組頭及小頭ハ警部長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長之ヲ命免ス

第四條　組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ從事ス

小頭ハ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ルモノトス

第五條　府縣知事ハ市町村會ニ諮問シ消防組ヲ數部ニ分ツコトヲ得

第六條　消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察署長之ヲ指揮監督ス

消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但シ火災ニ際シ警察官ノ臨場スル迄町村長又ハ組頭若クハ小頭之カ指揮ヲ爲スコトヲ得

第七條　消防組ハ其ノ區域外ノ火災ト雖警察署長ノ指揮ニ從ヒ其ノ警防ニ應援スヘシ危急ノ場合ニ於テ警察署長前項ノ指揮ヲ爲スノ暇ナキトキハ他ノ警察署長之ニ代テ其ノ指揮ヲ爲スコトヲ得

第八條　警部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方全體ノ消防組ヲ指揮監督ス

消防組ハ火災警防ノ爲メニアラサレハ集合若クハ運動スルコトヲ得ス但シ警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合運動ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　消防組ノ服務規律及懲戒ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十條　消防組ノ擧動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ解クコトヲ得

第十一條　消防組員ノ手當並ニ被服等ハ市町村會ニ諮問シ府縣知事之ヲ定ム

第十二條　消防組ニ必要アル器具及建物ハ府縣知事市町村會ニ諮問シ之ヲ定ム

前項ノ器具及建物ハ市町村ニ於テ之ヲ設備スヘシ

第十三條　消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村ノ負擔トス

第十四條　（削　除）

第十五條　（削　除）

第十六條　此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十六條ノ二　府縣知事ハ地方ノ狀況ニ依リ此ノ規則ノ全部若クハ一部ヲ準用シ水災ノ警戒防禦ノ爲メ水防組ヲ設ケ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ兼ネシムルコトヲ得

第十七條　此ノ規則ハ沖繩縣及東京市ニ適用セス但シ第七條ハ東京市ニモ之ヲ適用ス

第十八條　北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ

東京府郡部ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ警視總監之ヲ行ヒ警部長ノ職務ハ警察署長之ヲ行フ

第十九條　此ノ規則中市町村ニ係ル規定ハ北海道ノ區及町村制第百十六條ニ依レル町村組合ニ準用ス

四　消防組規則施行細則

（大正四年八月縣令第卅五號）

（參考の爲め著者の在勤せる山梨縣の縣令を添付す）

第一章　通　則

第一條　市町村ニ於テ消防組ヲ設置セムトスルトキハ市町村長ハ左ノ事項ヲ具シ市町村會ノ決議書ヲ添ヘ知事ニ申請スヘシ

其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一、設置スヘキ市町村名其ノ區域及戸數

二、消防組ノ名稱及組員ノ數

三、部ヲ設クルトキハ其ノ部名及區域戸數竝ニ部員ノ數

四、機械器具建物ノ名稱及其ノ員數竝ニ建物ノ位置

五、給與スヘキ諸手當金額及被服ノ種類員數

第二條　前條ニ依リ消防組ヲ設置又ハ變更シタルトキハ之ヲ告示ス

第三條　消防組ノ名稱ハ其ノ所在ノ市町村名ヲ冠スヘシ但シ部ニ分チタルトキハ何消防組第何部ト稱ス

第四條　消防組ノ組織ハ左ノ如シ

一、組　頭　一名

二、小　頭（消防手十五名乃至二十五名毎ニ一名ヲ置ク）

三、消防手　三十五名以上

第五條　部ニ分チタルトキハ各部ニ部長ヲ置キ小頭ヲ以テ之ニ充テ消防手三十五名以上ヲ以テ組織ス

第六條　消防組ニハ左ノ係員ヲ置ク

一、管槍係

二、纏係

三、喞筒係

四、給水係

五、消火栓係

六、梯子係

七、信號係

八、傳令係

九、救助係

十、破壞係

十一、給與係

十二、旗手及高張提灯係

蒸滊喞筒ヲ設備スル消防組ニ在リテハ前項ノ外蒸滊喞筒係放水係ヲ置ク

各係員ハ組頭ニ於テ之ヲ定メ其ノ氏名ヲ所轄警察署長ニ報告スヘシ

第七條　消防組ニハ救護班ヲ設クルコトヲ得

救護班ハ醫員及若干ノ組員ヲ以テ之ヲ組織シ現場ニ於ケル病傷者ノ應急救護ニ從事ス

第八條　組頭ハ二名以下ノ消防手ヲ傳令トシテ專用スルコトヲ得

第九條　消防組員ハ消防組設置區域內ノ住民ニシテ左ノ各號ニ抵觸セサル者ヨリ之ヲ採用ス

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレ滿三年ヲ經過セス又ハ經過後ト雖モ改悛ノ情ナキ者

二、懲戒處分ニ依リ消防組員ヲ免セラレ滿二年ヲ經過セサル者又ハ停職處分ヲ受クルコト二回ニ及フ者

三、禁治產者又ハ準禁治產者

四、公費ヲ以テ救助中ノ者

五、十八歲未滿ノ者

六、身體羸弱ノ者

七、酒癖アル者又ハ素行不良ナル者

第十條　消防組ニハ凡ソ左ノ機械器具及建物ヲ設備スヘシ但シ特別ノ機械器具及其ノ他ノ設備ヲ爲スノ必要アル場合ハ此ノ標準ニ據ラサルコトヲ得

機械

一、喞筒

一、消火栓用水管車

器具

一、纏

一、梯子

一、鳶口

一、水桶

一、刺叉

一、引綱

一、斧

一、圓頭鏟

一、旗（別項第六號樣式）

一、提灯（別項第七號樣式）

一、掛矢槌

一、鎌

一、唐鍬

一、喇叭

一、鐵製熊手

一、鉈

一、救助袋

一、擔架

建物

一、機械器具置場

一、詰所

一、警鐘付火ノ見

消防組ヲ部ニ分チタルトキハ前項ニ準シ各部ニ機械器具及建物ヲ設備スヘシ

第十一條　消防機械器具及建物ハ組頭ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第十二條　被服機械器具建物等ノ修理引替又ハ補給ヲ要スルトキハ組頭ニ於テ所轄警察官署長ノ承認ヲ得テ市町村長ニ申出ツヘシ

第十三條　消防組ニハ左ノ簿册ヲ備ヘ組頭ニ於テ之ヲ整理スヘシ

一、組員名簿（別項第一號樣式）

二、機械器具及建物臺帳（別項第二號樣式）

三、手當受拂簿（別項第三號樣式）

四、貸與品臺帳（別項第四號樣式）

五、水利調査簿及其ノ圖面（別項第五號樣式）

六、日誌

七、消防組沿革誌、消防組々織以來ノ沿革ヲ記ス

第十四條　消防組ニハ土地ノ狀況ニ依リ一個又ハ數個ノ參集地ヲ定メ組頭ヨリ所轄警察官署長ニ報告スヘシ但シ參集地ハ火ノ見設置ノ場所又ハ器具置場ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十五條　消防組ハ所轄警察官署長ノ指揮監督ニ屬シ警察部長之ヲ總監ス但シ其ノ區域二以上ノ警察官署ノ管轄ニ跨ルトキハ上席ノ警察官署長之ヲ指揮監督ス

第十六條　消防組又ハ組員ハ其ノ職務ニ關シ何等ノ名義ヲ以テスルモ所轄警察官署長ノ承認ナクシテ集會運動シ又ハ金錢等ノ寄贈ヲ受ケ若ハ寄附金ヲ募集シ又ハ義務ヲ負擔スルコトヲ得ス

第十七條　消防組員ハ素行ヲ愼ミ紀律ヲ嚴守シ常ニ技術ノ訓練ニ努ムヘシ

第十八條　機械器具及被服等ハ消防組トシテ行動スル場合ノ外使用スルコトヲ得ス但シ冠婚葬祭其ノ他儀式ニ參列スルトキハ此ノ限ニアラス

第十九條　消防組ノ演習ヲ定期及臨時ノ二種トシ所轄警察官署長之ヲ行フ定期演習ハ毎年二回臨時演習ハ必要ニ應シ之ヲ施行スルコトヲ得

第二十條　警察官署長ハ毎年一月消防組ノ出初式ヲ行フコトヲ得

第二十一條　警察部長又ハ警察官署長ハ日時場所ヲ指定シ消防組員ノ全部又ハ一部ヲ招集シ學理及實地ノ講習ヲ行フコトアルヘシ

第二十二條　火災場ニ於テ警察官吏臨場セサルトキハ市町村長又ハ組頭小頭ニ於テ點檢シ其ノ人員ヲ所轄警察官署長ニ報告スヘシ

第二十三條　警察官署長ハ市町村長ト協議シ應援區域ヲ定メ豫メ之ヲ組員ニ示達スヘシ

警察官署長ハ應援區域外ト雖モ災害ノ狀況ニ依リ出場ヲ命スルコトヲ得

第二十四條　所轄警察官署長ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ執ネシムルコトヲ得此ノ場合ハ消防組規則及本則ヲ準用ス

前項ノ場合ハ巡視係ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　市町村長又ハ消防組頭ニ於テ消防事務ニ關シ知事又ハ警察部長ニ差出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由シ所轄警察官署ニ差出スヘキ書類ハ巡査駐在所ヲ經由スヘシ

第二章　命免及服務

第二十六條　消防組頭ハ警察部長部長小頭消防手ハ警察官署長之ヲ命免ス

第二十七條　組員ニシテ左ノ各號ニ該當スルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二、陸海軍ノ現役ニ服シ又ハ充員召集ニ應シタルトキ
三、所在不明トナリタルトキ
四、區域外ニ轉住シタルトキ
五、第九條第三號第四號ニ該當スルニ至リタルトキ

第二十八條　組頭ハ所轄警察官署長ノ命ヲ承ケ組員ヲ指揮監督ス
小頭ハ組頭ヲ補佐シ部下組員ノ監督ニ任ス組頭事故アルトキハ上席ノ小頭ニ於テ其ノ事務ヲ代理ス
消防手ハ小頭以上ノ指揮監督ヲ承ケ各自擔任ノ職務ニ從事ス

第二十九條　組頭ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル組員アルトキハ速ニ所轄警察官署長ニ報告スヘシ
一、職務上拔群ノ功勞アル者又ハ組員ノ模範ト爲ルヘキ行爲アル者
二、死亡又ハ職務ノ爲メ負傷セル者
三、疾病ニ依リ引籠一箇月以上ニ亘リ又ハ重患ニ罹リ職務ニ堪ヘサル者
四、正當ノ事由ナクシテ火災警防訓練演習等ニ出場セサル者又ハ懲戒ニ附スヘキ者
五、第二十七條ニ依リ失職シタル者

第三十條　組員勤務中ハ左ノ事項遵守スヘシ
一、規定ノ服裝ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ指揮者ニ申出ツヘシ
二、指揮ナクシテ濫リニ建造物ヲ破壞シ又ハ竹木ヲ伐採シ若ハ消火栓ヲ拔クヘカラス
三、他組又ハ他部ト持場ヲ爭ヒ又ハ互ニ妨害スヘカラス
四、喧嘩其ノ他粗暴ニ渉ル所爲アルヘカラス
五、濫リニ飲食ヲ爲スヘカラス

六、指揮ナクシテ濫リニ消口標ヲ揭クヘカラス
七、點檢後ニ非ラサレハ退場スヘカラス
八、使用シタル機械器具ハ即時叮嚀ニ掃除シ檢査ヲ受クヘシ
九、其ノ他指揮者ニ於テ命令シタル事項

第三十一條　組員ハ火災ノ警鐘アリタルトキハ迅速ニ規定ノ服裝ヲナシ分擔ノ機械器具ヲ携ヘ現場ニ駈付クヘシ但シ組頭ハ便宜輕裝シテ出場スルコトヲ得
應援ノ爲メ出場スルトキハ參集地ニ集合シ警察官吏市町村長又ハ組頭小頭ノ指揮ヲ待ツヘシ

第三十二條　喞筒水管車其ノ他ノ機械器具ヲ連搬スルトキハ懸聲ヲ爲シ又ハ鈴ヲ振リ夜間ニ在リテハ提灯ヲ用ユヘシ

第三十三條　組頭更迭シタルトキハ五日以內ニ後任者ニ事務ノ引繼ヲ爲シ又方連署ヲ以テ所轄警察官署長ニ報告スヘシ但シ組頭死亡シタルトキハ上席ノ小頭ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條　組員ニシテ二十日以上服務シ能ハサルトキハ組頭小頭ハ警察官署長ニ消防手ハ組頭又ハ小頭ニ屆出ツヘシ

第三章　信號

第三十五條　水火災ノ信號ハ左ノ如シ
一、火急信號　連打　○—○—○—○—○—○
消防設置區域內又ハ隣接五丁以內ニ出火アルトキ之ヲ報ス
二、近火信號　二點打　○—○　○—○　○—○

前號以外ノ應援區域內ニ出火アルトキ之ヲ報ス

三、遠火信號　三點打　○—○—○　○—○—○　○—○—○

應援區域以外ノ出火ニシテ應援ヲ要スルトキ之ヲ報ス

四、鎭火信號　一點打　○　○—○　○　○—○

二點打　○　○—○　○　○—○

鎭火ノトキ之ヲ報ス

五、演習信號　四點打　○—○—○—○　○—○—○—○　○—○—○—○

演習ノトキ之ヲ報ス

六、水災信號　六點打　○—○—○—○—○—○　○—○—○—○—○—○

水災ノトキ之ヲ報ス

第三十六條　信號ハ信號係ニアラサレハ點鐘スルコトヲ得ス但シ警察官吏組頭小頭ノ命ヲ受ケタルトキ又ハ區域內ノ火災若ハ水災ニシテ急迫ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四章　消防線

第三十七條　出火場ヲ距ル凡ソ一町ノ場所ヲ消防線トス

第三十八條　警察官吏ハ濫リニ消防線內ニ入ラムトスル者アルトキハ之ヲ制止シ又ハ該線內ニ入リタル者アルトキハ之ヲ線外ニ退去セシムルコトアルヘシ

第三十九條　左ニ掲クル者ノ外消防線內ニ立入コトヲ得ス

一、消防線內ニ居住シ又ハ建物ヲ有スル者

二、警察官吏ニ於テ軍隊、官吏、公吏、議員、郵便局員、電氣及瓦斯會社ノ社員屬員醫師其他救護ニ從事スル者

等ニシテ消防線內ニ入ルノ必要アリト認メタル者

三、警察官吏ニ於テ消防線內ノ居住者又ハ建物所有者ノ親族知己等ニシテ之カ援助ヲ爲スノ必要アリト認ムル者

四、警察官吏ニ於テ消防線內ノ官公署學校社寺病院會社等ニ通勤シ又ハ關係アリト認ムル者

前項ノ者ト雖モ消防上必要アルトキハ消防線外ニ退去ヲ命スルコトアルヘシ

第四十條　消防線內ニ在ル者ハ總テ警察官吏ノ指揮ニ從フヘシ

第五章　給　與

第四十一條　市町村ニ於テ消防組ニ給與スル手當ハ左ノ區別ニ據ルヘシ

一、月手當

二、出場手當

三、辨當料

四、療治料

五、傷痍手當

六、癒疾扶助料

七、死亡祭祀料

八、遺族扶助料

九、功勞賞與

第四十二條　消防組ニ給與スヘキ被服ハ左ノ如シ第一號乃至第三號ハ別項第八號樣式ニ依ル

一、半纏　管槍係ニハ刺子長半纏ヲ給スルコトヲ得

二、股　引
三、頭巾又ハ帽子
四、手　袋
五、足　袋
六、帶

第四十三條　救助係ハ別項第九號樣式ノ徽章ヲ傳令ハ幅三寸ノ白布ヲ左腕上部ニ附スヘシ
組頭小頭並ニ蒸汽喞筒係ハ別項第十號樣式ニ據ル被服ヲ用ユルコトヲ得

第四十四條　被服ノ保存期限ハ市町村長ノ定ムル所ニ依ル

第四十五條　故意又ハ過失ニ依リ消防器具若ハ貨與品ヲ亡失毀損シタルトキハ之ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第六章　表彰及懲戒

第四十六條　消防組又ハ其ノ部ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ金馬簾ノ使用ヲ認許シ別項第十一號樣式ノ認許狀ヲ授與ス但シ一回一條ニ限ル
一、紀律嚴肅調練優秀ニシテ他ノ模範タルモノ
二、災害救護上拔群ノ功勞アルモノ

第四十七條　金馬簾使用ノ認許ヲ得タル消防組又ハ部ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ認許ヲ取消シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ
一、紀律ヲ紊亂シ訓練衰退セリト認メタルトキ
二、變災ニ際シ動作他ニ劣リ又ハ過失怠慢ノ廉アリタルトキ

第四十八條　組員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ別項第十二號樣式ニ據ル感狀ヲ授與シ又ハ金品ヲ併與シテ其ノ名譽ヲ表彰ス
一、十年以上勤續シ功勞アル者
二、五年以上勤續シ紀律嚴肅勤務精勵且ツ消防ニ關スル技術ニ熟達シタル者

第四十九條　組員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ懲戒ス
一、警察官吏又ハ指揮者ニ反抗シ若ハ其ノ命令ヲ遵守セサルトキ
二、職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
三、紀律ヲ紊亂シ又ハ消防組ノ體面ヲ汚損スル所爲アリタルトキ

第五十條　消防組員ノ懲戒ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ行フ
一、免　職
二、停　職
三、譴　責

本則ニ依リ感狀ヲ受ケタル者ニシテ前項ノ懲戒又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ感狀ヲ褫奪ス

第五十一條　消防組又ハ其ノ部及組頭ノ表彰及懲戒ハ所轄警察官署長ノ具申ニ依リ警察部長之ヲ行ヒ小頭及消防手ノ賞罰ハ所轄警察署長之ヲ行フ

第五十二條　表彰又ハ懲戒セラレタルトキハ組頭ヨリ組員ニ周知セシムヘシ

附　則

明治三十一年五月山梨縣令第二十一號消防組規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前ニ設ケタル消防組ノ機械器具及被服等ニシテ本則ニ適合セルモノハ大正六年十二月三十一日迄ニ本則ニ依リ改定スヘシ

但シ前項ノ期限滿了ニ際シ機械器具及被服等改定シ難キ特別ノ事由アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ認可ヲ受ケ從來ノモノヲ使用スルコトヲ得

第一號樣式

組員名簿

住所 身分	氏名 年齡	年月日生	履歷 職業	任命年月日	罷免年月日	職名	所屬	分擔	賞罰	住所 身分	氏名 年齡	年月日生	履歷 職業	任命年月日	罷免年月日	職名	所屬	分擔	賞罰

第二號樣式

機械器具及建物臺帳

機械器具ノ部

名稱	員數	購求年月日	摘要
喞筒			
吸管	甲臺		放水距離何間何尺一時間ノ吸水量何百何十石製作所購入價額何百何圓
水管	乙臺		甲トアルハ佛蘭西形乙トアルハ獨逸形丙トアルハ折衷形ヲ示ス
附筒	丙臺		
管鎗	本		口徑何吋何分何十尺
螺旋廻	挺		口徑何吋何分何十尺
屬	本		替口何分何箇
器具	挺		單口何挺双口何挺
水槌	挺		
注油器	箇		
梯子	挺		
又	挺		何間何十尺
剌	挺		何々
大形斧	挺		何々
小形斧	挺		
何々			
何々			

名稱	位置	建設年月日	摘要
建物之部			
機械器具置場及詰所	何市町村大字何々番地（戶）		間口何間奥行何間屋上葺料及下敷ノ種類
火ノ見櫓及火ノ見梯子			高サ何間何十尺警鐘付
纏組部組			
指揮旗			
組旗			
部旗			
高張提灯組張部張			
騎馬提灯			
何々張			

記載例

機械器具及建物ハ口別トナスヘシ修理シタルトキハ其ノ事由ヲ朱書シ亡失ノトキハ朱抹スヘシ

蒸汽喞筒ハ別ニ附屬品臺帳ヲ設ケ品目員數ヲ記載スヘシ

第三號樣式

手當受拂簿

年月日	受入金額	支拂金額	差引殘額	摘要
年月日	二〇〇〇〇			何月何日何所失火出場手當何人分
年月日		一八五〇〇	一五〇〇	同上何某外何人渡
年月日		一五〇〇		同上何某外何人渡
年月日	一五〇〇			何某賞與金
年月日		一五〇〇		同上渡
年月日	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇		消防手何某死亡祭祀料即日何某渡

記載例

一、本簿ハ會計年度毎ニ調製シ其ノ年度ヲ附記スヘシ

二、本簿ノ外受拂ニ關スル證憑書類ヲ備ヘ置クヘシ

第四號樣式

貸與品臺帳

品目	箇數	受入年月日	貸與年月日	貸與者氏名	受印	摘要
						保存期限何年何月迄

記載例

亡失又ハ返納ノトキハ其ノ年月日及事由ヲ破損修理シ保存期限短縮シタルトキハ摘要欄ニ朱記シ亡失返納ニ係ルモノハ其ノ品目ヲ朱抹スヘシ返納ノトキハ受入ト看做シ更ニ別座ニ記入シ保存期間ヲ朱書スヘシ

第五號樣式

水利調査簿

名稱	番號	位置	所有者又ハ管理者氏名	備考
井戸	第號	何市町村大字番地(戸)		何小路ヨリ裏又ハ正門ヨリ入ルヲ便トス
泉	水第號	同		
堀	井第號	同		
溝	渠			
消火栓	第號	同		
何	々			
何	々			

第六號樣式

消防組旗　竪二尺横三尺、白地、上部ニ赤線二條、其上ナルモノノ巾三寸部ナキトキハ此線ノミ、其下ナルハ巾一寸部アルトキハ一部毎ニ此小線一條ヲ加フ、線ノ下ニ『何消組第何部』ト横ニ記ス

組頭旗　竪一尺二寸横一尺五寸白地ニシテ上部ニ巾二寸ノ黑線、其下ニ各巾一寸赤線二條

部長旗　竪一尺二寸横一尺五寸、白地ニシテ上部ニ巾二寸ノ黑線其下ニ巾一寸ノ赤線一條其下ニ『何々消防組第何部』ト横ニ記ス

第七號樣式

消防組提灯　型、騎馬提灯上部ニ巾三寸巾一寸ノ赤線二條『何消防組第何部』ト記ス部ナキトキハ大線一條ノミトス、部アルトキハ一部毎ニ小線一條ヲ加フ。

消防組員提灯　型、弓張、上部ニ巾一寸、巾五分ノ二條下部ニ巾五分二條ノ赤線、但下部ノ線ハ組頭ハ二條トシ、小頭ハ一條、消防手ハナシ、上部ノ線、部ナキトキハ大線ノミトス、部アルトキハ一部毎ニ小線一條ヲ加フ。

表ニ『何消防組第何部』ト記シ、裏ニ組頭、小頭、消防手ノ文字ヲ記入ス

第八號樣式

半纏　肩大線巾前背合シテ四寸赤線。小線巾一寸赤線。大小二線ノ間白線巾二分。地質紺又ハ黑。

襟字ハ右左同文字ニシテ白字トス、何消防組第何部役名ヲ記ス。襟ニ白線ハ部アル組ニ用ヒ一部毎ニ一線ヲ加フ一線ノ場合ハ巾二寸、二線ノ場合ハ巾一寸五分、三線以上ハ巾一寸以下トス。背ノ紋ハ白地トシ直徑約六寸外縁白地二分ヲ置キテ丸ノ中ニ赤字ヲ以テ消防組名ノ頭字一字ヲ表ハス

股引　地質紺無地

帽　獨逸型、地質濃紺絨、徽章ハ徑一寸二分、丸ニ變體山字一字（山梨縣ノ山）組頭ハ徽章ノ下ニ二條ノ赤線、小頭ハ同一條、蒸汽喞筒係ハ帽子上下ノ介線赤、消防手ハ横章黄絨巾一分一條。

上衣表　ジャケツ型

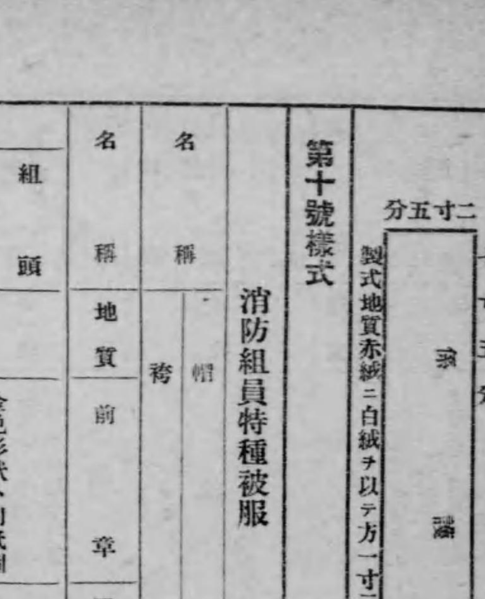
袖章　組頭ハ太線一條小線三條、部長タル小頭ハ大線一條小線二條、小頭ハ大線一條小線一條、蒸汽喞筒係大線一條

袴　普通

雨覆　普通

頭巾　地質ハ紺又ハ黑ニシテ上部ニ赤ノ數線アリ、消防手ハ大線巾一寸ノ一條、小頭ハ同大線一條ニ小線巾五分一條、組頭ハ同大線同一條ニ同小線二條、各線條間ノ巾ハ凡テ二分宛、其下ニ白地ニシテ圈内ニ組名ノ頭字一字ヲ赤ニテ表シ部アル組ニテハ一部毎ニ下端ニ白線ヲ表ス、一線ノ場合ハ巾二寸、二線ノ場合ハ巾一寸五分三線以上ノ場合ハ巾一寸以下トス。

第九號樣式



第十號樣式

消防組員特種被服

名稱	帽	組頭	黑革	黑革幅三分釦ハ眞鍮圖形無地徑三分
		小頭		
		蒸汽喞筒係		
	袴	濃紺絨		
名稱	地質	金色形狀ハ別紙圖面ノ如シ（圖畧）		
	前章			
	眼庇			
	頤紐			
	外套	衣	横章	品質	制式	形狀
			組頭	銀線幅一分	赤絨幅一分	三條
			小頭	二條		
			蒸汽喞筒係	一條		
						如圖（畧）

名稱	地質	袖章	釦	制式	形狀
衣					
組頭	濃紺ノ絨又ハ小倉地	大線一條 小線三條	眞鍮圓形無地徑七分五厘胸部ニ五個ヲ附ス	襟幅一寸二分袖長サ腕關節ニ止ル長サ髖骨上端ヨリ下ルコト四寸五分兩脇ノ下腹ヲ裂クコト四寸物入前面左右並左胸部ニ各一個ヲ附ス	如圖（畧）
部長タル小頭		大線一條 小線二條			
小頭		大線一條 小線一條			
蒸汽喞筒係		大線一條			
袴					
組頭	同前	大線四分巾 小線一分巾 黑色ジヤバラ	大黑角徑八分胸部十二個收組七個ヲ附ス小黑角徑五分五厘襟部五個覆面三個後裂四個ヲ附ス	長サ靴踵ノ上際ニ止ル物入腰部ニ各一個ヲ附ス	如圖（畧）
部長タル小頭					
小頭					
蒸汽喞筒係					
外套					
組頭	同前			長サ靴踵上際ヲ距ルコト約八寸襟幅四寸袖長サ腕關節ヨリ延ルコト五分物入前面ノ左右ニ各一個ヲ附ス	如圖（畧）
部長タル小頭					
小頭					
蒸汽喞筒係					

第十一號樣式

第何號

認許狀

何消防組（第何部）

紋章

紀律嚴肅ニシテ訓練熟達シ他ノ模範タリ仍テ金馬簾一條ノ使用ヲ認許ス

大正　年　月　日

警察部長名　印

第何號

認許狀

何消防組（第何部）

紋章

大正　年　月　日

火災ノ際消防ニ從事シ組員一致能ク職責ヲ盡シ其ノ功勞最顯著ナリト認ム仍テ金馬簾一條ノ使用ヲ認許ス

大正　年　月　日

警察部長名　印

第十二號樣式

紋章

第何號

何消防組

職名氏名

大正何年ヨリ消防組員ト爲リ茲ニ十年（二十年、三十年）以上勤續シ職務勉勵其ノ功勞尠カラス仍テ之ヲ表彰ス

何年何月何日

警察部長名 印

紋章

第何號

感狀

何消防組

職名氏名

何年　月　日火災ノ際消防ニ從事シ能ク其ノ職責ヲ盡シ功勞顯著ナリトス仍テ感狀ヲ授與ス

大正何年月日

警察部長名 印

五　巡査點檢規則

（消防組員ニ必要ナル條文ノミ抜萃）

明治四十三年七月
內務省訓令第十一號

第一章　總則

第一條乃至第七條　省略

第二章　通常點檢

第八條　省略

第九條　號令ヲ別チ豫令、動令トス豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ快活ニ短ク其ノ間適當ナル時間ヲ存スヘシ（適當ナル時間トハ豫令ノ後動令ニテ如何ニ動作スヘキヤノ判斷準備ニ費ヤス時間ヲ云フ）

第十條　指揮官ハ號令ノ際拔刀セサルモノトス

第十一條　點檢ノ隊形ハ通常二列橫隊ニ作ルモノトス　但集合所ノ地形又ハ人員ノ多寡ニ依リ一列橫隊、縱隊、片手間隔ノ橫隊又ハ半圓形ニ作ルコトヲ得

第十二條　速步ハ一步ノ長サ踵ヨリ踵マテ二尺五寸ニシテ其ノ速度ハ一分時間ニ百十四步トス
速步ハ豫令ニテ左手ヲ自然ニ垂下シ刀柄ヲ前ニシ輕ク刀鞘ヲ押ヘ動令ニテ行進ヲ始ム、行進中ハ常ニ兩肩ヲ與スコトナク頭ヲ眞直ニ保チ右臂ヲ自然ニ振動ス

第十三條　駈步ハ一步ノ長サ踵ヨリ踵マデ二尺八寸ニシテ其ノ速ハ一分時間ニ百七十步トス
駈步ハ豫令ニテ左手ヲ以テ刀柄ヲ握ルト同時ニ右手ヲ握リ腰ノ高サニ上ケ肘ヲ後ロニシ動令ニテ行進ヲ始ム、行

進中ハ右肘ヲ自然ニ振動ス

第十四條　外套ヲ携フルトキハ雨覆ハ内ニ納メ之ヲ捲キ兩端ヲ結束シテ左肩ヨリ右腋下ニ懸クヘシ降雨ノトキハ外套ヲ着スルモ妨ケナシ　但各員一定ナラシムルヲ要ス

第十五條　省　略

第十六條　省　略

第十七條　點檢ヲ始ムルニハ指揮官先ツ左ノ號令ヲ下シ又ハ警笛ノ一長聲ヲ以テ巡査ヲ集合セシムヘシ

「集マレ！」（若二列縱隊ニ非ラサル隊形ヲ作ル必要アルトキハ集合ノ命令後高聲ニ之ヲ告知スヘシ）

此ノ集合命令ニテ巡査ハ速ニ指揮官ノ許ニ集リ之ニ面シ大凡五六歩ヲ隔テ集合順序ニ從ヒ靜肅ニ集合スヘシ

第十八條　集合ノ順序ハ左ノ如シ（第一圖參照）

身幹長短ノ順序ニ從ヒ約二尺四寸（此距離ハ前者ノ背ヨリ後者ノ胸マテヲ量ル）ノ距離ヲ隔テ二列ニ編成シ其ノ前後ニ立チタル二人ヲ伍トシ各伍中長大ナル者ヲ第一列ニ置ク列員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍トス

後列員ハ正シク前列員ニ重ナリ同方向ニ位置ヲ置ク

各列員ノ間隔ハ肘肘互ニ接觸スルコトナク行進ニ當リ手ヲ前後ニ振動スルヲ妨ケサルヲ要ス（歩ノ間隔ハ右手ヲ髖骨上ニ常テ肘ヲ側方ニ張リタルトキ輕ク右隣者ノ左臂ニ觸ルヲ度トス）

各伍ハ第一列正面ニ在リテ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス

列ノ兩翼前列ニ二名ノ嚮導ヲ置ク嚮導ハ巡査部長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ在ラサルトキハ上席巡査ヲ以テ充ツ他ノ巡査部長ハ後列ヨリ二歩ノ處ニ位置ス之ヲ押伍トス

第十九條　集合終レハ指揮官ハ順次左ノ號令ヲ下シ列員ヲ一線上ニ整頓セシム

一、氣ヲ付ケ—

此ノ號令ニテ列員ハ不動ノ姿勢ヲ取ル其ノ法左ノ如シ兩踵ヲ一線上ニ揃ヘ足尖ヲ矩形ヨリモ少シク狹ク（兩足尖ノ間隔ハ足裏ノ長サヲ以テ度トス）開キ兩膝ハ凝ラサスシテ之ヲ伸ハシ上體ハ正シク腰ノ上ニ落チ付ケ且少シク前ニ傾ケ兩肩ハ稍々後ロニ引キ一樣ニ之ヲ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ掌ヲ股ニ接シ指ハ輕ク伸ハシテ之ヲ竝ヘ中指ヲ袴ノ縫目ニ當テ頭ハ正シク眞直ニ保チ兩眼ハ遠ク前面ノ一點ヲ直視ス

二、番　號

此ノ號令ニテ右翼首位ノ者ヨリ單簡明瞭最モ迅速ニ一ト發唱シツヽ頭ヲ左ニ廻ハシ次位ノ者卽チ二番ニ唱ヘ遂リ直ニ頭ヲ正面ニ復ス斯ノ如クニシテ順次末尾ニ至ル

三、嚮導三歩（二歩、四歩、五歩）前ヘ—

此ノ號令ニテ兩翼嚮導ハ示サレタル歩數ヲ速歩ニテ前進ス指揮官ハ直ニ駈歩ヲ以テ右嚮導ノ右側二歩ノ處ニ立チ兩嚮導ヲ一線上ニ位置セシメ列員整頓ノ基準線ヲ作ルモノトス

四、右ヘ準ヘ

此ノ號令ニテ列員ハ三歩（二歩、四歩、五歩）前進シ最後ノ一歩ヲ縮メ少シク整頓線ノ後方ニ止リ次ニ頭ヲ右（左）ニ廻ハシ腦ヲ屈ムルコトナク小歩ニテ靜ニ整頓線ニ就ク後列及押伍列ニ在ル者ハ正シク前列員ニ重リテ右方（左方）ニ整頓ス兩翼嚮導ハ己レニ近キ者ヨリ遂次速ニ何番後ヘ何番前ヘト呼ヒ整頓ヲ正スヘシ

五、直　レ

此號令ニテ列員ハ頭ヲ正面ニ復ス

六、二列横隊ナルトキハ左ノ號令ヲ下ス

前列六歩前へ―押伍列四歩後へ進メ、（押伍列後へ―ノ號令ハ押伍列アルトキニ限リ附加スルモノトス）

此ノ號令ニテ前列員ハ左足ヨリ六歩前進シ押伍列ハ四歩後進ス

二十章　前條ノ動作終レハ點檢官第一列ノ右翼前面ヨリ左翼ヲ通過シ背後ニ回ハリ（第二列及押伍ニ及ホシ）服裝、刀鞘、靴、手套、下襟、姿勢ヲ檢査シ終リテ定位ニ就クヘシ　但指揮官ハ點檢官ニ隨行スルモノトス

第二十一條乃至第三十一條　省略

第三十二條　指揮官ハ列ヲ解散セシムル爲「解レー」「進メ」ノ號令ヲ下シ列員ハ點檢官及指揮官ニ對シ一齊ニ室外ノ敬禮ヲ爲シ解散スヘシ

第三章　物品點檢

第三十三條　省略

第三十四條　省略

第三十五條　物品配置ノ場所ハ篠メ一定シ置キ一見檢査ニ差支ナキ樣配列シ受檢者ハ其ノ前ニ整列スヘシ

第三十六條　物品ノ配列了レハ點檢官ハ指揮官ヲ隨ヘ列ノ右翼（左翼）ヨリ檢査ヲ爲シ終リテ指揮官ハ物品ヲ收メシメ「解レ」「進メ」ノ號令ヲ下シ第三十二條ノ如ク敬禮ヲ行ヒ解散スヘシ　但人員少數ナルトキハ此ノ號令ヲ畧スルコトヲ得

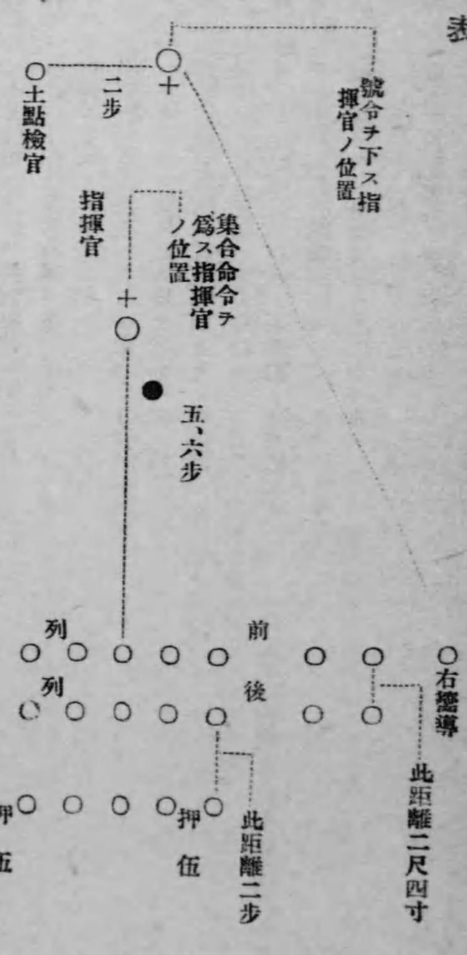
第三十七條　省略

附則

省略

別表

第一圖



第二圖
第三圖　省略

六　消防組點檢規則（明治三十三年五月　内務省訓令第十六號）

第一條　消防組ノ點檢ハ人員、服裝、姿勢及機械器具其ノ他携帶品ノ保存使用ノ適否ヲ檢査スルモノトス

第二條　點檢ヲ行フトキハ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者ヲ點檢官トシ組頭又ハ小頭ヲ指揮者トス　但シ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者在ラサルトキハ組頭ヲ點檢者トシ小頭ヲ指揮者トス

第三條　消防組員ノ集合整頓ノ方法ハ巡査點檢規則ヲ準用ス

第四條　指揮者タラサル小頭ハ前列右翼ニ若シ餘列アルトキハ同左翼ニ列シ尙ホ餘列アルトキハ後列ノ中央二歩ノ距離ニ於テ押伍ト爲ルヘシ

第五條　點檢ノ際列員ハ一定ノ服裝ヲ爲シ手袋アルトキハ之ヲ著用スヘシ

但シ頭巾ヲ携フルトキハ其ノ紐ヲ頭ニ掛ケ之ヲ脊部ニ負フヘシ

第六條　點檢ハ消防組當番員出務ノ際現場引上ケノ際及演習ノ際之ヲ行フモノトス

現場引上ケノ際機械器具、被服其ノ他携帶品破損ノ有無ヲ檢査スルニ嚴重ノ注意ヲ要ス

第七條　機械、器具ニシテ使用シタルモノハ洗濯ノ後修繕シタルモノハ竣工ノ後警察官ニ於テ點檢スヘシ其ノ在ラサルトキハ組頭又ハ小頭ニ於テ點檢スヘシ

第八條　喞筒其ノ他機械ニシテ組立テアルモノハ毎年行フ可キ演習ノ内其ノ一回ニ限リ之ヲ分解シ内部ノ檢査ヲ行フモノトス

前項ノ檢査ハ可成タケ演習ノ際ニ於テ之ヲ行フヘシ

七　消防手給與規則（大正七年三月三十日　内務省令第二號）

第一條　消防手ノ月俸ハ十一圓乃至二十五圓トス　但シ消防曹長タル消防手ニハ二十八圓迄ヲ給スルコトヲ得

教習中ノ消防手ノ月俸ハ九圓乃至十三圓トス

第二條　初メテ消防手ヲ命セラレタル者ノ月俸ハ十五圓以下トス

判任官以上ノ官職ニ在リタル者巡査又ハ消防手ノ職ニ在リタル者ニシテ消防手ヲ命セラレタル場合ニハ第一條ニ定メタル範圍内ニ於テ其ノ前俸給額以内ノ月俸ヲ給スルコトヲ得

第三條　月俸ノ增給ハ三圓ヲ超ユルコトヲ得ス十五圓以上ノ月俸ヲ受クル消防手ニハ六箇月ヲ經過スルニ非サレハ增給スルコトヲ得ス十五圓未滿ノ月俸ヲ受クル消防手ニシテ十五圓以上ニ增給スル場合モ亦同シ

第四條　消防曹長タル消防手及特別ノ技能ヲ有スル消防手ニハ第二條及第三條ヲ適用セス

第五條　消防手ニシテ陸海軍ニ召集セラレ陸海軍ニ於テ俸給又ハ給料ヲ受クル者ハ其ノ間月俸ノ支給ヲ停止ス　但シ陸海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料ノ月額消防手月俸額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額以内ニ於テ補給ヲ爲スコトヲ得

第六條　特別ノ技能ヲ有スル消防手ニハ一箇月二十圓以内ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得

第七條　非番ノ日ニ於テ臨時勤務ニ服シタル消防手ニハ一日五十錢以内ノ勤務手當ヲ給スルコトヲ得

第八條　訓練中ノ消防手ニハ一個月七圓以内ノ訓練手當ヲ給スルコトヲ得

第九條　消防手ニハ一箇月十圓以内ノ宿料ヲ給スルコトヲ得

第十條　消防手ニシテ水火災地ニ出場シタルトキハ一回ニ付十錢以内ノ出場手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條　月俸ハ新任、增俸及減俸ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ、退職ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄日割ヲ以テ之ヲ給ス　但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ全額ヲ給ス

一、職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ由リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル者

二、廢廳ノ爲退職シタル者
三、身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタル者
四、在職中死亡シタル者

第十二條　病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス　但シ公職ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　巡査俸給支給規則ハ消防手ニ之ヲ準用ス

第十四條　手當金及宿料ノ給與ニ關スル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第十五條　本令ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

警視廳消防手給與規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル月俸額及特別手當ヲ給セラルヽモノトス

本令施行ノ際現ニ大阪市消防員タル者ヨリ大阪府消防手ニ採用スル場合ニ於テハ第二條ヲ適用ス

八　消防手採用規則（大正七年三月三十日　内務省訓令第二號）

第一條　消防手ハ學術試驗及體格檢査ニ合格シタル者ヨリ採用スルモノトス
但シ廳府縣長官ニ於テ第三條ノ試驗科目ヲ修得シタリト認ムル者ニ對シテハ學術試驗ノ全部又ハ一部ヲ省畧スルコトヲ得

第二條　消防手志願者ハ年令二十年以上四十五年未滿ノ男子ニシテ左ノ各號ニ該當セサル者タルコトヲ要ス
一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者　但シ所犯情狀ノ酌量スヘキ者ニシテ滿期後三年ヲ經過シ改悛ノ狀著シト認メラルルトキハ此ノ限ニ在ラス
二、懲戒處分ニ依リ官職ヲ免セラレ二年ヲ經過セサル者
三、禁治產者又ハ準禁治產者
四、家資分散者又ハ破產者

第三條　學術試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ
一、讀書作文　假名交リ文及普通往復文
二、算術　加減乘除
三、筆蹟楷書又ハ行書

第四條　體格檢査ハ左ノ各號ニ適合スルヲ以テ合格トス
一、體質健全四肢完具セル者
二、視力及聽力完具セル者
三、握力二十五キログラム以上ノ者
四、言語明瞭ニシテ充分發聲ニ堪ユル者

第五條　學術試驗及體格檢査ハ消防練習所長之ヲ施行スルモノトス

第六條　消防手ニ對シテハ採用ノ際其ノ遵守スヘキ事項ノ宣告ヲ行ヒ及之ニ對スル誓書ヲ徵スヘシ
前項ノ宣告事項及誓書ノ樣式ハ廳府縣長官之ヲ定メ內務大臣ニ報告スヘシ

第七條　本令ハ判任官待遇ヲ受クル消防手ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

警視廳消防手採用規則ハ之ヲ廢止ス現ニ大阪市消防員タル者ハ本令施行ノ際ニ限リ之ヲ大阪府消防手ニ採用スルコトヲ得

九　消防手配置及勤務概則（大正七年三月三十日　内務省訓令第三號）

第一條　消防手ハ消防曹長並機關、操船、調馬、放水、喇叭勤務及教習中ノ消防手ニ區別シ其ノ配置及勤務ノ方法ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第二條　消防曹長タル消防手ハ兼テ消防士及消防機關士ノ職務ヲ補助ス

第三條　土地ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ消防署又ハ消防分署ノ下ニ消防出張所ヲ設クルコトヲ得

消防出張所ニハ消防曹長タル消防手ヲ配置シ所屬ノ消防手ニ對スル監督ノ責ニ任セシムヘシ

第四條　消防手ハ隔日勤務トス　但シ消防出張所ニ配置セラレタル消防曹長ハ毎日勤務タラシムルコトヲ得

消防手ノ勤務時間ハ隔日勤務ノ者ニ在リテハ十四時間乃至十八時間トシ毎日勤務ノ者ニ在リテハ八時間乃至十二時間トス

第五條　消防手ノ當番員ニ對シテハ毎日點檢ヲ行ヒ實務及法令ノ應用ニ關スル事項ヲ訓授又ハ應問スヘシ

第六條　非常召集、水火災地出場及應援區域ニ關スル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第七條　本令施行ノ爲必要ナル規定ハ廳府縣長官之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

警視廳消防手配置及勤務概則ハ之ヲ廢止ス

十　内務省訓令第四號（大正七年三月三十日）

巡査懲罰令、巡査精勤證書授與規則、巡査看守休暇概則、巡査教習概則ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ之ヲ準用ス

消防提要附錄終

附錄　内務省訓令第四號

大正八年一月一日印刷
大正八年一月[illegible]日發行

不許複製

定價金貳圓
特價金壹圓八拾錢

著作者　山梨縣甲府市飯田町十七番地　橫山新作
發行者　東京市牛込區天神町六十五番地　早川文太郎
印刷者　東京市麴町區有樂町二丁目一番地　吉原良三
印刷所　東京市麴町區有樂町二丁目一番地　報文社

發行所　東京市牛込區天神町六十五番地　興文館
振替東京二一九三八番

376
245

終